令和７年度「専門職業人材の最新技能アップデートのための専修学校リカレント教育（リ・スキリング）推進事業」
専門職業人材の最新技能アップデートプログラムの開発
自動車業界における“業務に直結する”基礎知識・先端技術の習得プログラム開発

外国籍整備士受け入れ現場のための マネジメント研修

学校法人小山学園 専門学校東京工科自動車大学校

はじめに

本書は、文部科学省が委託した「専門職業人材の最新技能アップデートのための専修学校リカレント教育推進事業」として実施した「自動車業界における基礎知識・先端技術習得プログラム開発」の成果報告書です。

自動車業界は「100 年に一度の大変革」と言われており、電気自動車の普及、自動運転技術の進化、環境配慮の増加などの変化に直面しています。これに伴い、自動車整備士は新技術やデジタルツールの使用方法を継続的に学ぶ必要があり、営業職においても最新の車両技術や市場トレンドに常にアップデートされた知識を習得することが求められています。そのため、リカレント教育・リスキリングの必要性が急速に高まっています。

本校は、1969 年に開校した自動車整備士養成の工業系専門学校で、２万人以上の卒業生を自動車業界に送り出しています。また、同法人内には「建築・インテリア」、「情報・IT・Web」、「AI・IoT・データサイエンス」、「バイオテクノロジー」、「環境」などの分野を持つ専門学校、東京テクニカルカレッジを設置し、幅広い分野の職業に通じた教育ノウハウを有しています。また、125 社（2026 年２月現在）の企業が加盟する「後援会」があり、就職や教育課程編成委員会などの活動で学園を支援いただいています。

本事業では、企業のニーズを踏まえ、本校が積み上げてきた「分かりやすく」「体系的に」学ぶ教育ノウハウを活用し、業界の人材課題解決に向けた育成プログラムを開発しています。今年度は、具体的なプログラムの開発と実証を行い、一定の成果を得ることができました。同時に、課題や汎用化に向けたヒントも得られ、今後のプログラム開発の基礎を築けたと考えています。

本報告書が多くの企業や専門学校における人材育成の参考となれば幸いです。

事業責任者
学校法人小山学園 専門学校東京工科自動車大学校
運営本部長 兼 中野校・世田谷校校長 佐藤 康夫

・はじめに

・ネパール ……7

・ミャンマー ……16

・スリランカ ……24

・ベトナム ……33

・バングラディッシュ ……41

・中国 ……48

・外国籍人材の労働災害発生状況 ……54

・外国籍整備士 ヒヤリ・ハットの事例 ……56

・自動車整備専門学校の指導から学ぶ職場の安全管理 ……59

外国籍整備士受け入れ現場のための
マネジメント研修

● 講座名

外国籍整備士を受け入れる前に学んでおきたいこと

● 講座の概要

自動車整備業界において、外国籍労働者の数は増加の一途をたどっています。
そして受け入れ側企業の多くが、外国籍整備士の採用と育成に対して課題を抱えています。
その課題解消のため、この研修ではまず、外国籍整備士に多い出身国である、ネパール、ミャンマー、スリランカ、ベトナム、バングラディシュ、そして中国。これらの国の特徴について詳しく学びます。
そして研修の後半では、外国籍整備士による労働災害の発生を防ぐためのポイントも押さえていきます。

●chapter1 はじめに

・はじめに

●chapter2 国ごとの特徴について

・ネパール
・ミャンマー
・スリランカ
・ベトナム
・バングラディシュ
・中国

●chapter3 外国籍整備による労働災害の発生を防ぐために

・外国籍人材の労働災害発生状況
・外国籍整備士 ヒヤリ・ハットの事例
・自動車整備専門学校の指導から学ぶ職場の安全管理

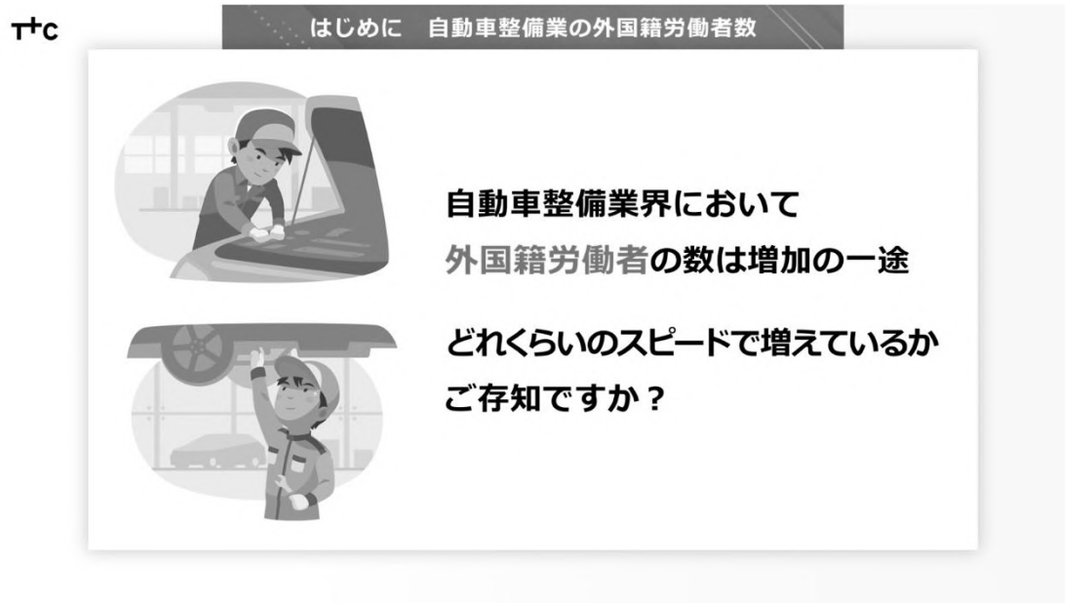
●chapter4 修了試験



■スライド１

外国籍整備士受け入れ現場のための、マネジメント研修　２０２５。

外国籍整備士の受け入れる前に、学んでおきたいこと



■スライド４

自動車整備業界において、外国籍労働者の数は、増加の一途をたどっています。

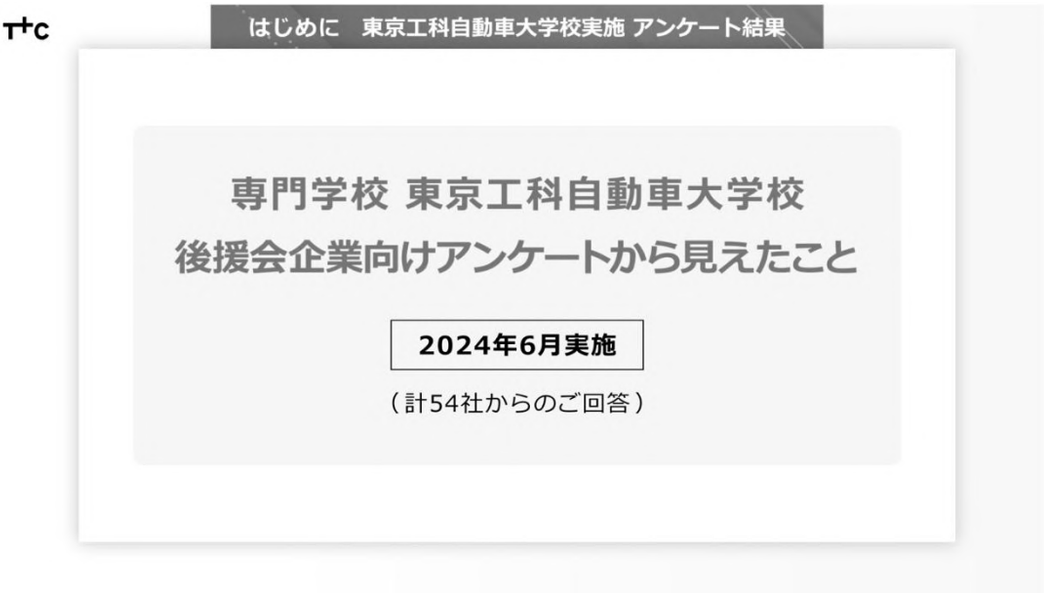
どれくらいのスピードで増えているか、ご存知ですか？



■スライド５

厚生労働省の発表している数値を見てみましょう。

このグラフにあるように、2018 年から 2024 年の、7 か年の比較でも、約 3.2 倍と、大幅に増加していることが分かりますね。



■スライド６

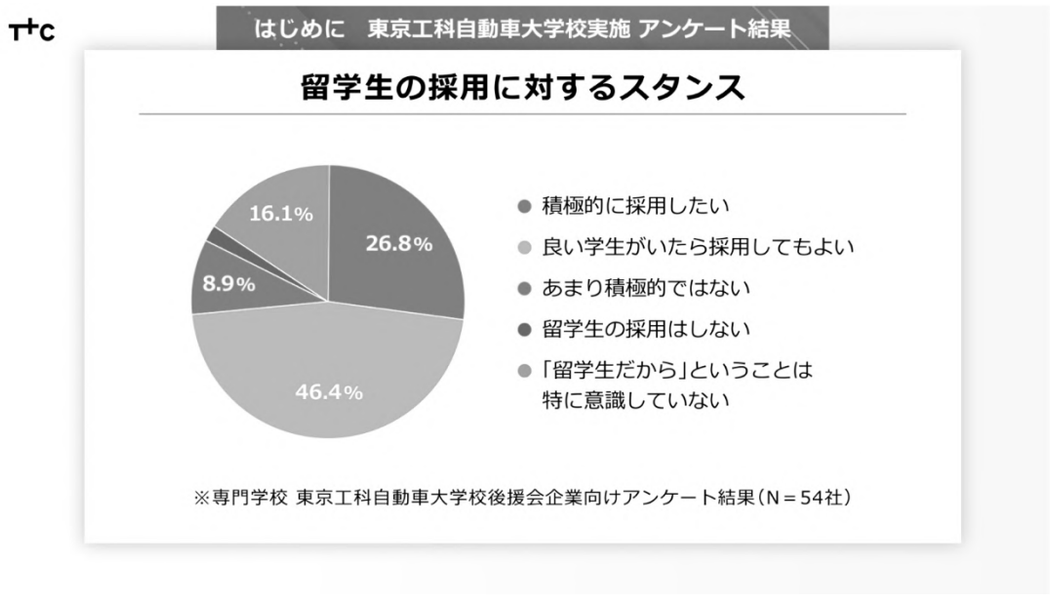
当校「東京工科自動車大学校」でも、独自に調査を行いました。

2024 年 6 月、当校を様々な面からバックアップしてくださっている後援会企業各社へ、外国籍人財に関してのアンケートを実施。

計 54 社からご回答をいただくことができました。

その回答結果を見てみましょう。

企業における外国籍人財の受け入れについて、様々な実情が見えてきます。



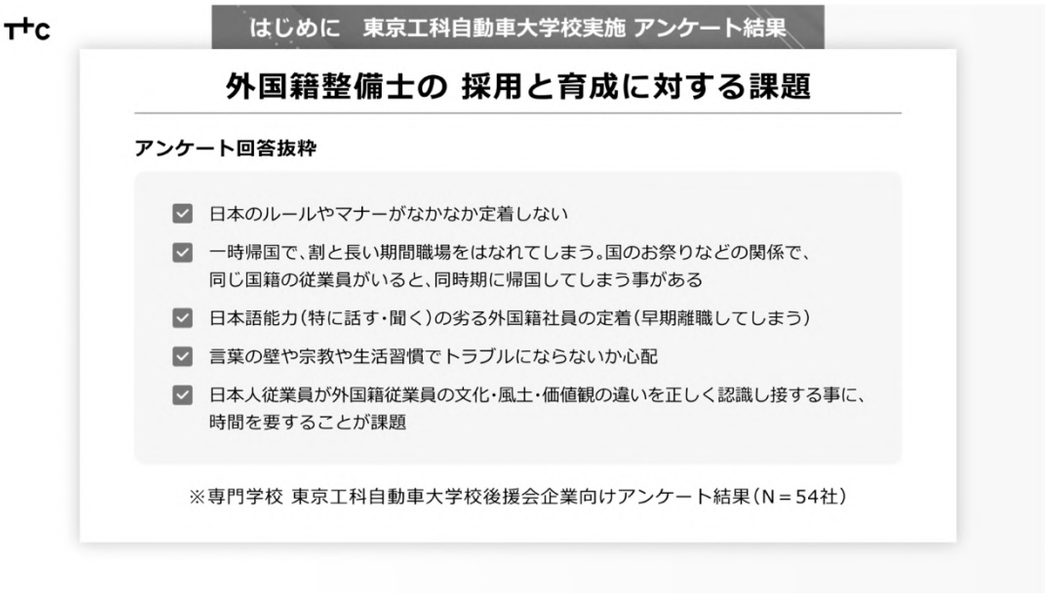
■スライド７

まず、留学生採用に対するスタンスについて尋ねたところ……。

「積極的に採用する」「良い学生がいたら採用する」「留学生と日本人に特別な違いは意識していない」などを合わせて、90%近くがポジティブな回答となっています。

多くの企業が、留学生採用に対して積極的な姿勢を示していることが分かりますね。

日本における自動車整備の現場は、今や、外国籍整備士なしでは考えられないということが、このデータからも伺えます。

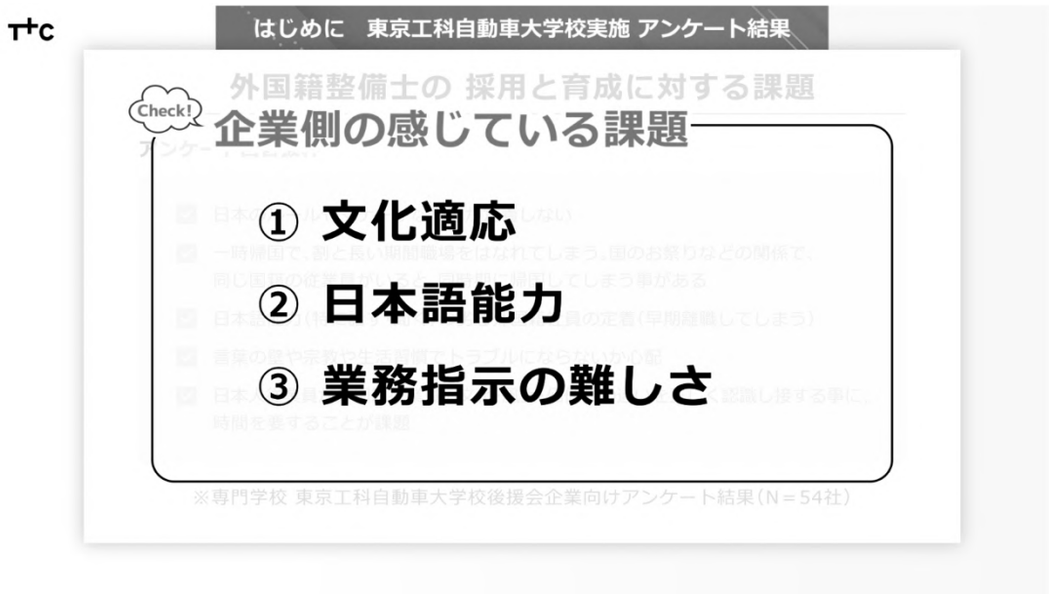


■スライド８

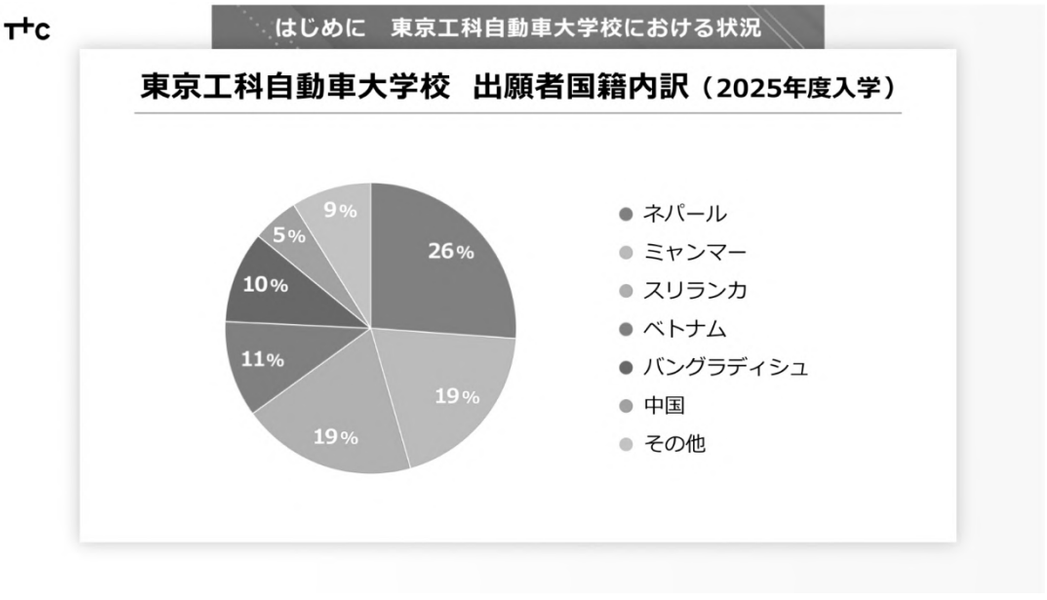
続いて、外国籍整備士の採用と育成に対する課題について尋ねています。

様々な回答がありました。

画面に挙げているものは、代表的な回答を抜粋したものです。
「日本のルールやマナーがなかなか定着しない」
「同じ国籍の従業員がいると、同時期に長期間帰国してしまう事がある」
「日本語能力の劣る外国籍社員は、早期離職してしまうことが多い」
「外国籍従業員の文化や価値観の違いを日本人従業員が正しく認識できていない」
など。



■スライド９
アンケートの結果を踏まえると、企業側の感じている課題は大きくこの３つに集約されます。
日本文化と各国の文化とのギャップをどのように埋めていくか、という文化適応の課題。
次に、外国人整備士の日本語能力が不十分であるという課題。
そして、実際の現場における業務指示が難しい、という課題です。

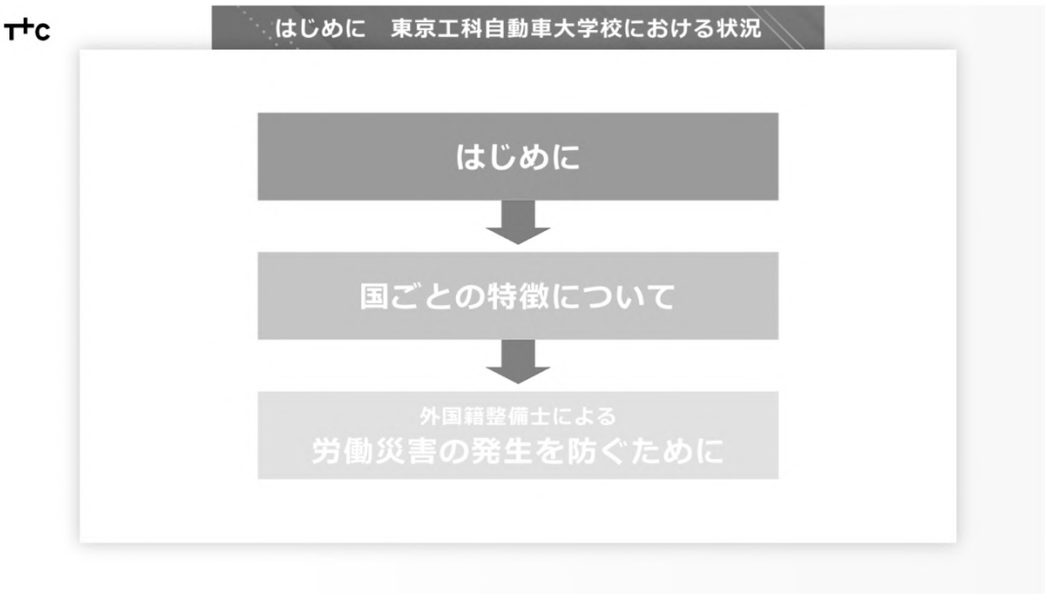


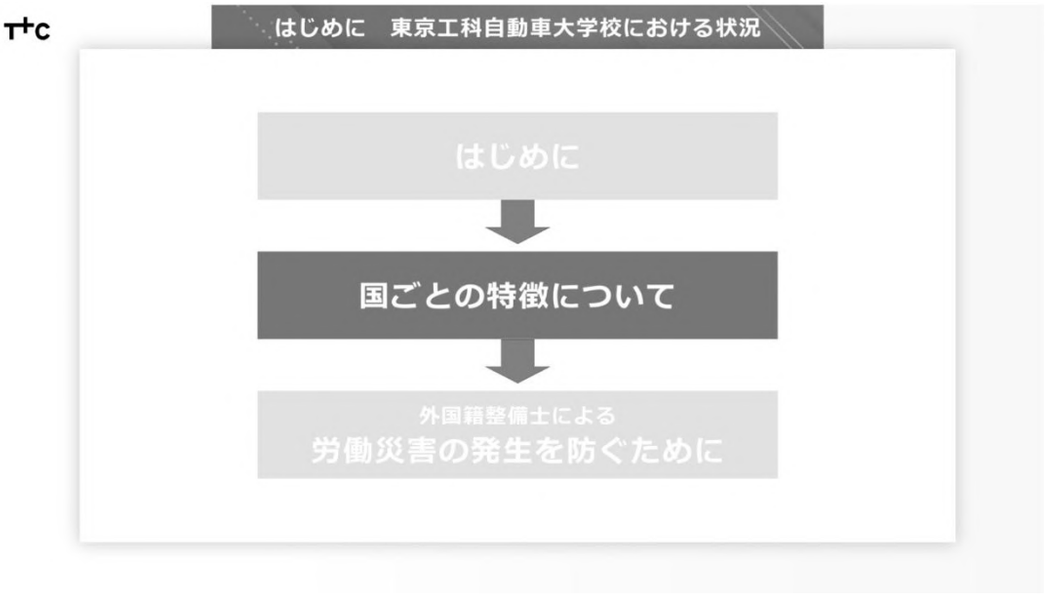
■スライド 10

続いて、東京工科自動車大学校における状況を紹介します。

このグラフは、2025 年度の選考試験に出願した留学生の、出身国の内訳です。

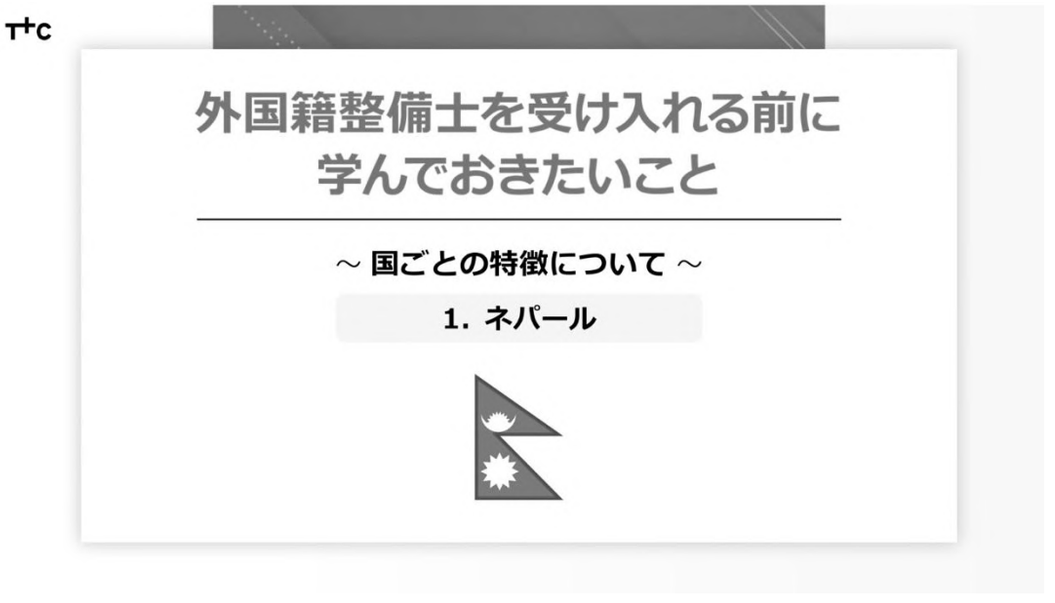
新型コロナウイルス感染症の流行前は、ベトナムや中国など、漢字圏から来る留学生の比率が高い状況でしたが、その後は、ネパール、ミャンマー、スリランカからの留学生が非常に増え、2025 年度は、そのネパール、ミャンマー、スリランカが、トップ 3 となっています。





■スライド 12

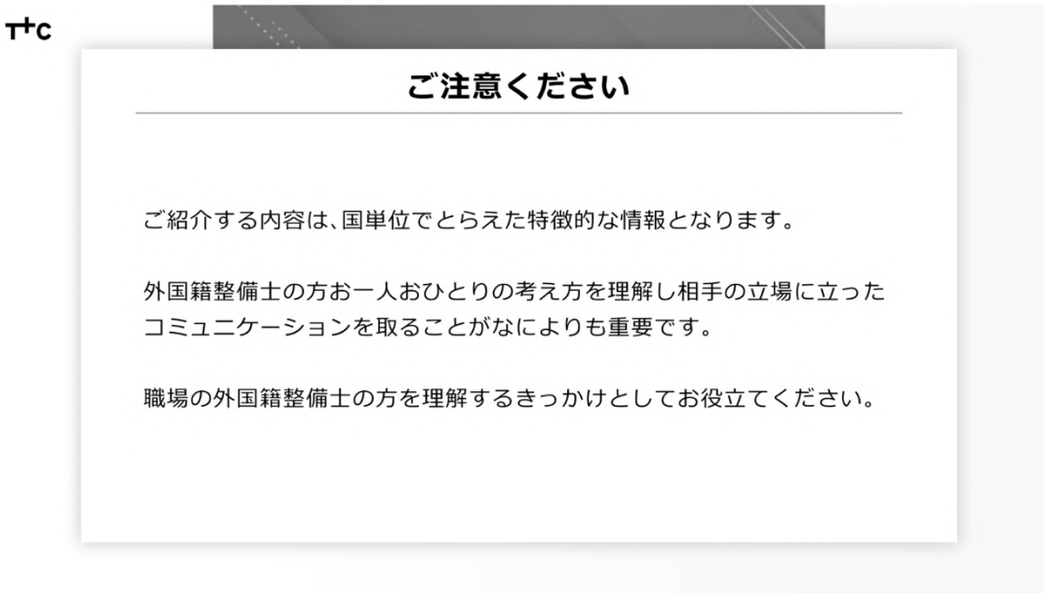
この後は、外国籍整備士に多い出身国である、ネパール、ミャンマー、スリランカ、ベトナム、バングラディシュ、そして中国。これらの国の特徴について学んでいきましょう。



■スライド 13

この章では、各国の文化的な特徴や、人々によく見られる傾向について解説します。

まず、ネパールの特徴を見てみましょう。



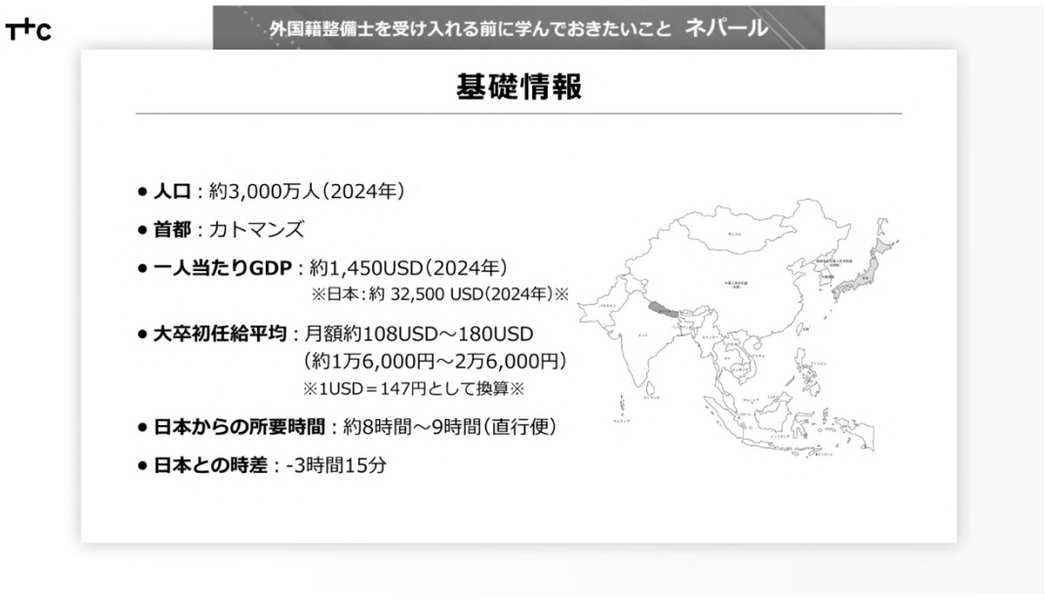
■スライド 14

なお、これからご紹介する内容は、国単位でとらえた特徴的な情報となります。

ネパール以降の国も同様です。

外国籍整備士の方お一人おひとりの考え方を理解し相手の立場に立ったコミュニケーションを取ることがなによりも重要です。

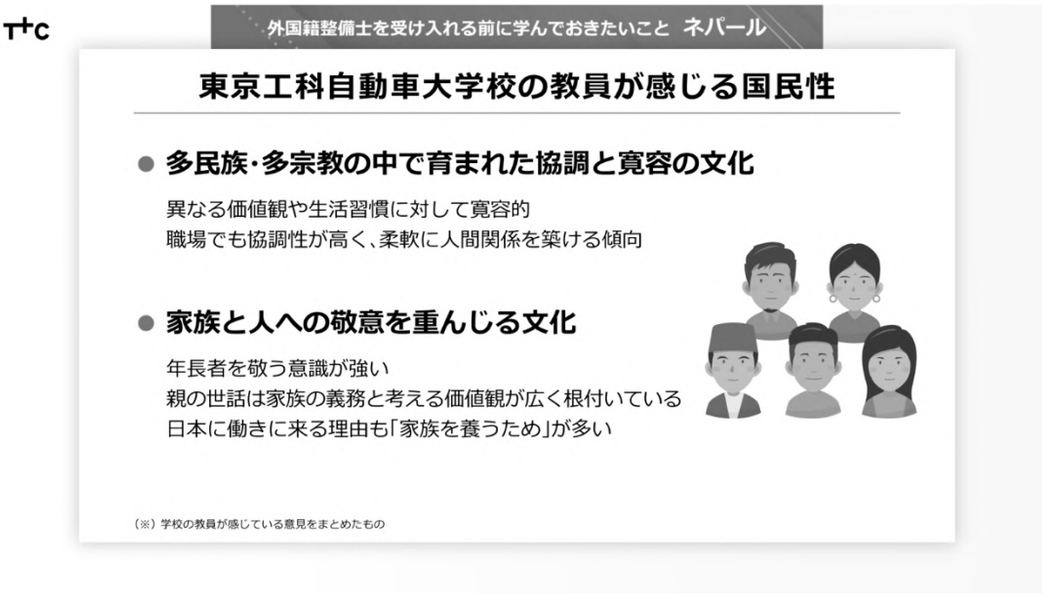
職場の外国籍整備士の方を理解するきっかけとしてお役立てください。



■スライド 15

ネパール。

人口は約 3000 万人、首都はカトマンズです。



■スライド 16

ネパールの国民性を見ていきましょう。

ただし、東京工科自動車大学校の教員が感じる特徴に絞って、お伝えします。

これは、ネパール以降の国の解説においても同様です。

まず、多民族・多宗教の中で育まれた協調と寛容の文化。

ネパール人は多民族・多宗教国家で生まれ育ったため、異なる価値観や生活習慣に対して寛容的であると言われています。

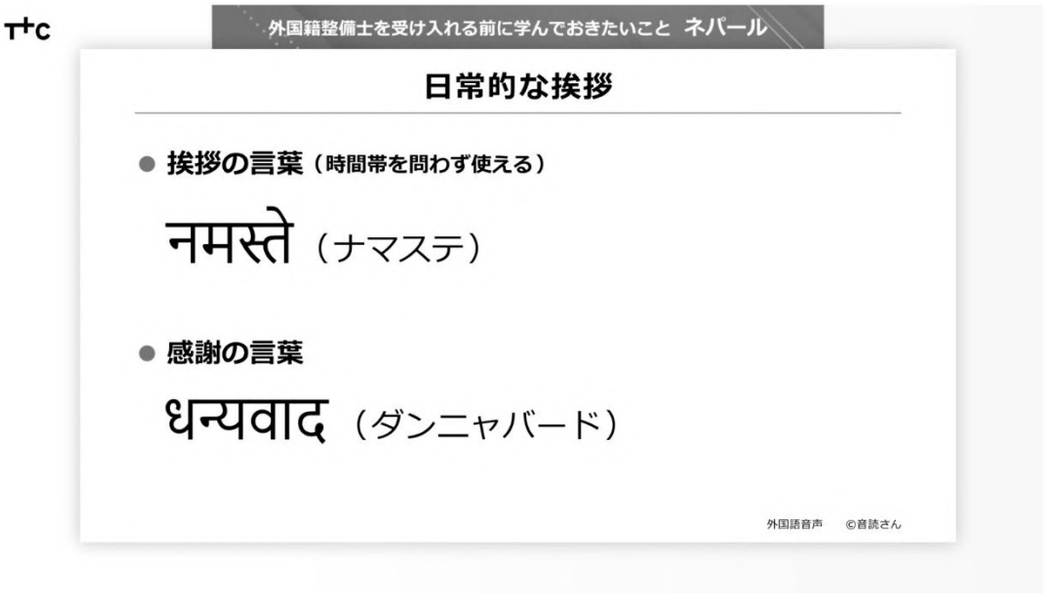
職場でも協調性が高く、柔軟に人間関係を築ける方が多いという印象です。

そして、家族と人への敬意を重んじる文化。

年長者を敬う意識が強く、親の世話は家族の義務と考える価値観が広く根付いています。

日本に働きに来る理由も「家族を養うため」という方が多い印象です。

気さくで思いやり深く、言葉が十分に通じなくても誠実に相手に向き合う姿勢が印象的です。



■スライド 17

ネパールは多言語国家ですが、公用語としてネパール語がつかわれています。

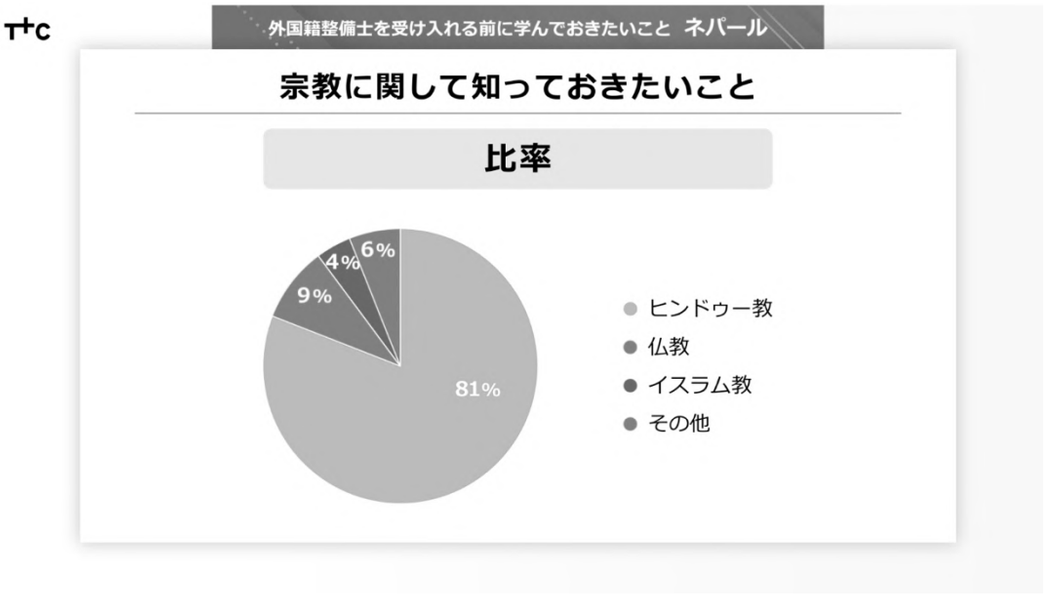
ネパール語による挨拶を紹介しましょう。

“नमस्ते（ナマステ）”（合成音声を流す）

「こんにちは」だけでなく、「おはよう」「こんばんは」「さようなら」の意味も持ち、時間帯を問わず使える便利な挨拶です。

धन्यवाद（ダンニャバード）。（合成音声を流す）

これは、ありがとうございます　という意味です

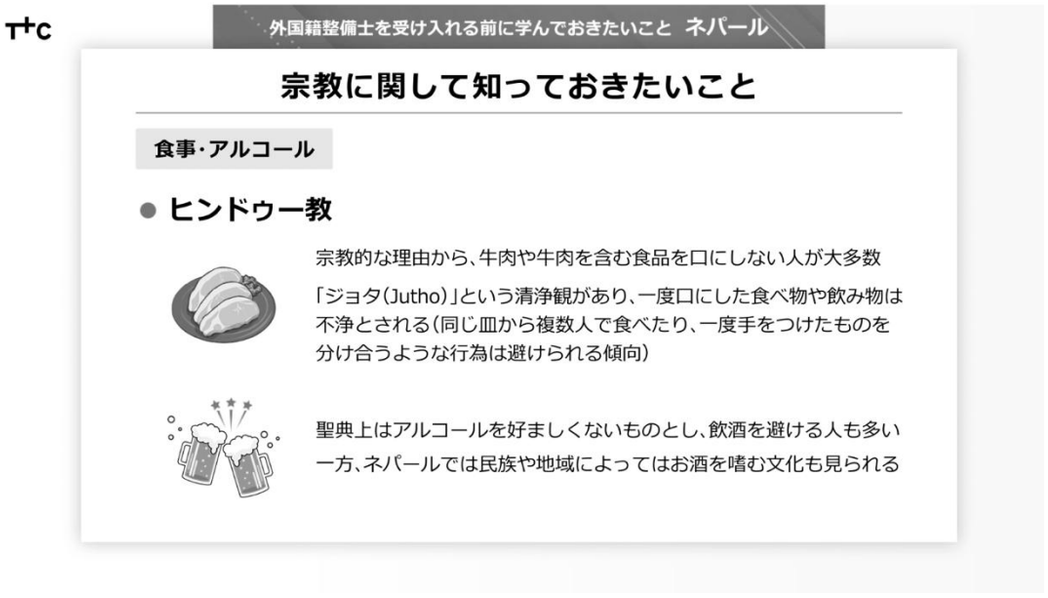


■スライド 18

主な宗教を見てみましょう。

ヒンドゥー教が圧倒的に多く、81.3%。

次に仏教が 9%、イスラム教が 4.4%という割合です。



■スライド 19

宗教ごとに、食事・アルコールに関する状況はどう異なるでしょうか。

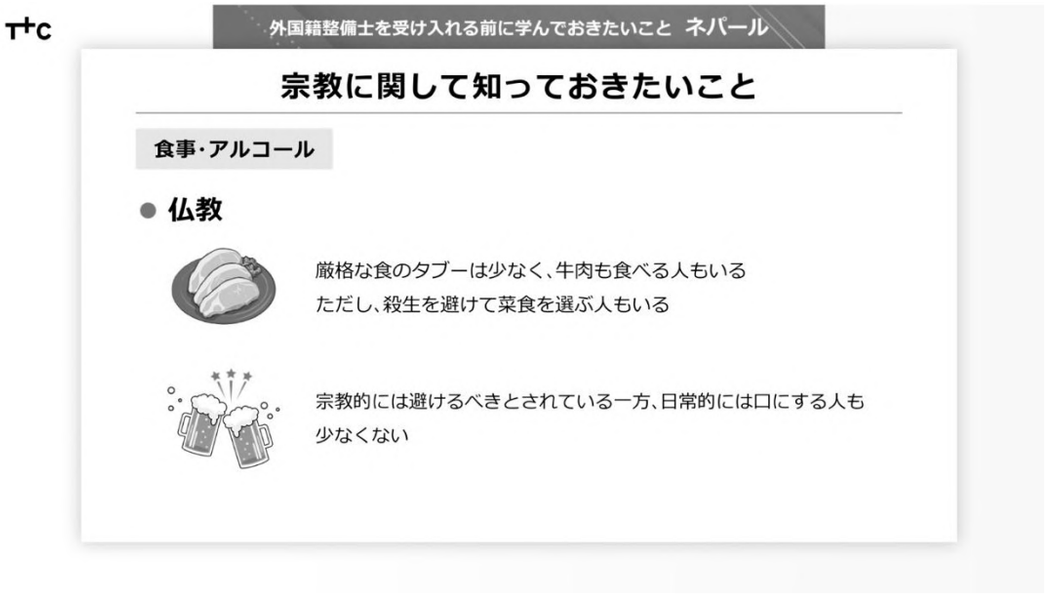
まず、ヒンドゥー教の場合。

食事については、宗教的な理由から、牛肉や牛肉を含む食品を口にしない人が大多数です。

また、「ジョタ（Jutho）」という清浄観があり、一度口にした食べ物や飲み物は不浄とされるため、同じ皿から複数人で食べたり、一度手をつけたものを分け合うような行為は避けられる傾向があります。

アルコールについては、聖典上、好ましくないものとしています。

そのため飲酒を避ける人も多い一方、ネパールでは民族や地域によってはお酒を嗜む文化も見られます。



■スライド 20

仏教の場合。

厳格な食のタブーは少なく、牛肉も食べる人がいます。
ただし、殺生を避けて菜食を選ぶ人もいます。
アルコールについても宗教的には避けるべきとされている一方、日常的には口にする人も少なくありません。

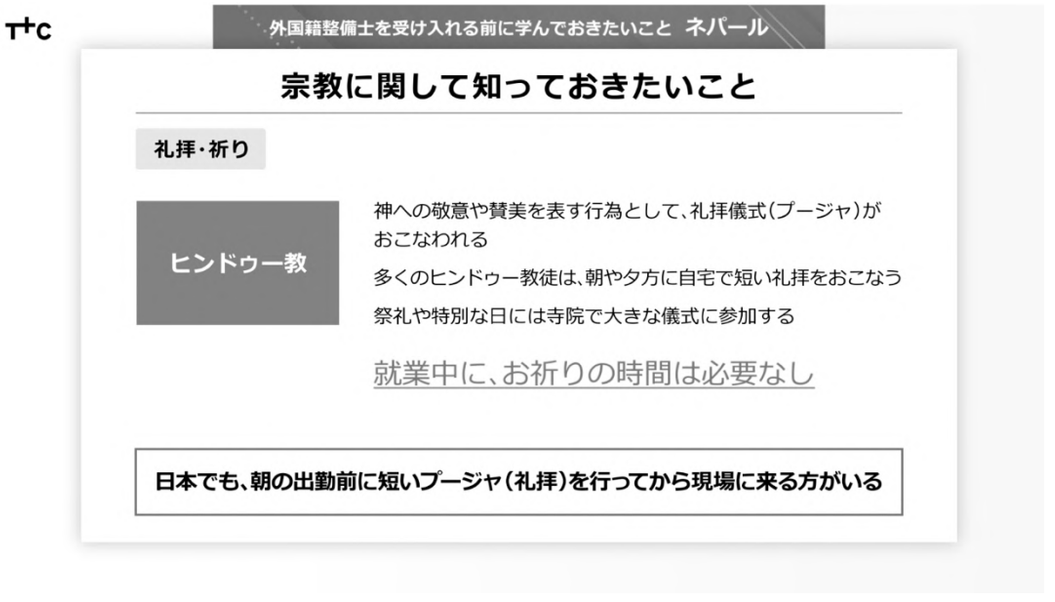


■スライド 21
そして、イスラム教。豚肉やアルコール類を含む食品を避け、ハラールという、イスラム法で許された食品のみを口にします。
また、ラマダンと呼ばれる断食（サウム）期間には、日の出から日没まで飲食を控えるなど、特有の宗教的習慣があります。
ラマダンは、イスラム暦の第 9 月にあたる約 1 か月間で、毎年時期が変わる点を押さえましょう。

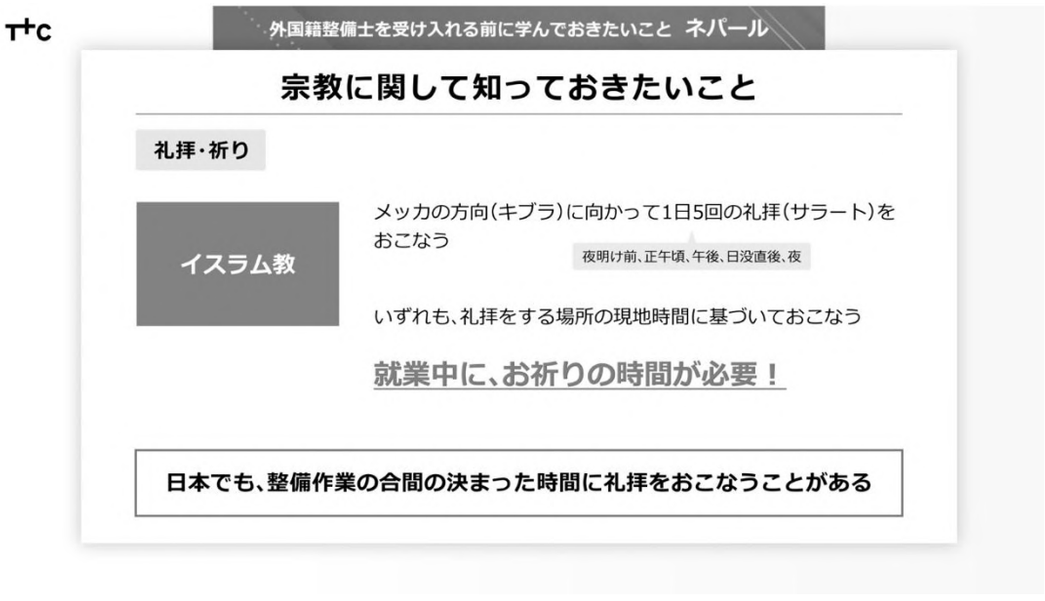


■スライド 22

このように、宗教によって避けたほうが望ましい食材があるため、ネパールの方と食事をする際は、十分、注意しましょう。
特に、ヒンドゥー教の教えが国民生活の端々に浸透しているため、ヒンドゥー教徒への食事への配慮を徹底する必要があります。
和食文化では、鍋料理や、複数人で取り分ける大皿料理は当たり前ですが、ネパールの方との会食の際には避けた方が良いと言えるでしょう。



■スライド 23
次に、それぞれの宗教の礼拝・祈りについて見ていきましょう。
ヒンドゥー教ではプージャという儀式が行われます。多くの方は朝や夕方に自宅で短く行い、祭礼や特別な日には寺院にて大きな儀式に参加します。
日本の職場でも、朝の出勤前に、短いプージャを行ってから現場に来る方もいます。
ただし、就業中にお祈りの時間を取る必要はありません。



■スライド 24

イスラム教では聖地メッカの方角に向かって、1 日 5 回の礼拝を行います。

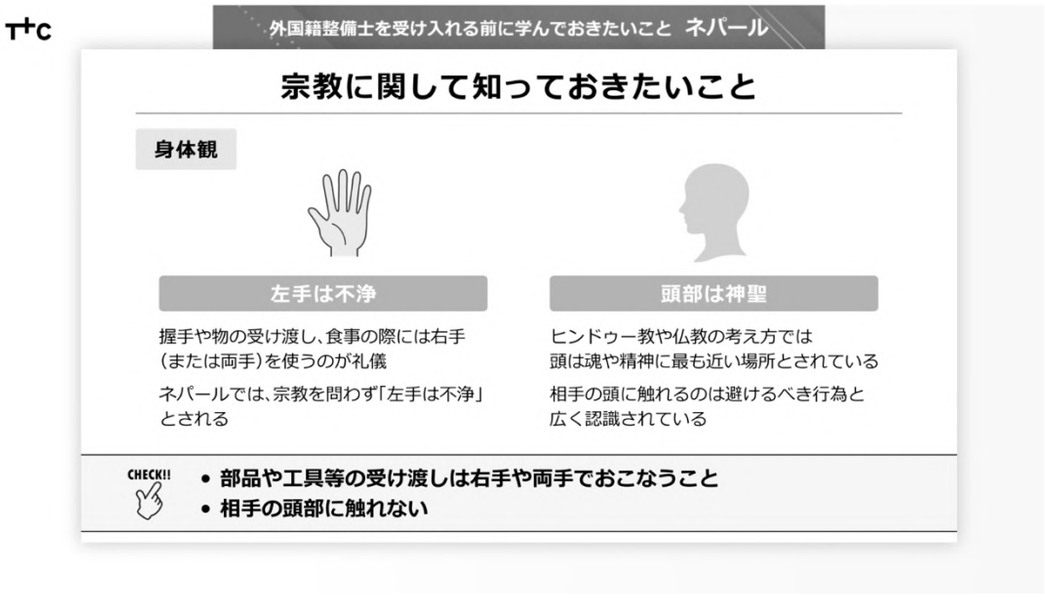
いずれも礼拝（サラート）を行う現地時間に基づいて行われます。

イスラム教の場合は、就業中にお祈りの時間が必要になると理解しましょう。

日本でも、整備作業の合間の決まった時間に礼拝を行うケースがあります。

ヒンドゥー教のプージャも、イスラム教のサラートも、本人にとってはたいへん大切な習慣です。

職場の理解が重要となります。



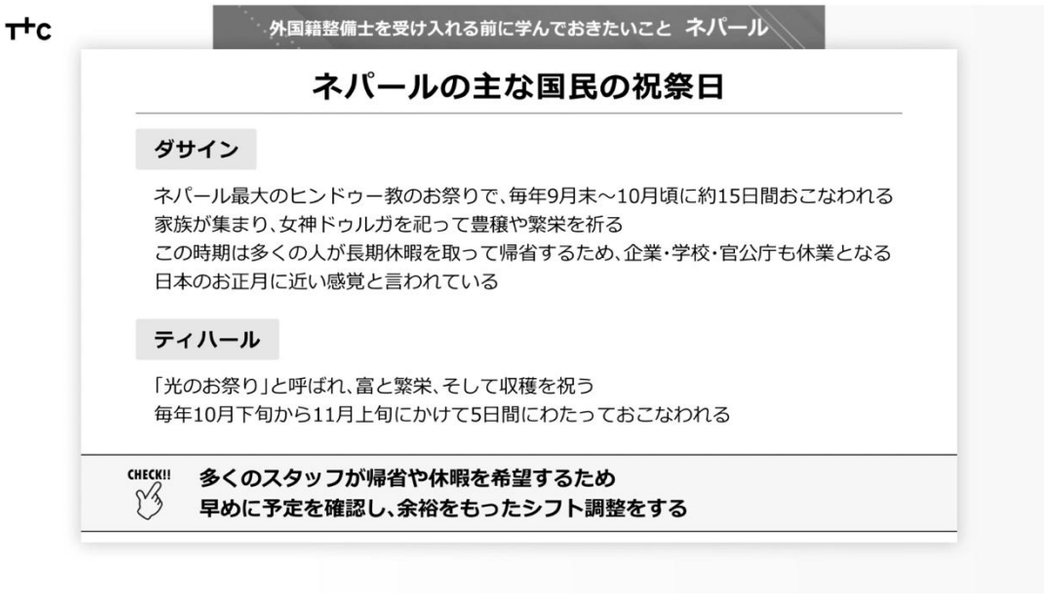
■スライド 25

次に、身体観の違いに着目しましょう。

まず、左手は不浄。

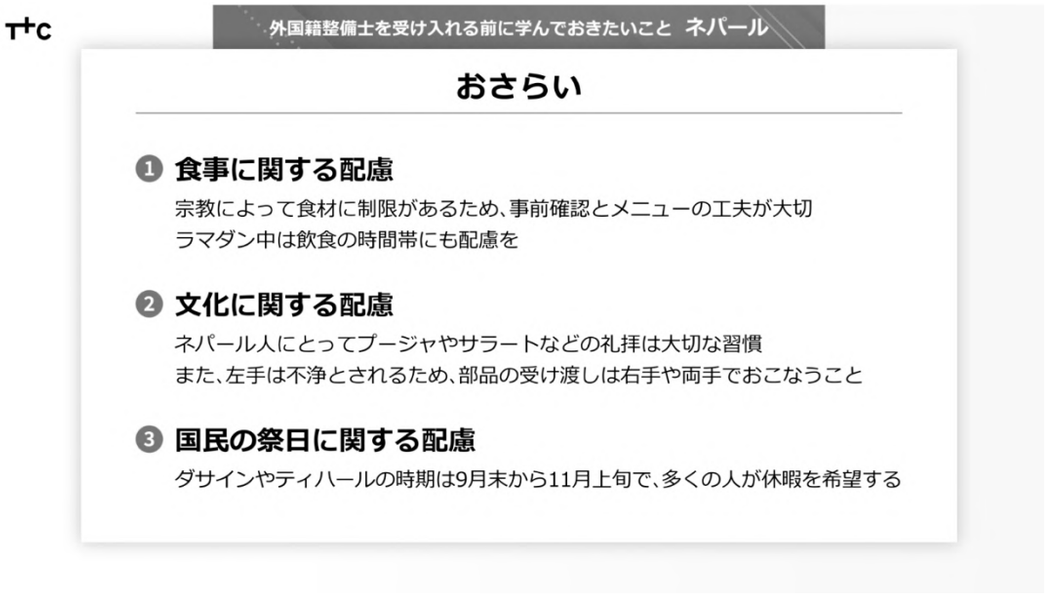
ヒンドゥー教やイスラム教にある考え方です。

握手、物の受け渡し、食事の際には右手または両手を使うのが礼儀とされています。
なお、ネパールではヒンドゥー教文化の影響が社会習慣に強く反映されているため、宗教問わず、左手は不浄という考え方が浸透しています。
頭部は神聖。
ヒンドゥー教や仏教では、頭は魂や精神にもっとも近い場所とされ、神聖な部位と考えられています。
相手の頭に触れるのは避けるべき行為と広く認識されています。
このような背景があることを押さえて、現場でも、部品や工具等の受け渡しは、右手、あるいは両手でおこないましょう。
そして、冗談や親しみからの厚意であっても、相手の頭部に触れないようにしましょう。
たとえ、帽子の汚れを取る意図などであっても、避けた方がよいでしょう。



■スライド 26
主な国民の祝祭日です。
ダサインは、ネパール最大のヒンドゥー教のお祭りで、毎年 9 月末～10 月頃に約 15 日間行われます。
家族が集まり、女神ドゥルガを祀って豊穣や繁栄を祈ります。
この時期は多くの人が長期休暇を取って帰省するため、企業・学校・官公庁も休業します。
日本でいう「お正月」に近い感覚だと言われています。

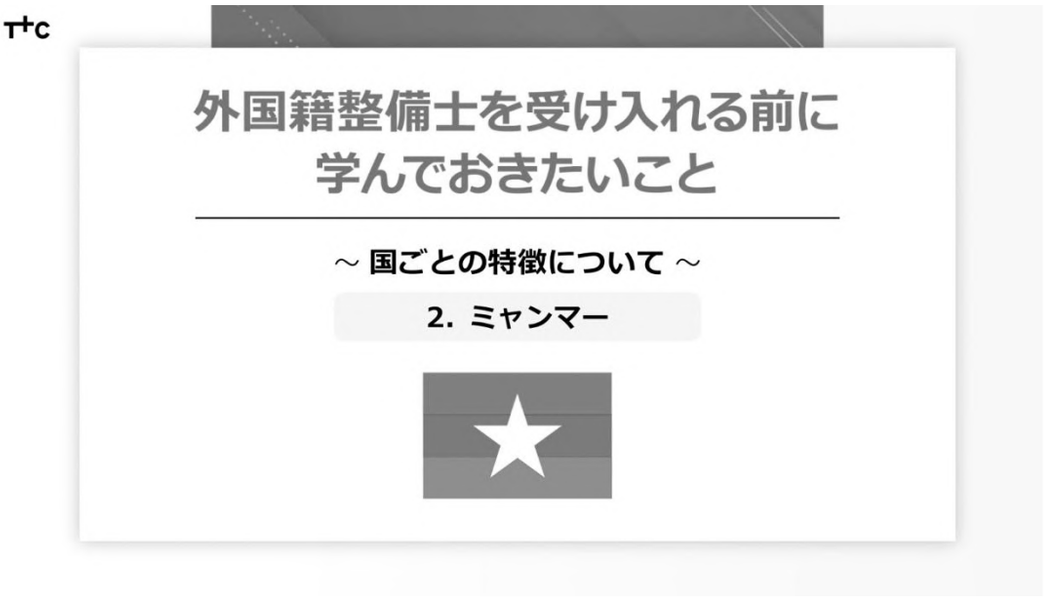
ティハールは、「光のお祭り」とも呼ばれ、富と繁栄、収穫を祝うお祭りです。
ダサインに並ぶ重要なお祭りで、5 日間に渡り行われます。
いずれもは、ネパール人にとって一年で最も大切なお祭りです。
時期が近いため、日本でいえば盆と正月とゴールデンウィークが一度に来たような盛り上がりを見せます。
この時期は多くのスタッフが帰省や休暇を希望します。
整備現場の繁忙期と重なる場合には早めに予定を確認し、余裕をもってシフトを調整しましょう。



■スライド 27

ここまでのおさらいを、確認しておきましょう。

ネパールの方への理解が深まりましたか？



■スライド 28

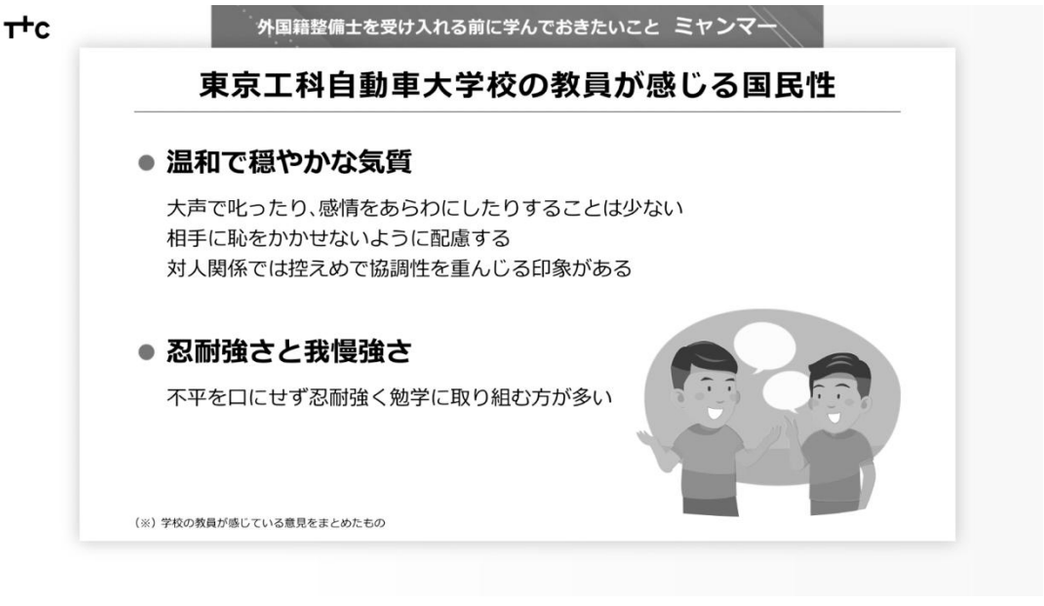
ミャンマーの特徴を見てみましょう。



■スライド 29

ミャンマー。

人口は約 5500 万人、首都はネーピードーです。



■スライド 30

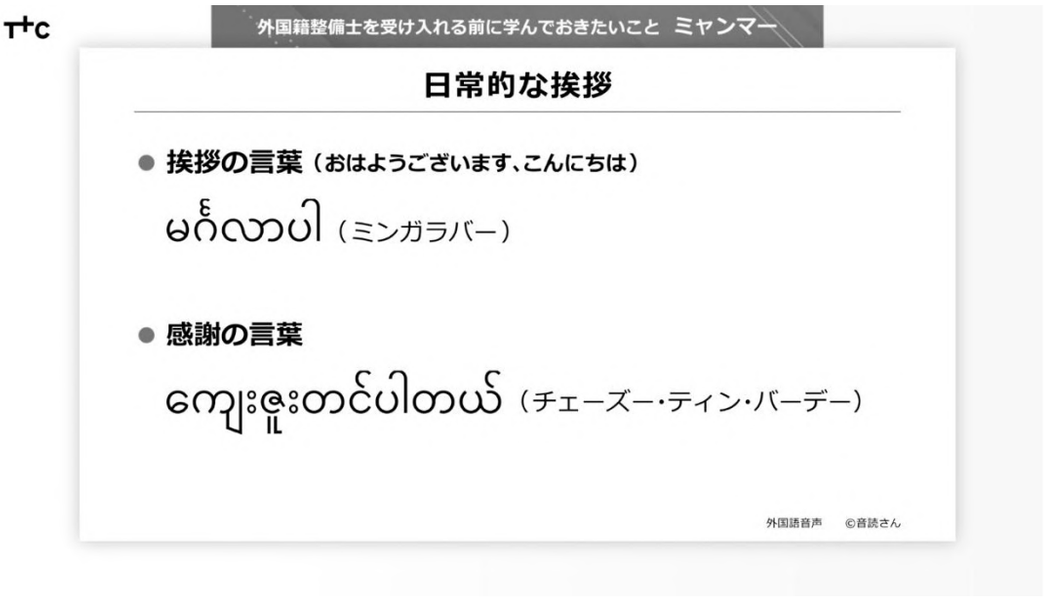
ミャンマーの国民性を見ていきましょう。

ミャンマーの人々は、温和で穏やかな性格として知られます。

大声で叱ったり感情をあらわにすることは少なく、相手に恥をかかせないように配慮する姿勢が感じられます。

対人関係では控えめで、協調性を重んじる印象があります。また、忍耐強さ、我慢強さも特徴です。

ミャンマーの不安定な政治や経済の影響が、生活環境にもおよぶ懸念があるものの、不平を口にせず忍耐強く勉学に取り組む方が多いようです。



■スライド 31

ミャンマーには 100 を超える民族が存在し、多くの少数民族語も話されていますが、公用語としてはビルマ語が使われています。

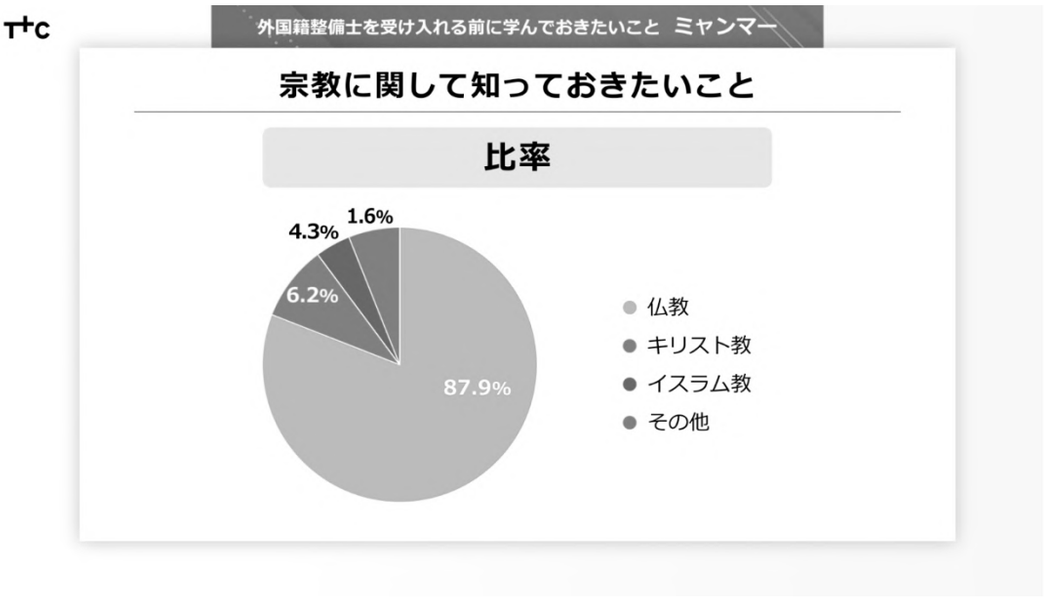
ビルマ語による挨拶を学びましょう。

おはようございます、こんにちはにあたるのが、この挨拶です。

ミンガラバー（合成音声を流す）

そして、感謝の言葉です。

チェーズー・ティン・バーデー（合成音声を流す）

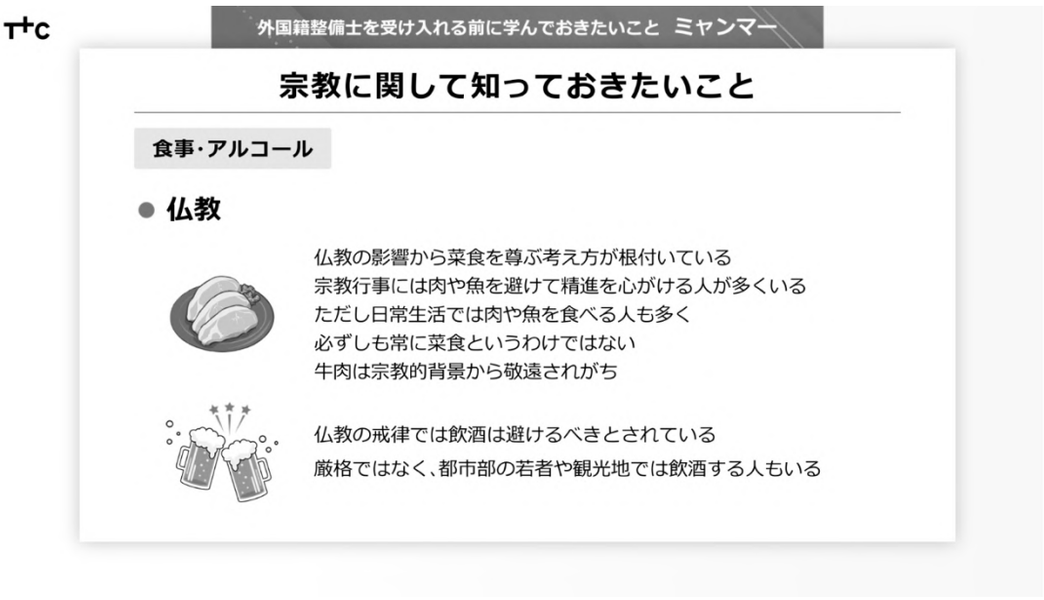


■スライド 32

主な宗教を見てみましょう。

仏教が圧倒的に多く、87.9%。

次にキリスト今日が 6.2%、イスラム教が 4.3%という割合です。



■スライド 33

宗教ごとに、食事・アルコールに関する状況はどう異なるでしょうか。

まず、仏教。

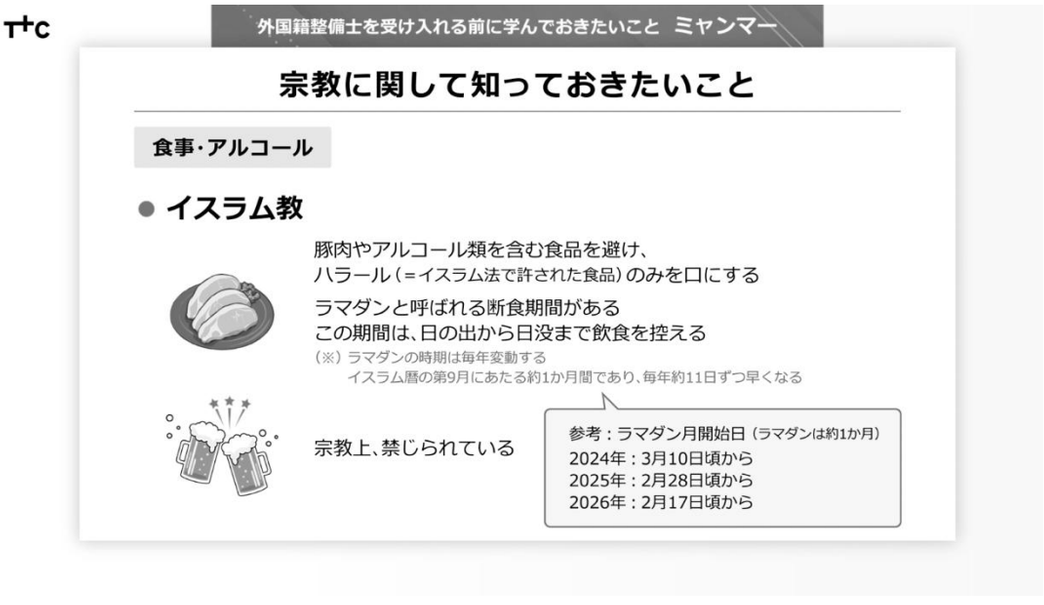
ミャンマーでは仏教の影響から菜食を尊ぶ考え方が根付いていて、宗教行事には肉や魚を避けて精進を心がける人が多くいます。

ただし日常生活では肉や魚を食べる人も多く、必ずしも常に菜食というわけではありません。

牛肉は宗教的背景から敬遠されがちです。

仏教の戒律では飲酒は避けるべきとされています。

ただし、必ずしも厳格に適用されているわけではなく、都市部の若者や観光地では飲酒する人もいます。

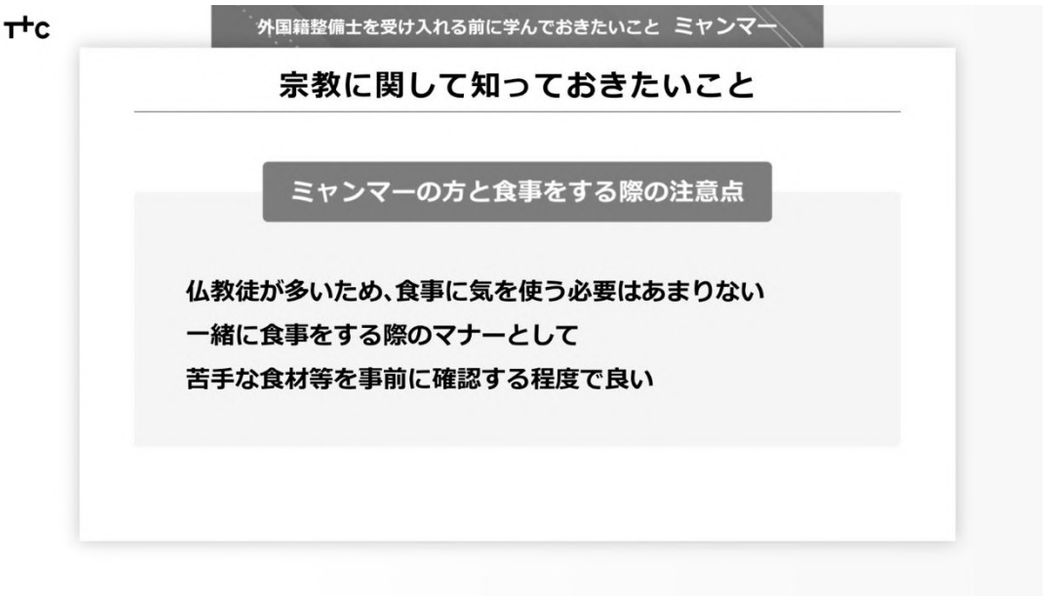


■スライド 34

そして、イスラム教。

ネパールの解説でお伝えした通り、イスラム教を信仰される方は 豚肉やアルコール類を含む食品を避けす。

ラマダンの期間には、日の出から日没まで飲食を控えるなど、特有の宗教的習慣があり、しかもその時期は毎年変わる点を押さえましょう。



■スライド 35

ミャンマーには仏教徒が多く、食事に気を遣う必要はあまりありません。

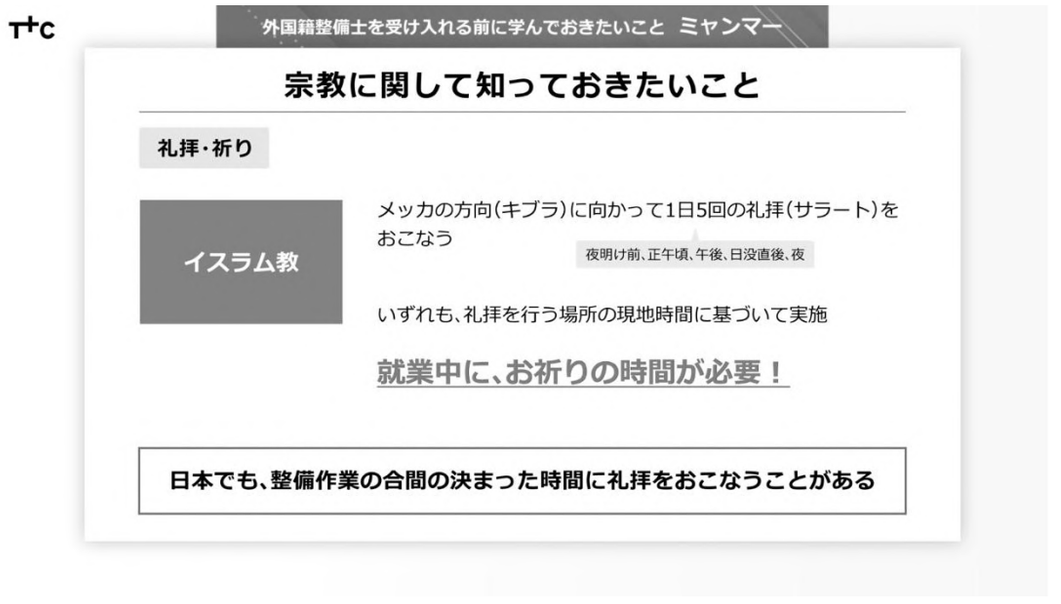
一緒に食事をする際のマナーとして、苦手な食材等を事前に確認する程度で良いでしょう。



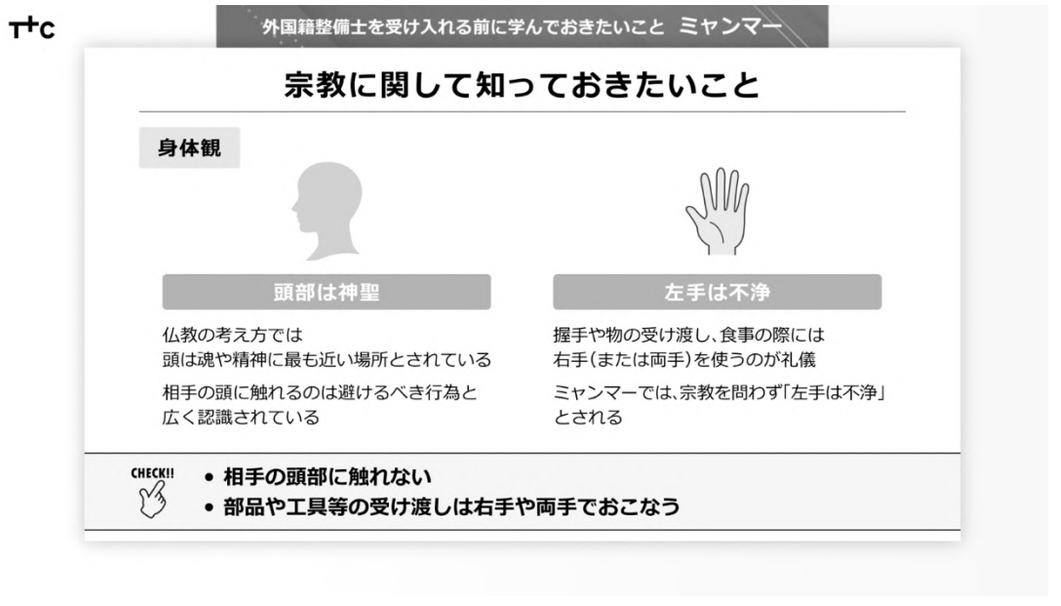
■スライド 36

次に、それぞれの宗教の礼拝・祈りについて見ていきましょう。

ミャンマーの仏教徒には、朝夕に仏壇や寺院で花・線香・灯明・水などを供え、合掌して礼拝する習慣があります。
これは仏陀・法・僧の「三宝」への感謝と敬意を示す儀式です。
家庭でも寺院でも日常的に行われています。
就業中にお祈りの時間を取る必要はありません。

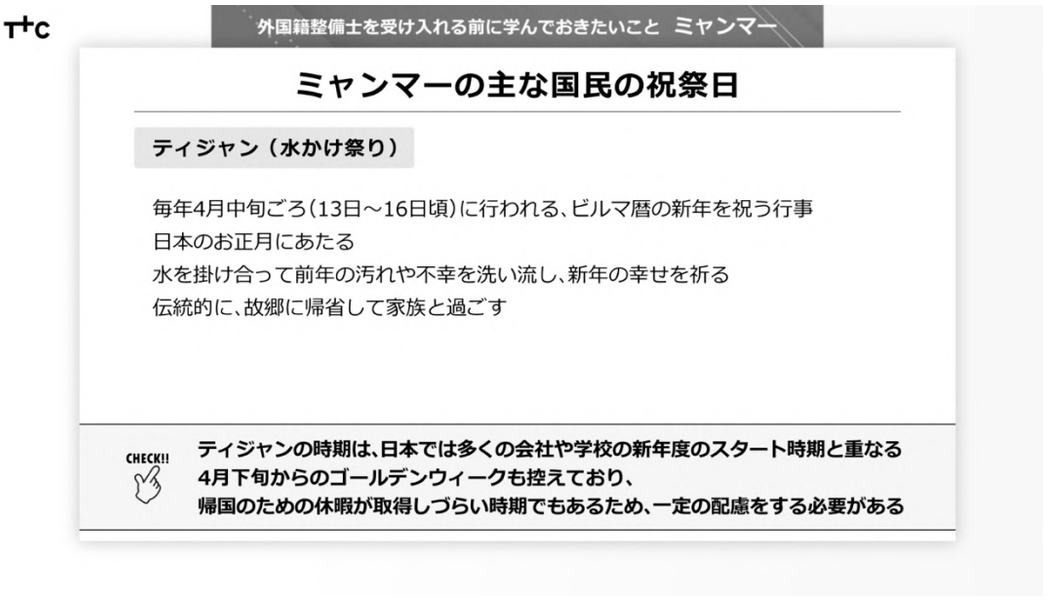


■スライド 37
イスラム教の礼拝・祈りについては、ネパールの解説でお伝えした通りです。
聖地メッカの方角に向かって、1 日 5 回の礼拝を行います。
日本でも、整備作業の合間の決まった時間に礼拝を行うケースがあります。

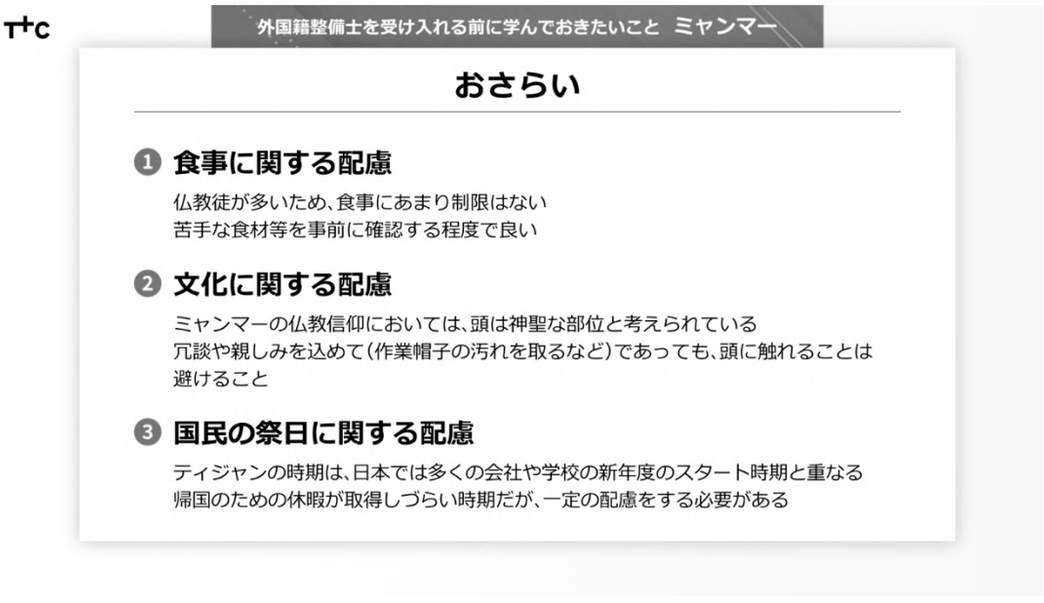


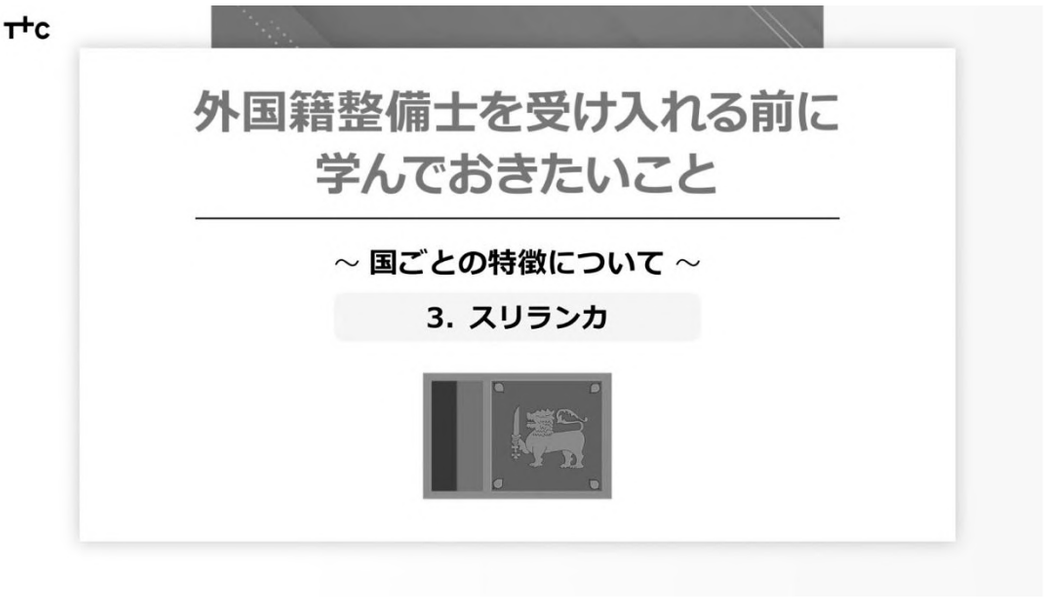
■スライド 38
次に、身体観の違いに着目しましょう。

まず、頭部は神聖。
仏教では、頭は魂や精神にもっとも近い場所とされ、神聖な部位と考えられています。
相手の頭に触れるのは避けるべき行為と広く認識されています。
左手は不浄。
イスラム教の考え方です。
握手、物の受け渡し、食事の際には右手または両手を使うのが礼儀とされています。
仏教徒が多数派のミャンマーでも、長い歴史の中でこうした宗教的観念が社会習慣に取り入れられています。
つまり、仏教徒・イスラム教徒を問わず、これは一般的なマナーとして広く浸透しています。
このような背景があることを押さえ、たとえ冗談や親しみからの厚意であっても、相手の頭部に触れないこと。
たとえ、帽子の汚れを取る意図であっても、避けた方がよいでしょう。
また、現場でも、部品や工具等の受け渡しは、右手、あるいは両手でおこないましょう。



■スライド 39
主な国民の祝祭日です。
ティジャン。水かけ祭りとも呼ばれます。
毎年 4 月中旬ごろ（13 日～16 日頃）に行われる、ビルマ暦の新年を祝う行事です。
日本のお正月にあたるものと捉えましょう。
水を掛け合って前年の汚れや不幸を洗い流し、新年の幸せを祈ります。
伝統的に、故郷に帰省して家族と過ごすのが一般的です。
この時期は、日本では多くの会社や学校の新年度のスタート時期と重なります。
また、4 月下旬からはゴールデンウィークも控えているため、帰国のための休暇が取得しづらい時期だといえますが、ミャンマーの方に対しては、一定の配慮を行う必要があるでしょう。





■スライド 41

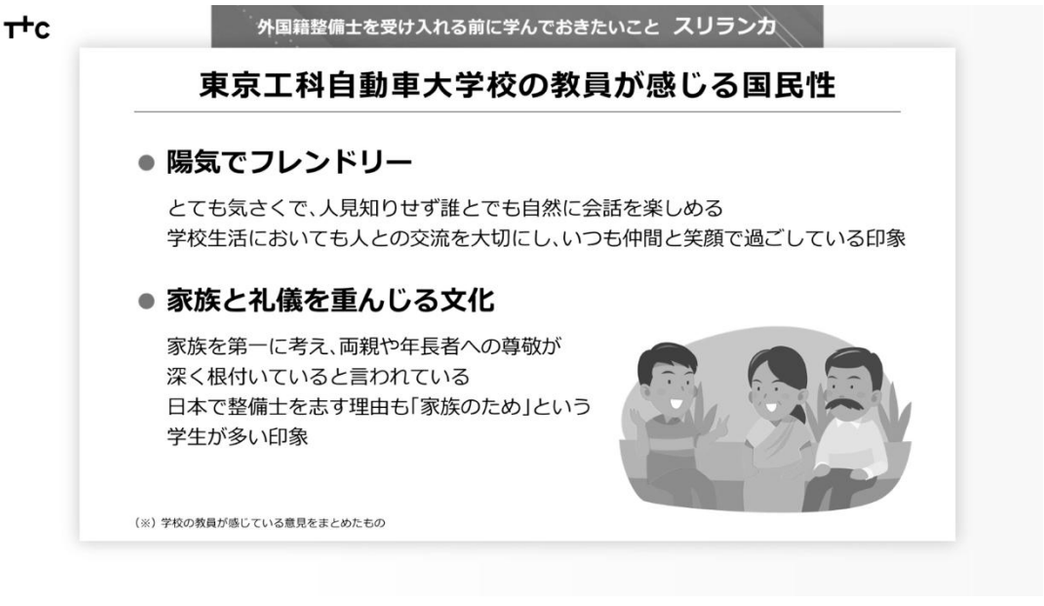
スリランカの特徴を見てみましょう。



■スライド 42

スリランカ。

人口は約 2200 万人、首都はスリジャヤワルダナプラコッテです。



■スライド 43

スリランカの国民性を見ていきましょう。

まず、陽気でフレンドリーであること。

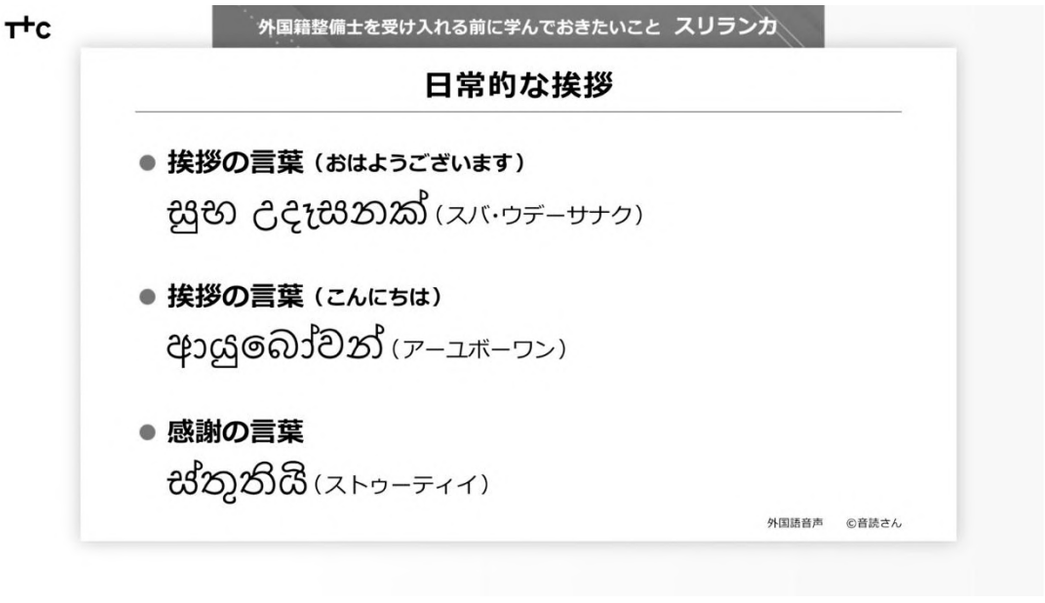
とても気さくで、人見知りせず誰とでも自然に会話を楽しめると言われています。

学校生活においても人との交流を大切にし、いつも仲間と笑顔で過ごしている印象があります。

そして、家族と礼儀を重んじる文化。

家族を第一に考え、両親や年長者への尊敬が深く根付いていると言われています。

日本で整備士を志す理由も「家族のため」という学生が多い印象です。



■スライド 44

スリランカでは国民の約 70%がシンハラ語を使っています。

その他に、国民の 15%程度が使っていると言われるタミル語もあります。

ここでは、シンハラ語での挨拶をご紹介います。

සුභ උදෑසනක්（スバ・ウデーサナク）（合成音声を流す）

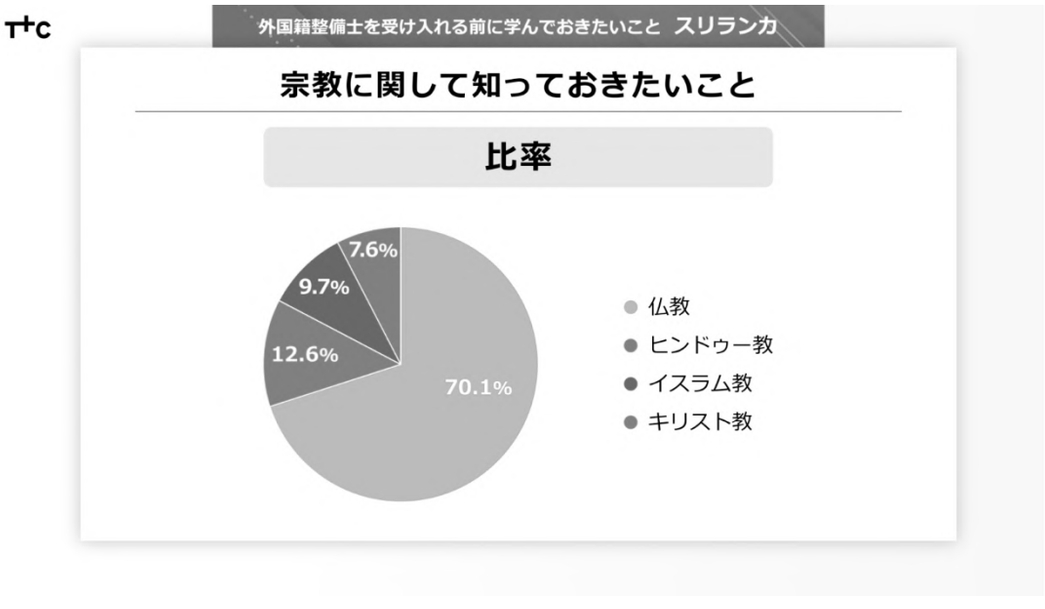
「おはようございます」にあたる言葉です。

ආයුබෝවන්（アーユボーワン） （合成音声を流す）

これは、こんにちは という意味です

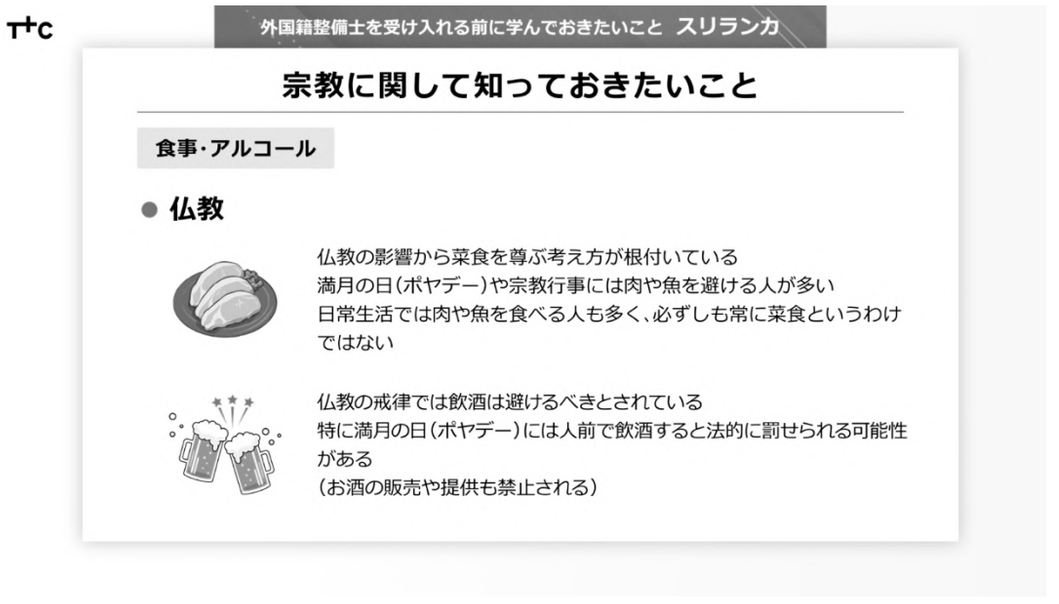
ස්තුතියි（ストゥーティイ）（合成音声を流す）

これは、感謝を示す意味です

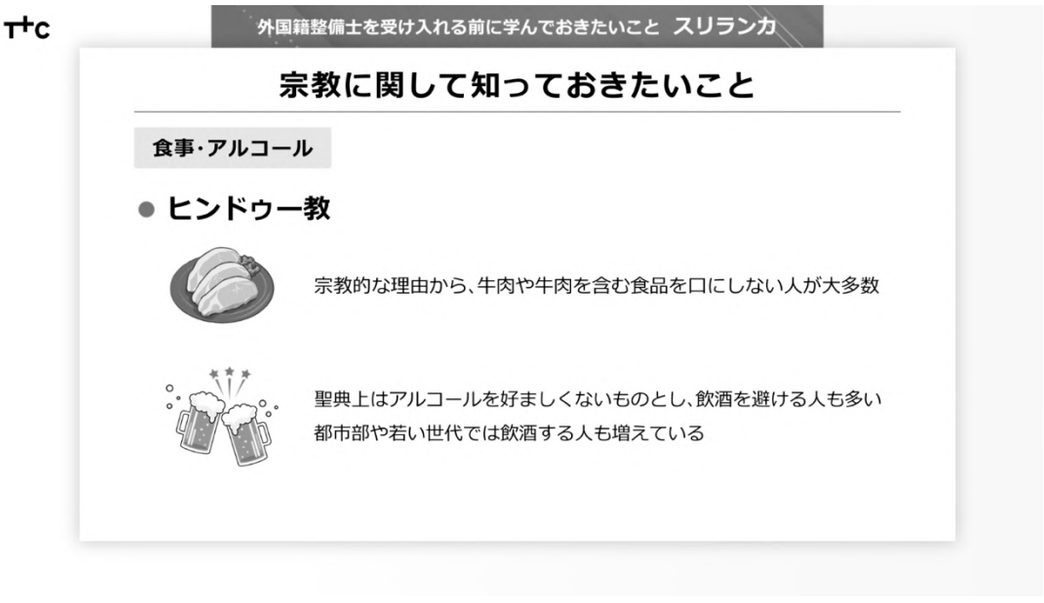


■スライド 45

主な宗教を見てみましょう。
仏教が最も多く、70.1%。
次にヒンドゥー教が 12.6%、イスラム教が 9.7%、キリスト教が 7.6%という割合です。



■スライド 46
宗教ごとに、食事・アルコールに関する状況はどう異なるでしょうか。
まず、仏教の場合。
スリランカでは仏教の影響から菜食を尊ぶ考え方が根付いています。
満月の日（ポヤデー）や、宗教行事においては、肉や魚を口にすることを避ける人が多くいます。
ただし日常生活では肉や魚を食べる人も多く、必ずしも常に菜食というわけではありません。
仏教の戒律では飲酒は避けるべきとされています。
特に満月の日（ポヤデー）には人前で飲酒すると法的に罰せられる可能性があり、お酒の販売や提供も禁止されます。



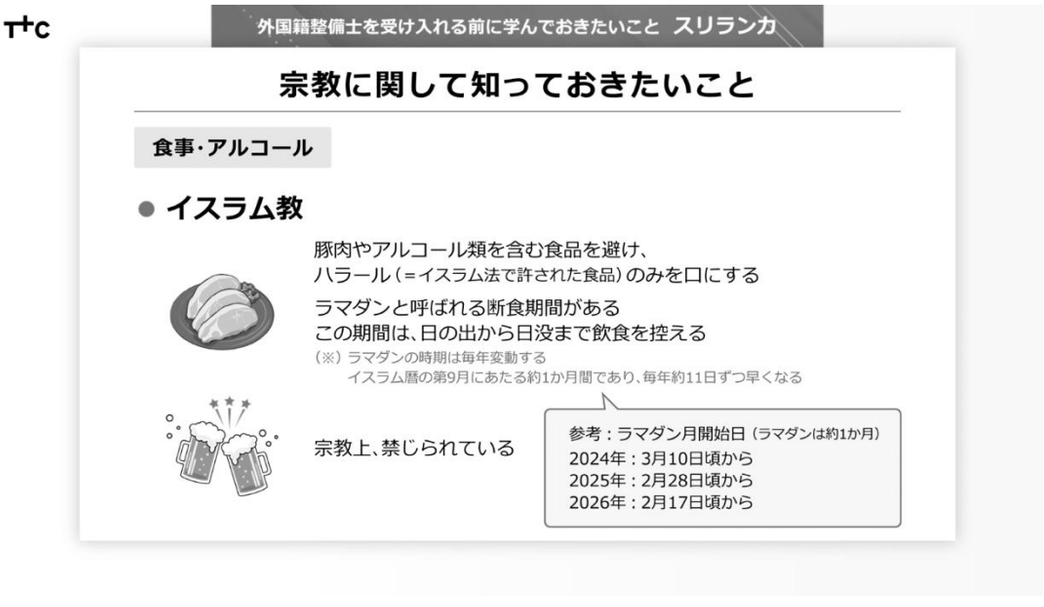
■スライド 47

ヒンドゥー教の場合。

食事については、宗教的な理由から、牛肉や牛肉を含む食品を口にしない人が大多数です。

アルコールについては、聖典上、好ましくないものとしています。

ただ、都市部や若い世代では飲酒する人も増えています。



■スライド 48

イスラム教については、ネパール、ミャンマーの動画で解説した通りです。

豚肉やアルコール類を含む食品を避け、イスラム法で許された食品のみを口にします。



■スライド 49

スリランカの方と食事をする際の注意点は、相手の宗教を確認することです。

仏教の信仰が約 70%を占める一方で、ヒンドゥー教・イスラム教を信仰している方はそれぞれ約 10%と、決して少なくない割合です。

食事をする際には、宗教の確認をおこなった上で適切な対応をした方が良いでしょう。



■スライド 50

次に、それぞれの宗教の礼拝・祈りについて見ていきましょう。

スリランカの仏教徒には、朝夕に仏壇や寺院で花・線香・灯明・水などを供え、礼拝（プージャ）を行う習慣があります。

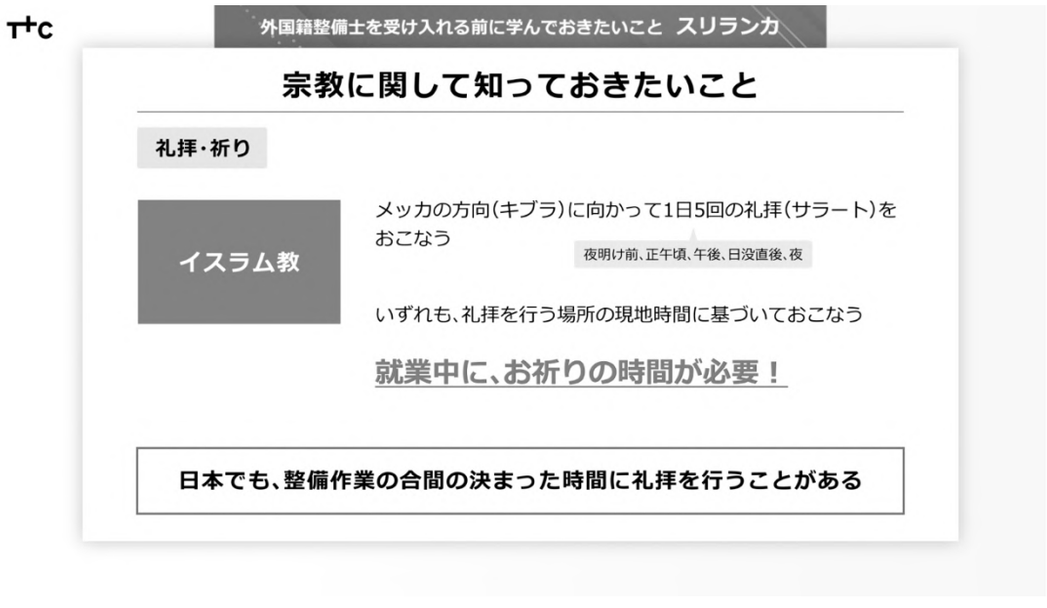
これは仏陀・法・僧の「三宝」への感謝と敬意を示す儀式です。

家庭でも寺院でも日常的に行われています。

特に満月の日（ポヤデー）には多くの人が寺院に集まり、盛大に礼拝が営まれます。
ただ、就業中にお祈りの時間を取る必要はありません。



■スライド 51
ヒンドゥー教。
神への敬意や賛美を表す行為として礼拝儀式が行われます。
多くのヒンドゥー教徒は朝や夕方に自宅で短い礼拝を行い、祭礼や特別な日には寺院で大きな儀式に参加します。
就業中にお祈りの時間を取る必要はありません。



■スライド 52
イスラム教の礼拝・祈りについては、すでに解説した通りです。
繰り返しになりますが、イスラム教の場合は、就業中にお祈りの時間が必要になると理解しましょう。



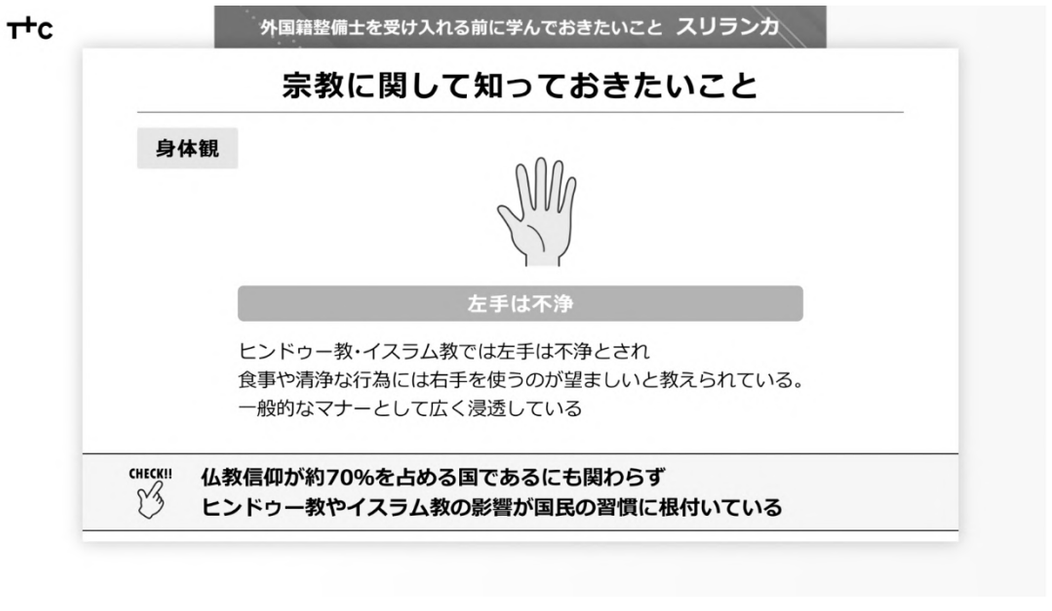
■スライド 53

キリスト教。

日曜日は、安息日として礼拝を大切にする方が多く、

その他では、クリスマス（12 月 25 日）やイースター（春）は特に重要な祭日です。

これらの祭日では、家族と過ごすことを重視します。



■スライド 54

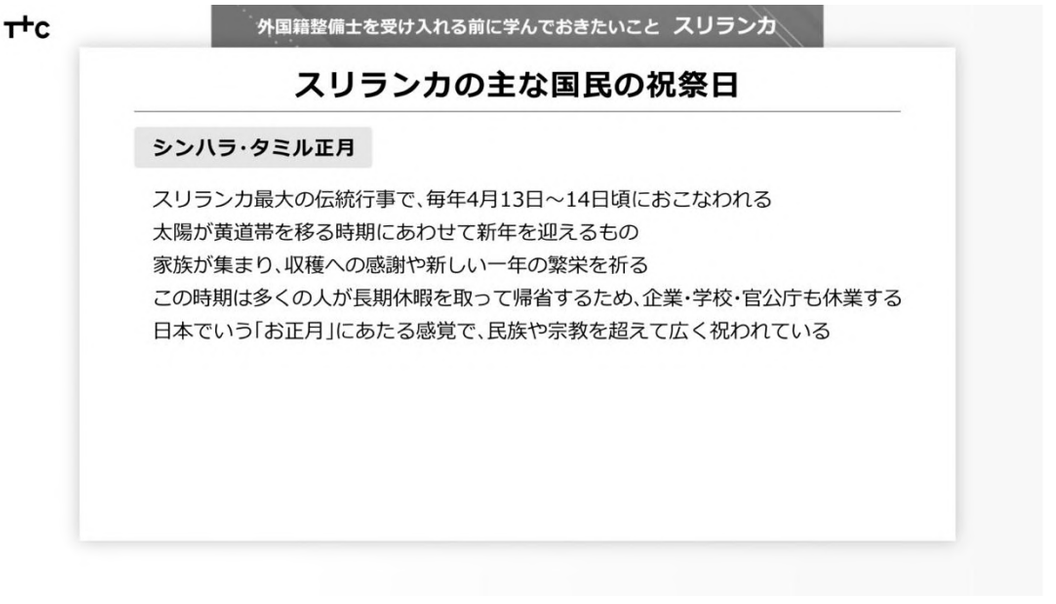
次に、身体観の違いに着目しましょう。

左手は不浄。

ヒンドゥー教やイスラム教では左手は不浄とされ、食事や清浄な行為には右手を使うのが望ましいと教えられています。

仏教徒が多数派のスリランカでも、長い歴史の中でこうした宗教的観念が社会習慣に取り入れられ、宗教を問わず、

一般的なマナーとして広く浸透しています。



■スライド 55

主な国民の祝祭日です。

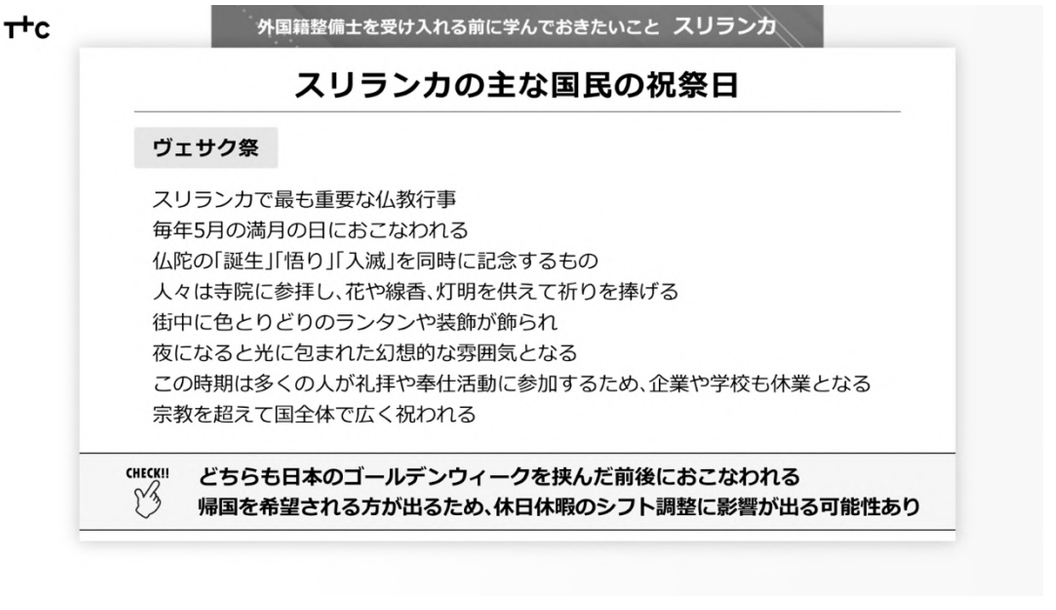
まず、スリランカ最大の伝統行事であるシンハラ・タミル正月。

毎年 4 月 13 日～14 日頃に行われ、太陽が黄道帯を移る時期にあわせて新年を迎えるものです。

家族が集まり、収穫への感謝や新しい一年の繁栄を祈ります。

この時期は多くの人が長期休暇を取って帰省するため、企業・学校・官公庁も休業します。

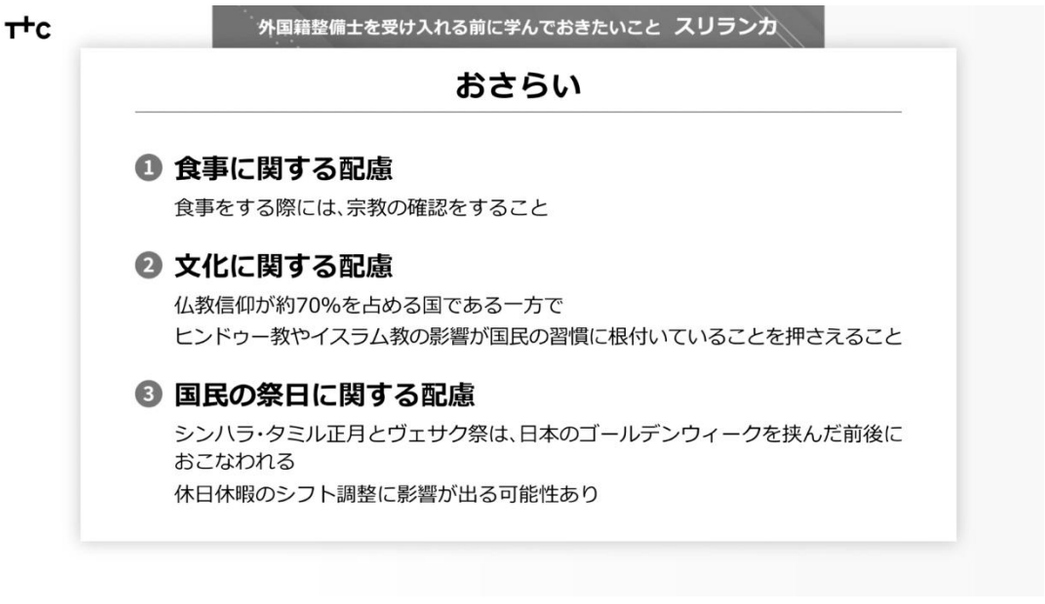
日本でいう「お正月」にあたる感覚で、民族や宗教を超えて広く祝われます。



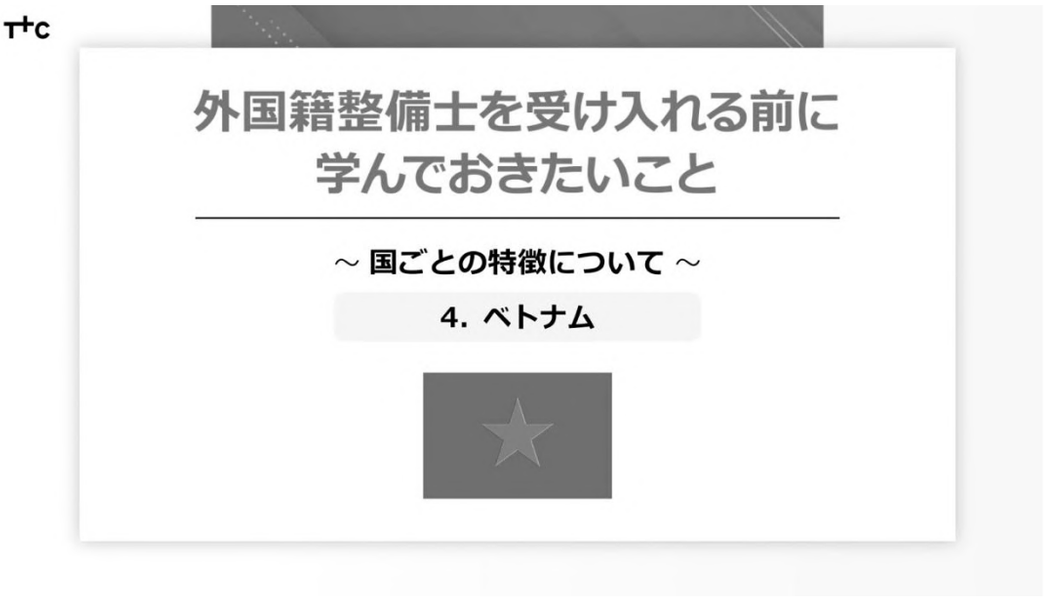
■スライド 56

ヴェサク祭。

スリランカで最も重要な仏教行事で、毎年 5 月の満月の日に行われます。
仏陀の「誕生」「悟り」「入滅」を同時に記念するもので、人々は寺院に参拝し、花や線香、灯明を供えて祈りを捧げます。
街中には色とりどりのランタンや装飾が飾られ、夜になると光に包まれた幻想的な雰囲気となります。
この時期は多くの人が礼拝や奉仕活動に参加するため、企業や学校も休業となります。
宗教を超えて国全体で広く祝われています。
シンハラ・タミル正月、ヴェサク祭。
どちらも日本のゴールデンウィークを挟んだ前後に行われます。
帰国を希望される方がいらっしゃると思いますので、休日休暇のシフト調整に影響が出る可能性があります。



■スライド 57
ここまでのおさらいです。
スリランカの方への理解が深まりましたか？



■スライド 58

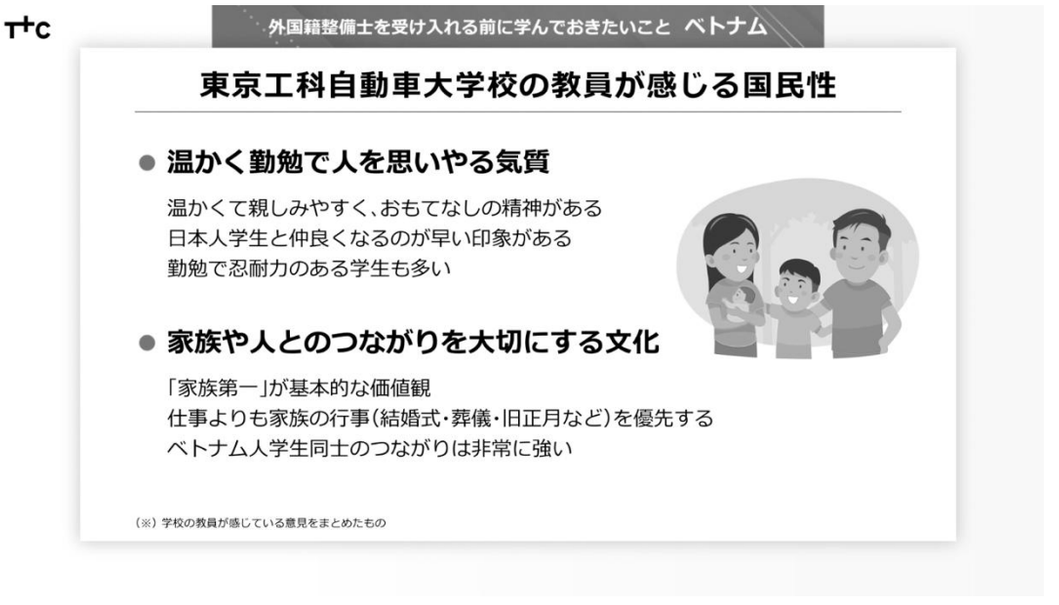
ベトナムの特徴を見てみましょう。



■スライド 59

ベトナム。

人口は約 1 億 100 万人、首都はハノイです。



■スライド 60

ベトナムの国民性を見ていきましょう。

まず、温かく勤勉で人を思いやる気質。

温かくて親しみやすく、おもてなしの精神があります。

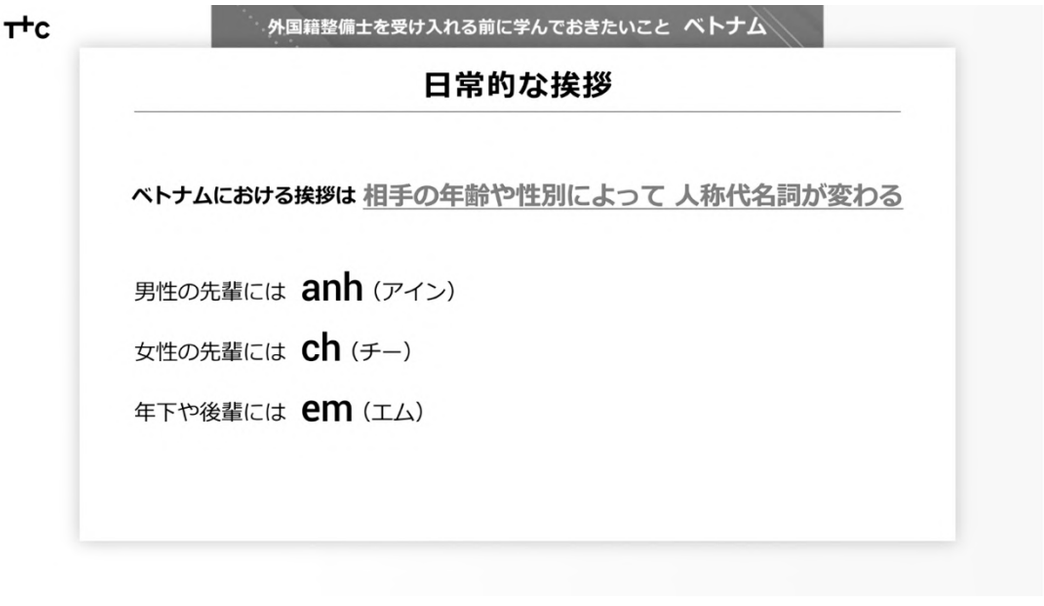
日本人学生と仲良くなるのが早い印象があります。

また、勤勉で、忍耐力のある学生が多いようです。

そして、家族や人とのつながりを大切にする文化があります。

「家族第一」が基本的な価値観であり、 仕事よりも家族の行事（結婚式・葬儀・旧正月など）を優先します。

ベトナム人学生同士のつながりは非常に強い印象があります。



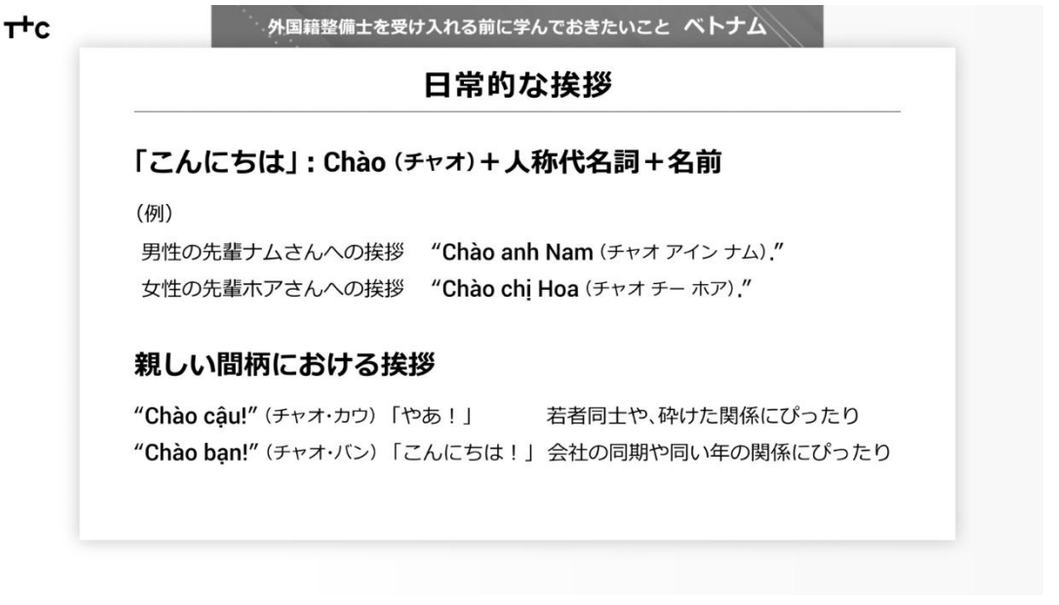
■スライド 61

ベトナムの挨拶を紹介します。

前提として、ベトナムにおける挨拶は、相手の年齢や性別によって、人称代名詞が変わります。
人称代名詞とは、日本語の「私」「あなた」、英語の「I」「You」などです。
ベトナム語では、

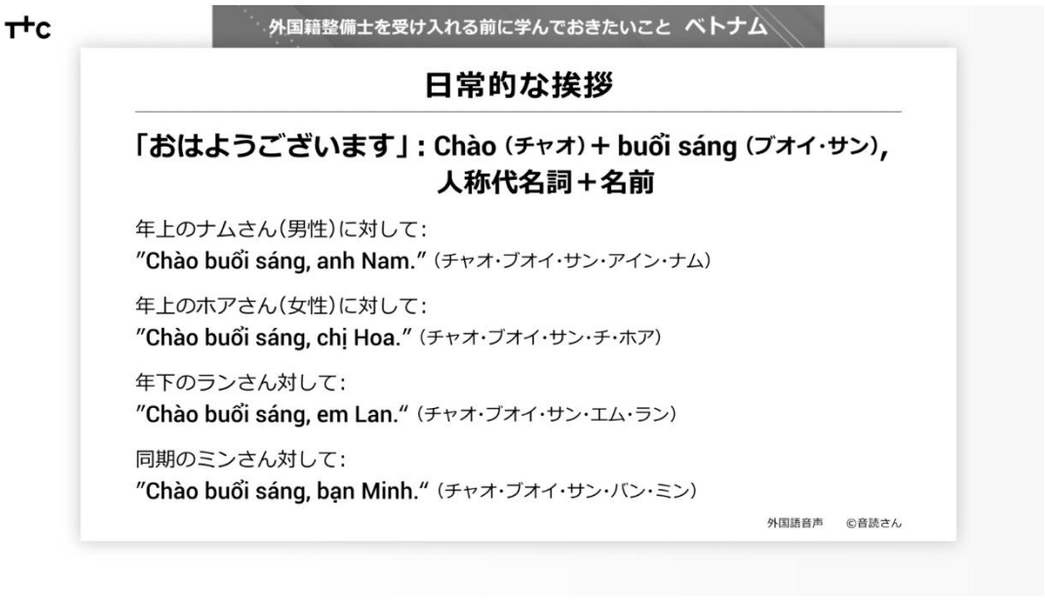
男性の先輩には anh（アイン）
女性の先輩には chị（チー）
年下や後輩には em（エム）

これらを使い分けます。
ベトナムは年齢や上限関係を重視する文化なので、3 つの人称代名詞の使い分けが非常に重要です。



■スライド 62
「こんにちは」であれば、 チャオ、人称代名詞、相手の名前をくっつけて話します。
たとえば、男性の先輩ナムさんへの挨拶であれば……
“Chào anh Nam（チャオ アイン ナム）.” ※ この辺は カタカナ言葉で読む
女性の先輩ホアさんへの挨拶
“Chào chị Hoa（チャオ チー ホア）.”
となります。

また、親しい間柄でのあいさつであれば、
“Chào cậu!”（チャオ・カウ） ※ この辺は カタカナ言葉で読む
“Chào bạn!”（チャオ・バン）
というものを使う場合もあります。



■スライド 63

次に、「おはようございます」。

これは、チャオのあと、続けてブオイ・サンと言い、人称代名詞、名前、という順に話します。

スライドの例を、音声で確認してみましょう。

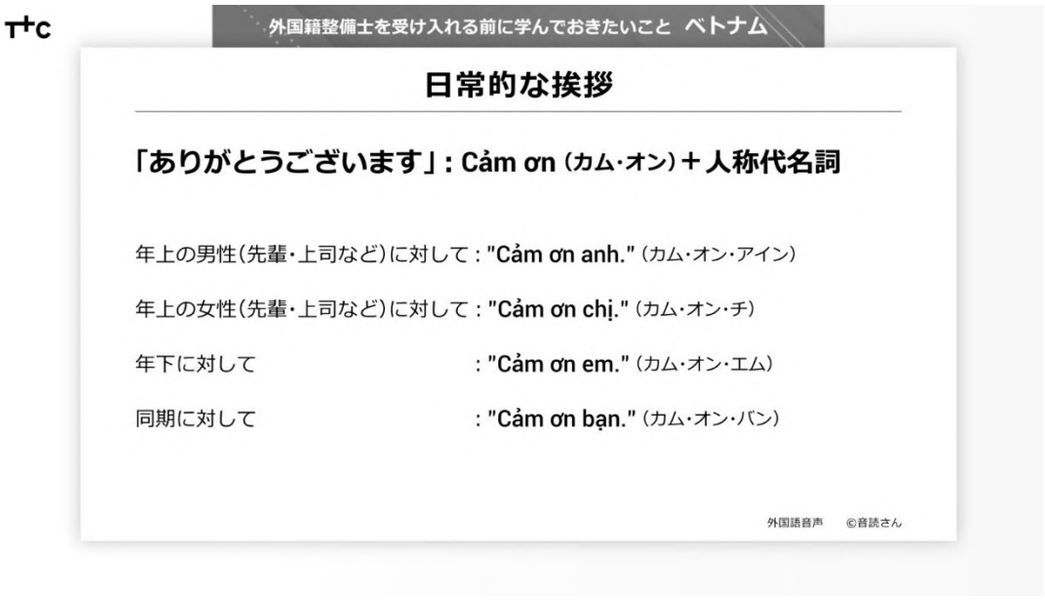
（以下、合成音声を４つ）

"Chào buổi sáng, anh Nam."（チャオ・ブオイ・サン・アイン・ナム）

"Chào buổi sáng, chị Hoa."（チャオ・ブオイ・サン・チ・ホア）

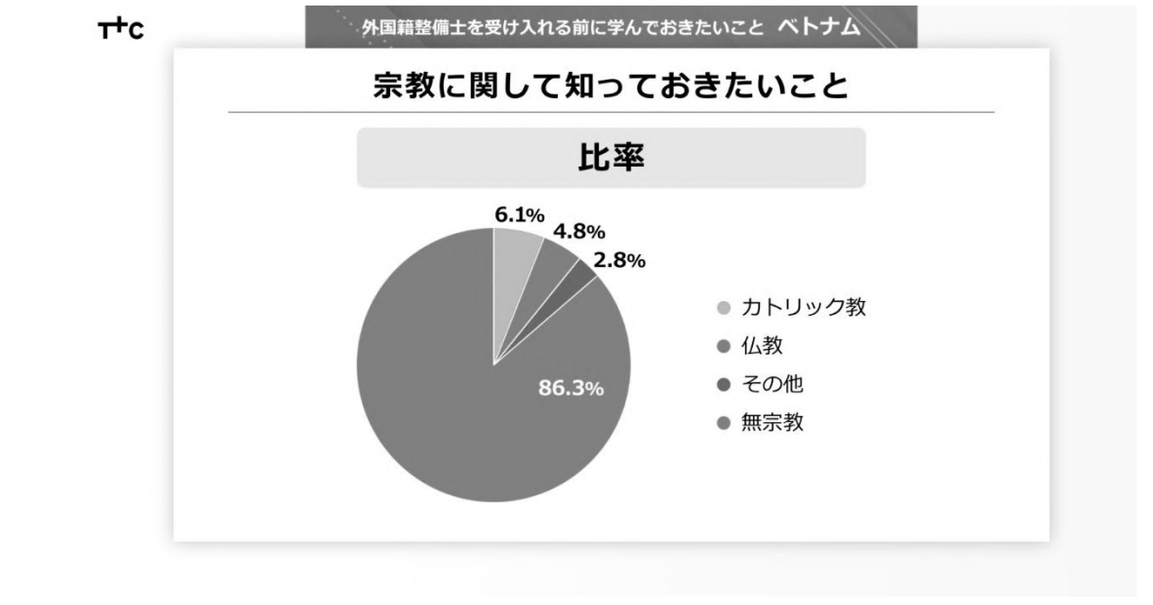
" Chào buổi sáng, em Lan."（チャオ・ブオイ・サン・エム・ラン）

" Chào buổi sáng, bạn Minh."（チャオ・ブオイ・サン・バン・ミン）

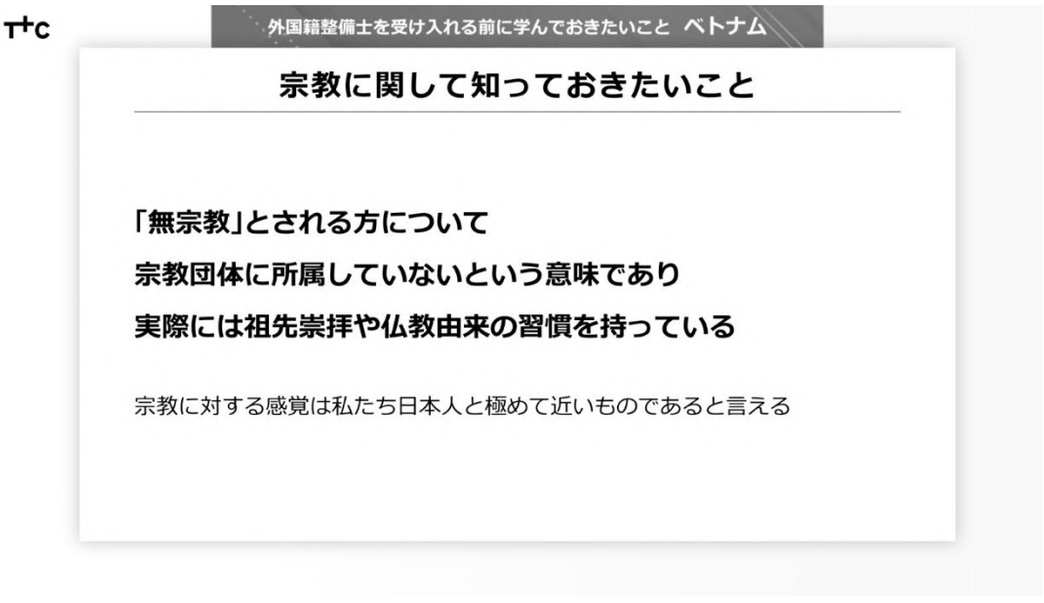


■スライド 64

続いて、ありがとうございます。
カム・オンの後に、人称代名詞をつけます。
スライドの例を、音声で確認してみましょう。
（以下、合成音声を４つ）
"Cảm ơn anh."（カム・オン・アイン）
"Cảm ơn chị."（カム・オン・チ）
"Cảm ơn em."（カム・オン・エム）
"Cảm ơn bạn."（カム・オン・バン）



■スライド 65
主な宗教を見てみましょう。
圧倒的に無宗教が多く、86.3%です。
カトリック教が 6.1%、仏教が 4.8%と続きます。

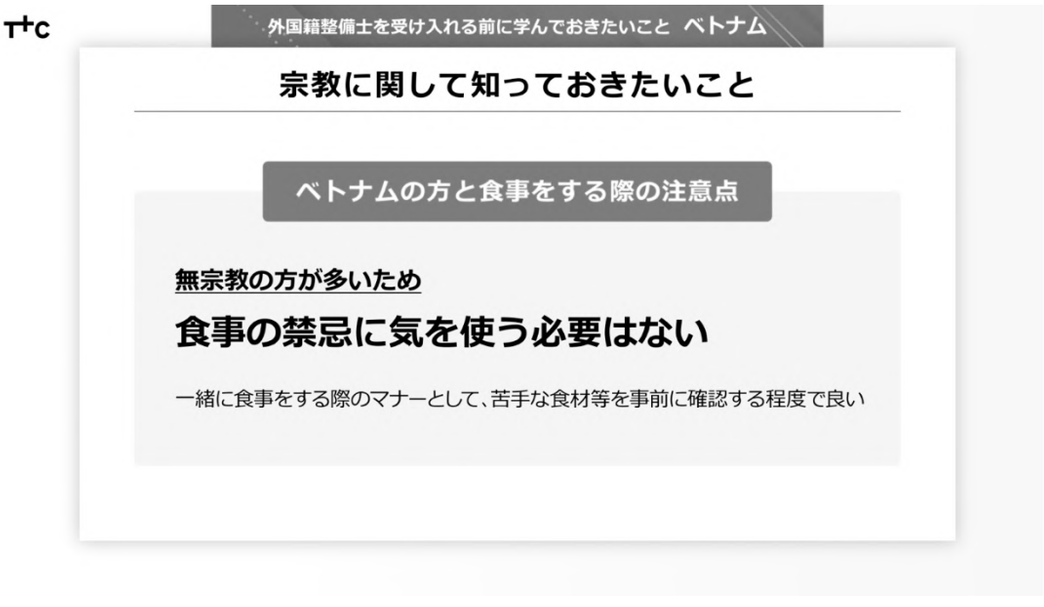


■スライド 65

ただし、「無宗教」とされる方についても、宗教団体に所属していないだけであり、実際には祖先崇拝や仏教由来の習慣を持っています。

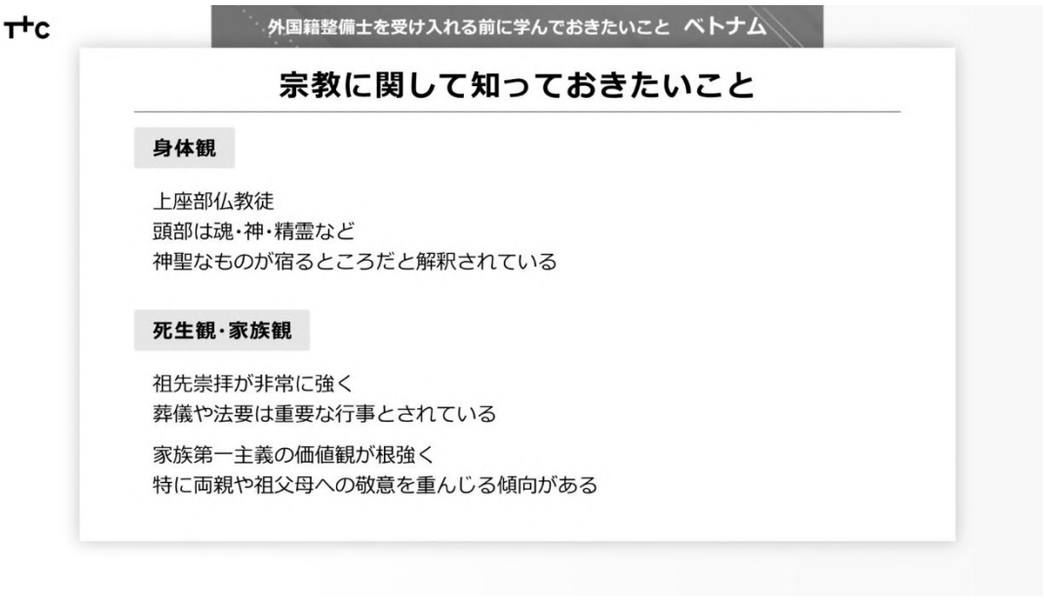
日本人も、「無宗教」と答えながら、お墓参りや初詣を行う方が大勢います。

その感覚に近く、ベトナム人の宗教に対する感覚は私たち日本人と極めて近いものであると言えるでしょう。



■スライド 67

無宗教の方が圧倒的に多いため、一緒に食事をする際のマナーとして、苦手な食材等を事前に確認する程度で良いでしょう。



■スライド 68

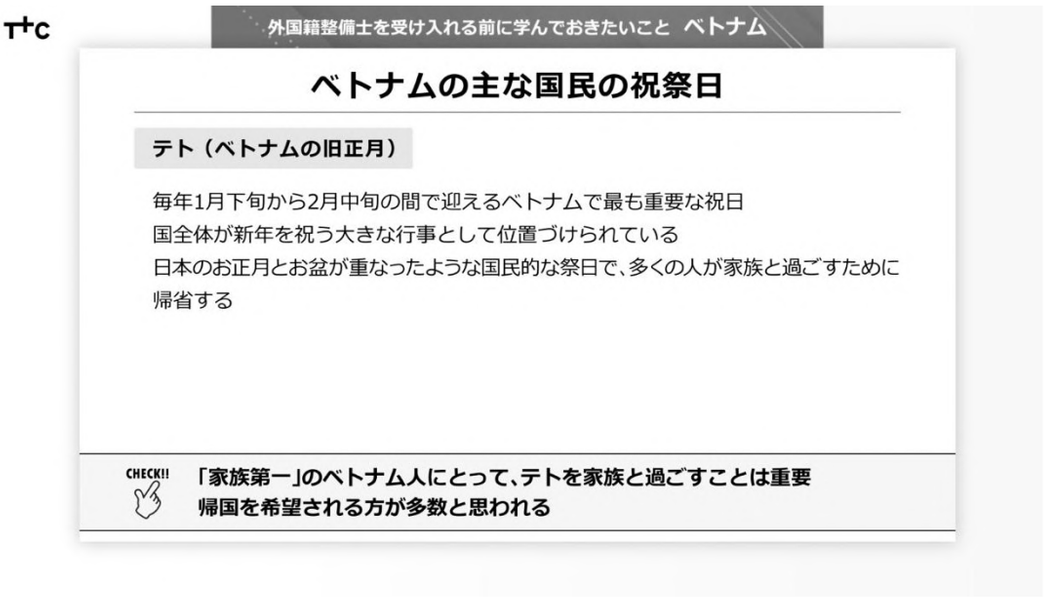
次に、身体観、死生観、家族観の違いに着目しましょう。

上座部仏教徒にとっては、頭部は魂・神・精霊など神聖なものが宿るところだと解釈されています。

念のため押さえておきましょう。

また、無宗教と答える方でも、祖先崇拝が非常に強く、葬儀や法要は重要な行事とされています。

家族第一主義の価値観が根強く、特に両親や祖父母への敬意を重んじる傾向があります。



■スライド 69

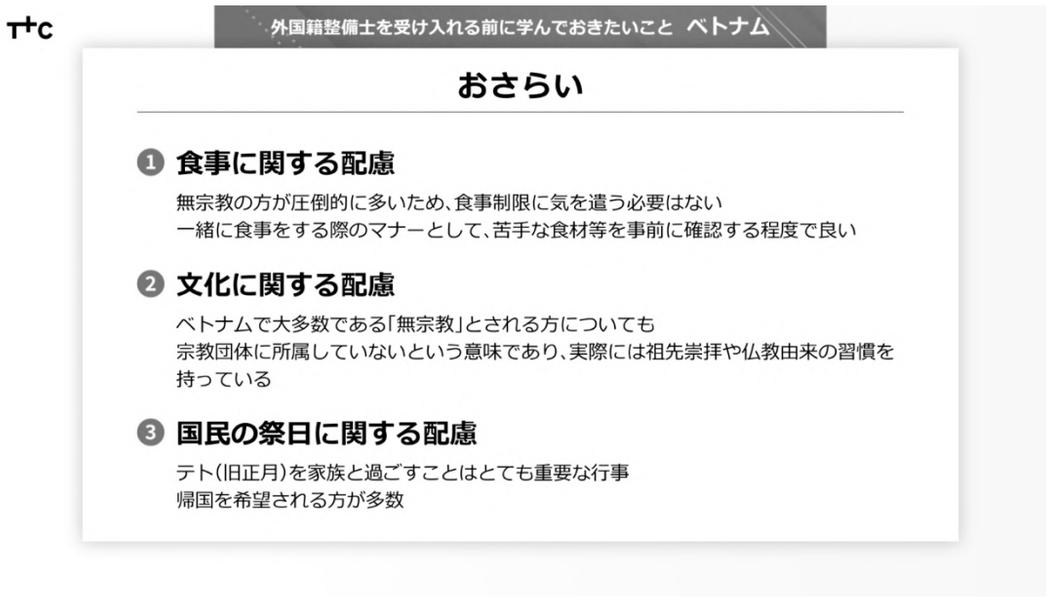
主な国民の祝祭日です。

テト。これはベトナムの旧正月です。

毎年 1 月下旬から 2 月中旬の間で迎えるベトナムで最も重要な祝日です。

国全体が新年を祝う大きな行事として位置づけられています。

日本のお正月とお盆が重なったような国民的な祭日で、多くの人が家族と過ごすために帰省します。
「家族第一」のベトナム人にとって、テトを家族と過ごすことはたいへん重要です。
この時期に帰国を希望される方が多数だと思われますので、留意しましょう。



■スライド 70
ここまでのおさらいです。
ベトナムの方への理解が深まりましたか？



■スライド 71

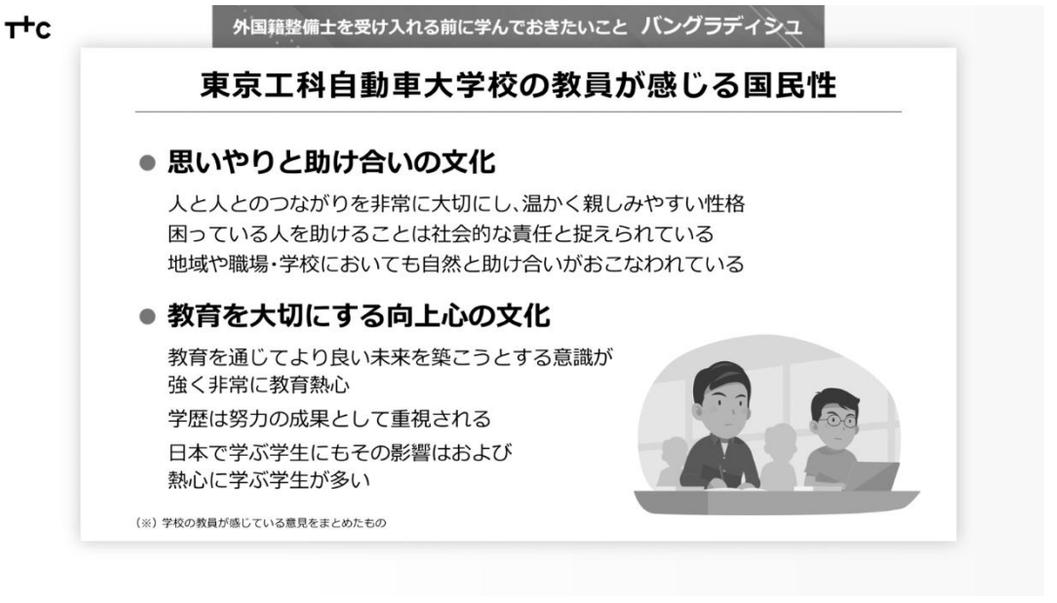
バングラディシュの特徴を見てみましょう。



■スライド 72

バングラディッシュ

人口は約 1 億 7300 万人、首都はダッカです。



■スライド 73

バングラディッシュの国民性を見ていきましょう。

まず、思いやりと助け合いの文化。

バングラディッシュの方は、人と人とのつながりを非常に大切にし、温かく親しみやすい性格であるといわれています。

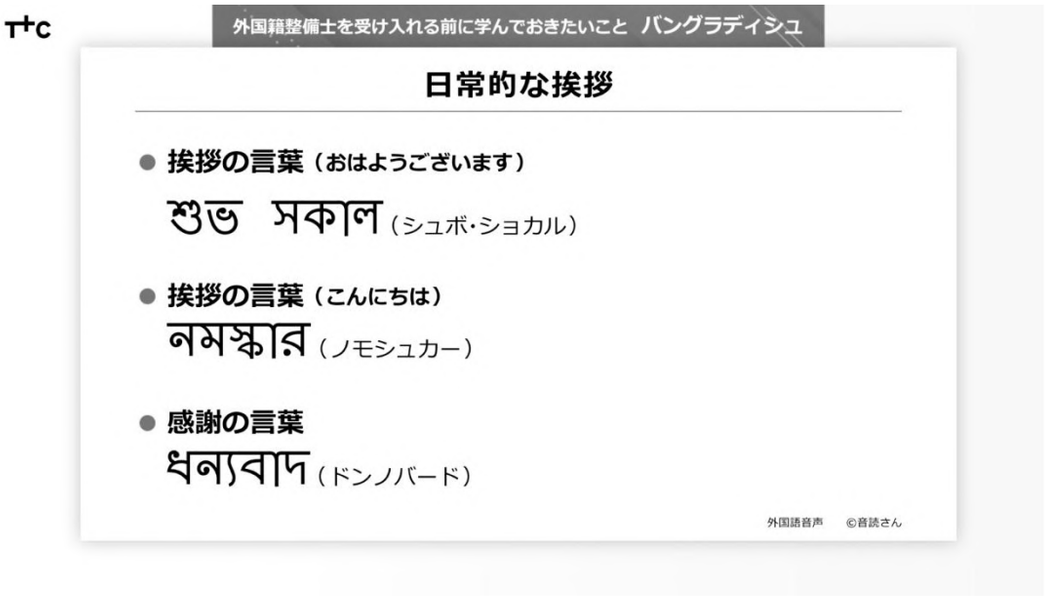
また、困っている人を助けることは社会的な責任と捉えられていて、地域や職場・学校においても自然と助け合いが行われています。

学生の気質からもそのような点が伺えます

そして、教育を大切にする向上心の文化があります。

教育を通じてより良い未来を築こうとする意識が強く非常に教育熱心です。

学歴は努力の成果として重視されるため、日本で学ぶ学生にもその影響はおよび熱心に学ぶ学生が多い印象です。



■スライド 74

バングラディッシュは多言語国家ですが、公用語としてベンガル語がつかわれています。

ベンガル語による挨拶を紹介しましょう。

“শুভ সকাল（シュボ・ショカル）”（合成音声を流す）

おはようございます。

こちらはフォーマルでもカジュアルでも使えます

নমস্কার（ノモシュカー）。（合成音声を流す）

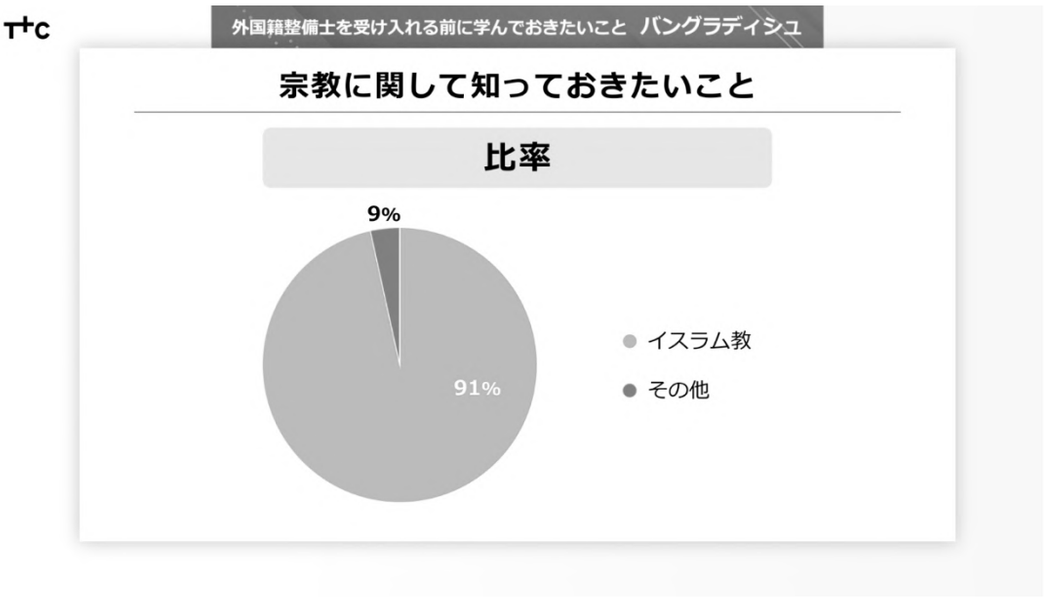
これは、こんにちは　という意味です

しょたういめん、ビジネス、改まった場面でも使えます。

ধন্যবাদ（ドンノバード）。（合成音声を流す）

ありがとうございます　という意味です。

広く使える標準的な感情表現。フォーマルでもカジュアルでも使用できます。



■スライド 75

主な宗教を見てみましょう。

イスラム教が圧倒的に多く、91%。

その他、ヒンズー教、仏教、キリスト教が 9%という割合です。



■スライド 76

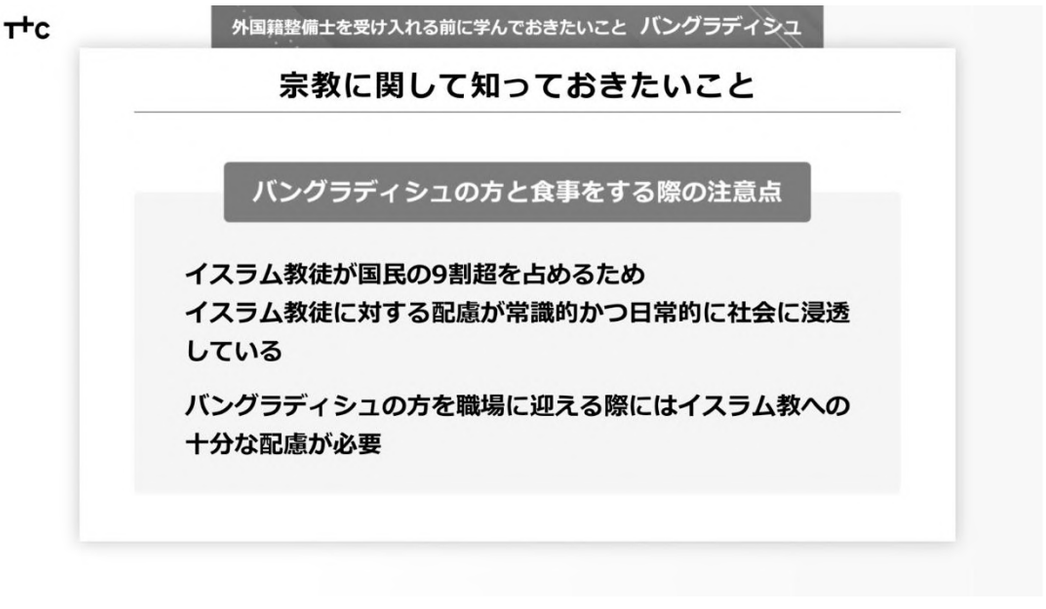
国民のほとんどがイスラム教を信仰しています。

イスラム教が食事・アルコールについてどのように制限しているか、あらためて確認しましょう。

イスラム教では、豚肉やアルコール類を含む食品を避け、ハラールという、イスラム法で許された食品のみを口にします。

また、ラマダンと呼ばれる断食（サウム）期間には、日の出から日没まで飲食を控えるなど、特有の宗教的習慣があります。

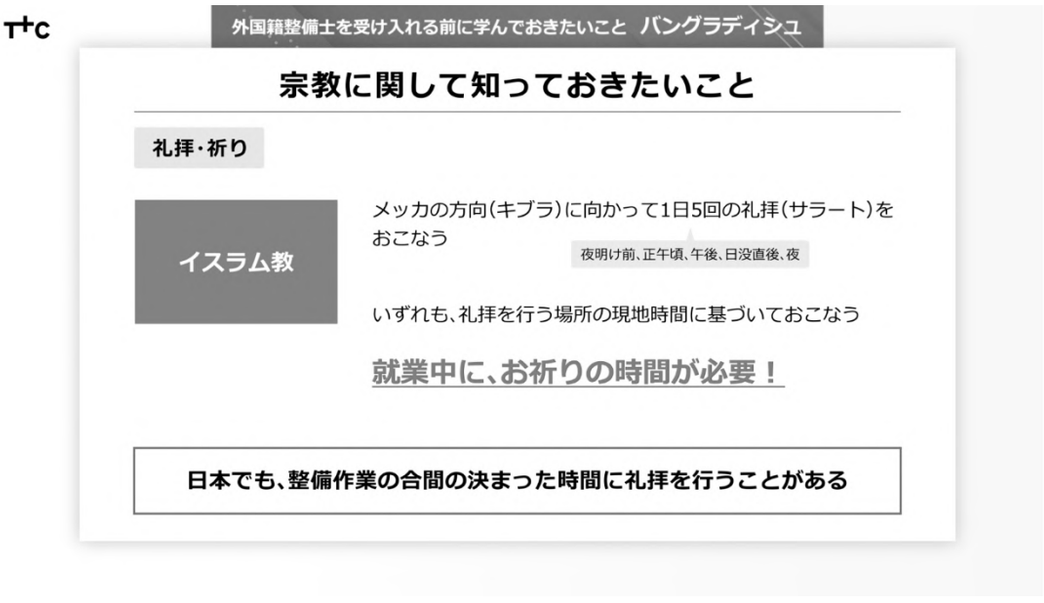
ラマダンは、イスラム暦の第 9 月にあたる約 1 か月間で、毎年時期が変わる点を押さえましょう。



■スライド 77

バングラディッシュの方と食事をする際は、十分、注意しましょう。

イスラム教の教えが国民生活の端々に浸透しているため、イスラム教徒への食事への配慮を徹底する必要があります。



■スライド 78

次に、礼拝・祈りについて見ていきましょう。

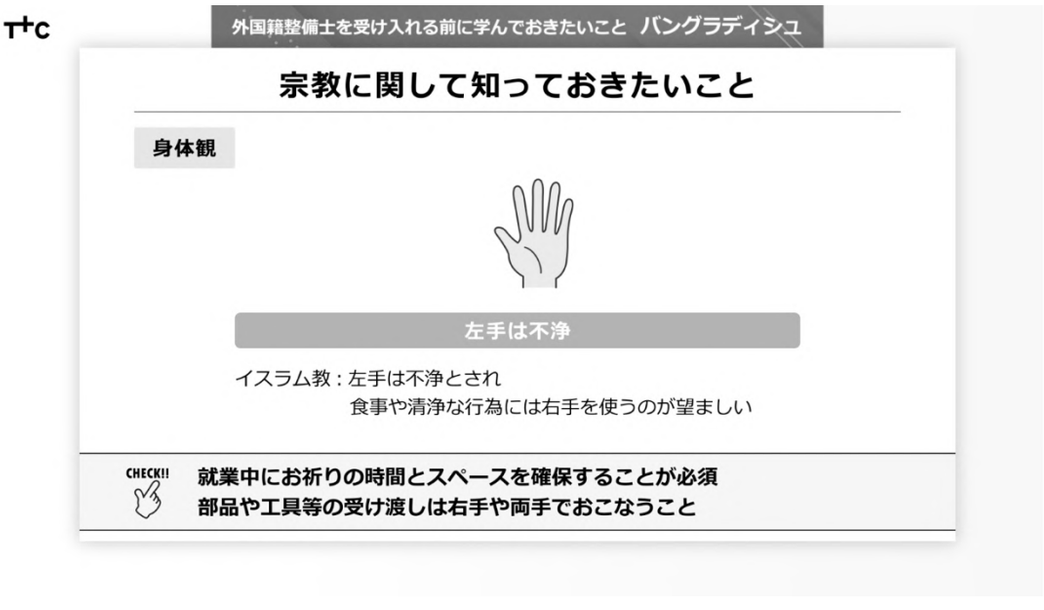
イスラム教では聖地メッカの方角に向かって、1 日 5 回の礼拝を行います。

いずれも礼拝（サラート）を行う現地時間に基づいて行われます。

イスラム教の場合は、就業中にお祈りの時間が必要になると理解しましょう。

日本でも、整備作業の合間の決まった時間に礼拝を行うケースがあります。

本人にとってはたいへん大切な習慣ですから、職場の理解が重要となります。

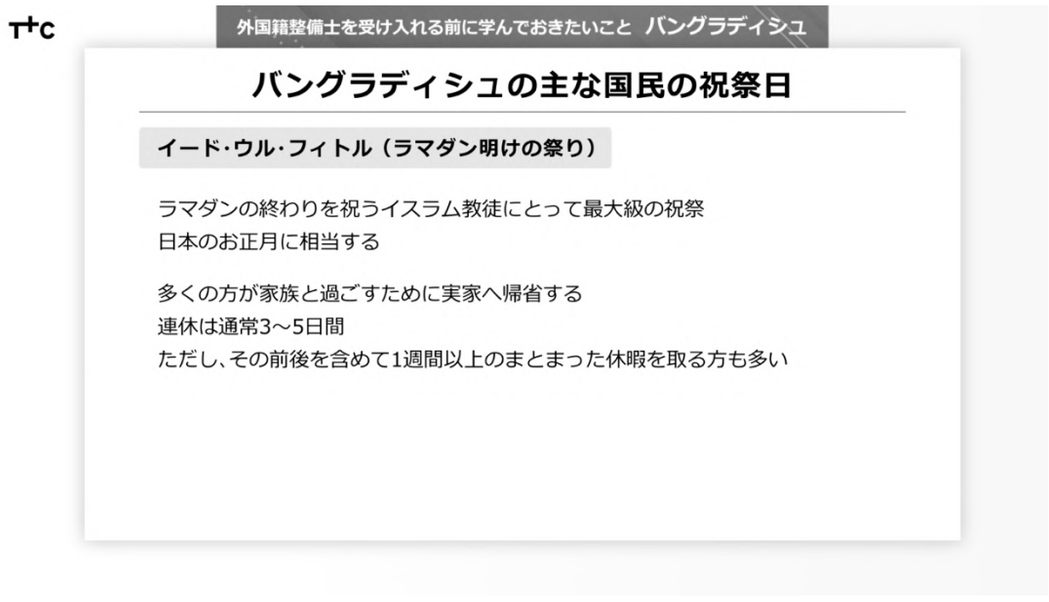


■スライド 79

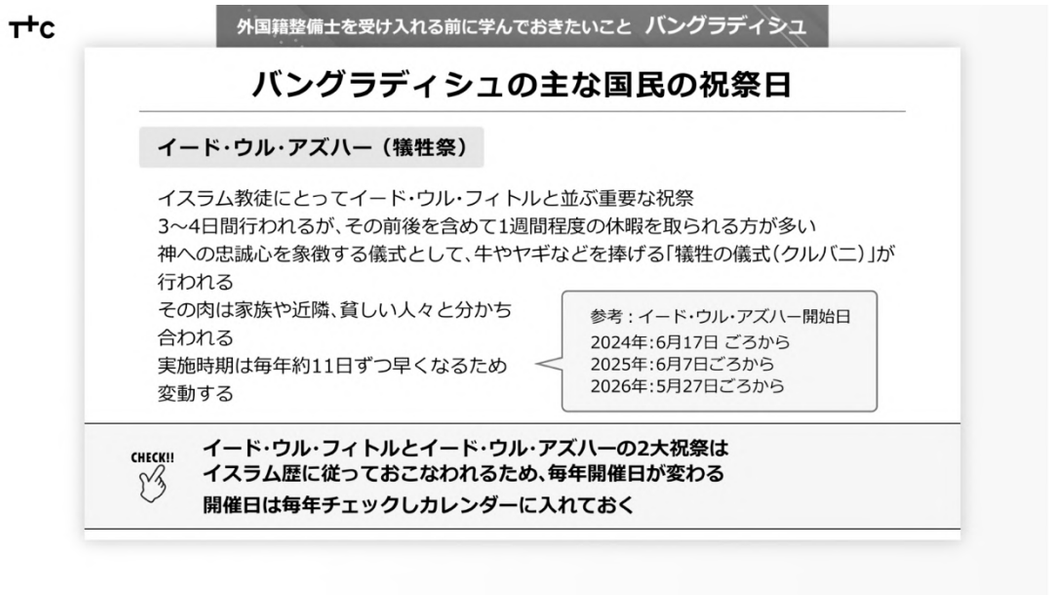
次に、身体観の違いに着目しましょう。

左手は不浄。

イスラム教にある考え方です。
握手、物の受け渡し、食事の際には右手または両手を使うのが礼儀とされています。
なお、バングラディッシュではイスラム教文化の影響が社会習慣に強く反映されているため、宗教問わず、左手は不浄という考え方が浸透しています。
本講座で学ぶ６つの国の中では、バングラディシュは、最もイスラム教信仰への配慮が必要な国といえます。



■スライド 80
主な国民の祝祭日です。
まず、イード・ウル・フィトル（ラマダン明けの祭り）。
ラマダンの終わりを祝うイスラム教徒にとって最大級の祝祭であり、日本のお正月に相当します。
多くの方が家族と過ごすために実家へ帰省します。連休は通常 3～5 日間ですが、その前後を含めると 1 週間以上のまとまった休暇を取る方も多くいます。



■スライド 81

そして、イード・ウル・アズハー（犠牲祭）。

イスラム教徒にとってイード・ウル・フィトルと並ぶ重要な祝祭で、3～4 日間行われます。

やはり、その前後を含めて 1 週間程度の休暇を取られる方が多いです。

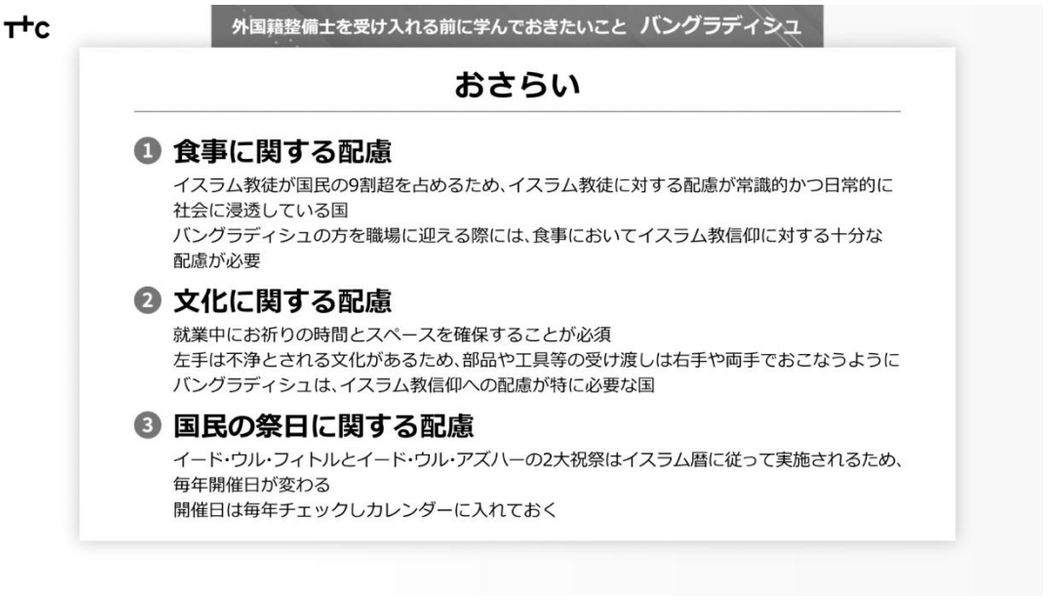
神への忠誠心を象徴する儀式として、牛やヤギなどを捧げる「犠牲の儀式（クルバニ）」が行われ、肉は家族や近隣、貧しい人々と分かち合われます。

実施時期は毎年約 11 日ずつ早くなるため変動します。

イード・ウル・フィトルとイード・ウル・アズハーの 2 大祝祭は、イスラム暦に従って行われるため、毎年開催日が変わります。

開催日は毎年チェックしカレンダーに入れておきましょう。

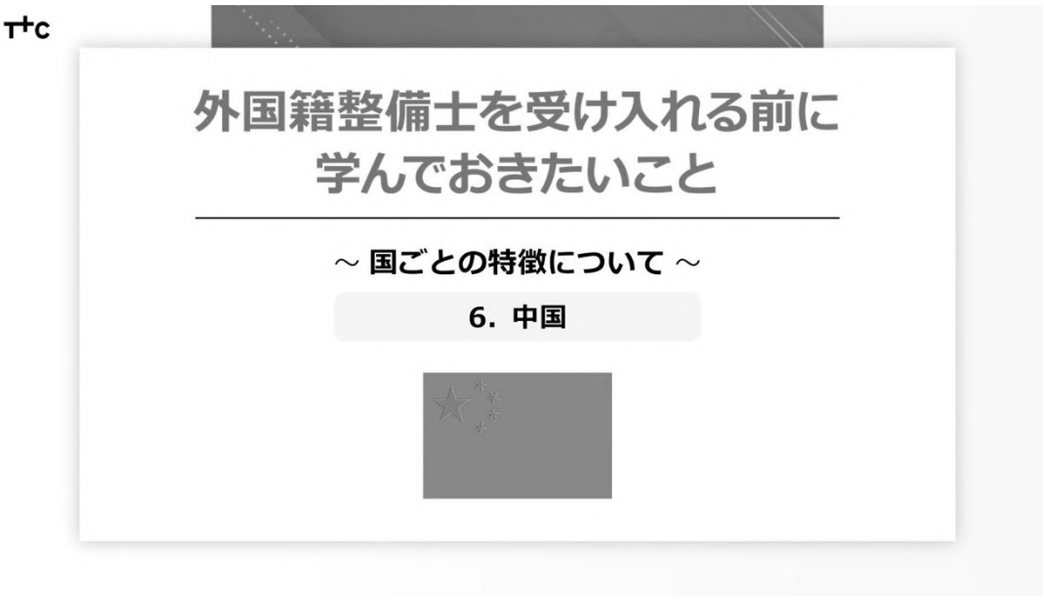
帰国を希望される方が多くいらっしゃるはずです。



■スライド 82

ここまでのおさらいです。

バングラディシュの方への理解が深まりましたか？



■スライド 83

中国の特徴を見てみましょう。

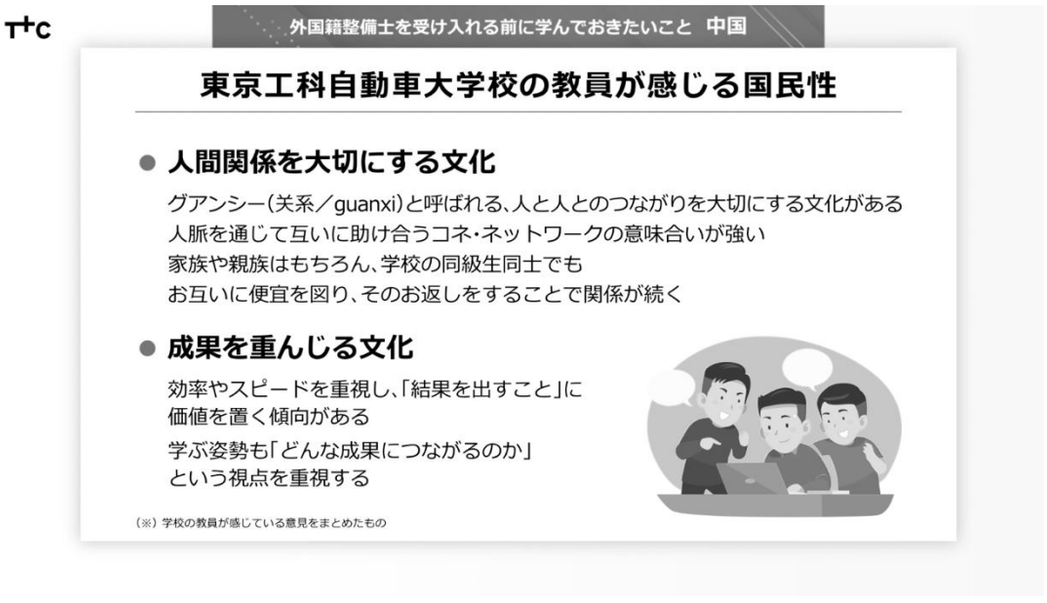
中国は、私たち日本人にとってなじみのある国ですが、意外と知られていない特徴があります。



■スライド 84

中華人民共和国。

人口は約 4 億 900 万人、首都は北京です。



■スライド 85

中国の国民性を見ていきましょう。

まず、人間関係を大切にする文化。

「グアンシー」と呼ばれる、人と人とのつながりを大切にする文化があります。

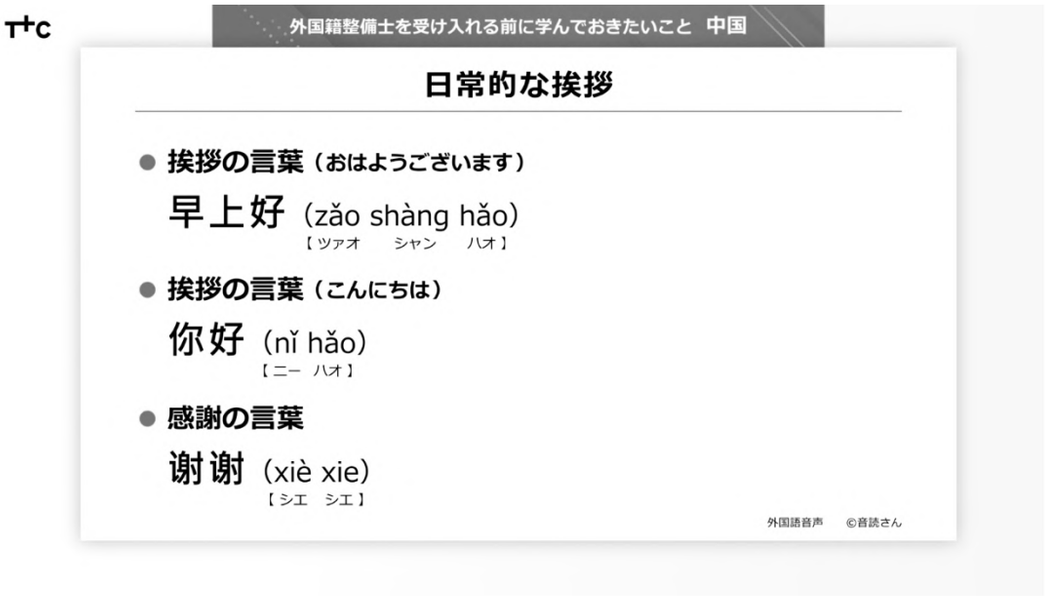
単なる仲の良さや信頼関係というより、人脈を通じて互いに助け合うコネ、ネットワークの意味合いが強いく、家族や親族はもちろん、学校の同級生同士でもお互いに便宜を図り、そのお返しをすることで関係が続くと言われています。

そして、成果を重んじる文化。

中国の人々は効率やスピードを重視し、「結果を出すこと」に価値を置く傾向があると言われています。

これは歴史的に商業活動が盛んだった背景や、近年の急速な経済発展によって培われた国民性なのかもしれません。

学ぶ姿勢も「どんな成果につながるのか」という視点を重視する傾向を感じます。



■スライド 86

中国語の基本的な挨拶を紹介しましょう。

おはようございます

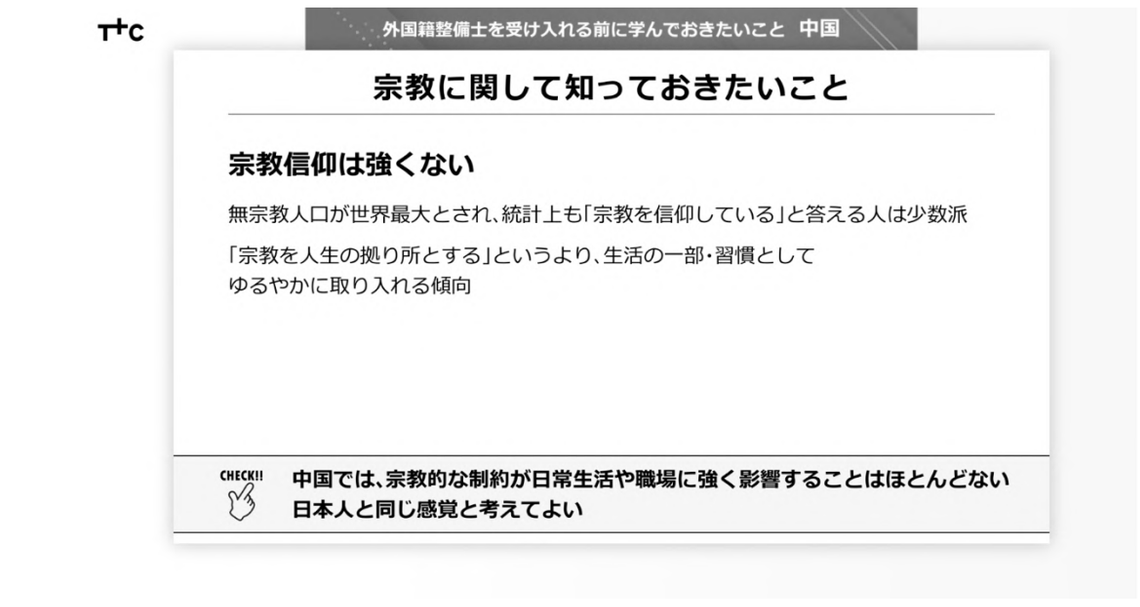
【ツァオ シャン ハオ】 （合成音声を流す）

こんにちは

【ニー ハオ】 （合成音声を流す）

感謝を伝える言葉

【シエ シエ】 （合成音声を流す）



■スライド 87

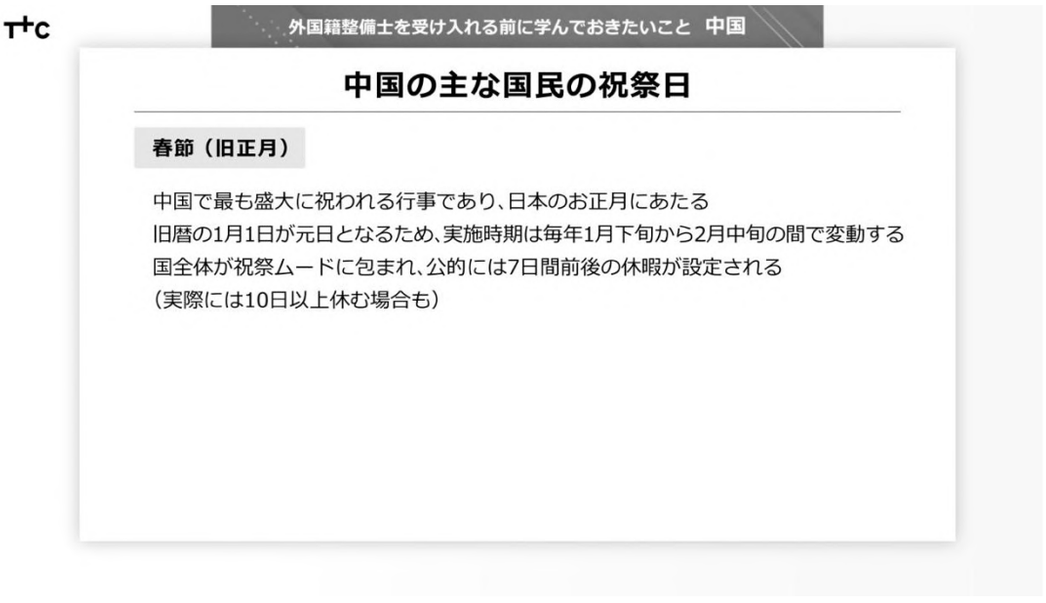
なお、中国は、宗教信仰は強くない国です。

無宗教人口が世界最大とされ、統計上も「宗教を信仰している」と答える人は少数派です。

「宗教を人生の拠り所とする」というより、生活の一部・習慣としてゆるやかに取り入れる傾向があります。

例えば、お寺にお参りして試験合格や商売繁盛を祈る、旧正月に祖先を祀る、といった形で信仰が生活習慣に溶け込んでいます。

このように、中国では、宗教的な制約が日常生活や職場に強く影響することはほとんどなく、日本人と同じ感覚で問題はありません。



■スライド 88

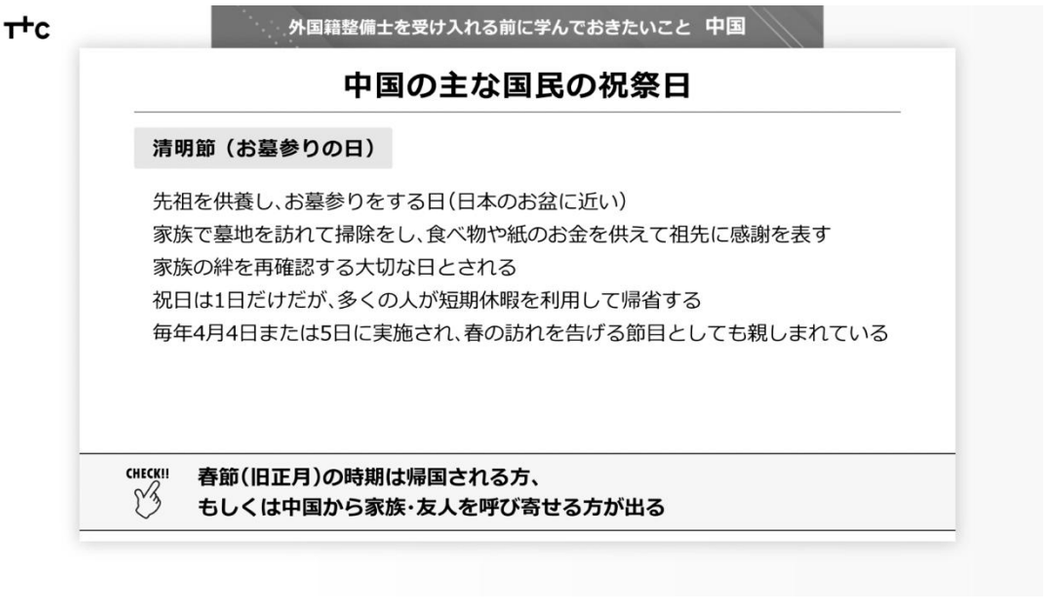
主な国民の祝祭日を見てみましょう。

まず、春節、旧正月です。

中国で最も盛大に祝われる行事であり、日本のお正月にあたります。

旧暦の 1 月 1 日が元日となるため、実施時期は毎年 1 月下旬から 2 月中旬の間で変動します。

国全体が祝祭ムードに包まれ、公的には 7 日間前後の休暇が設定されますが、実際には 10 日以上休む場合もあるようです。



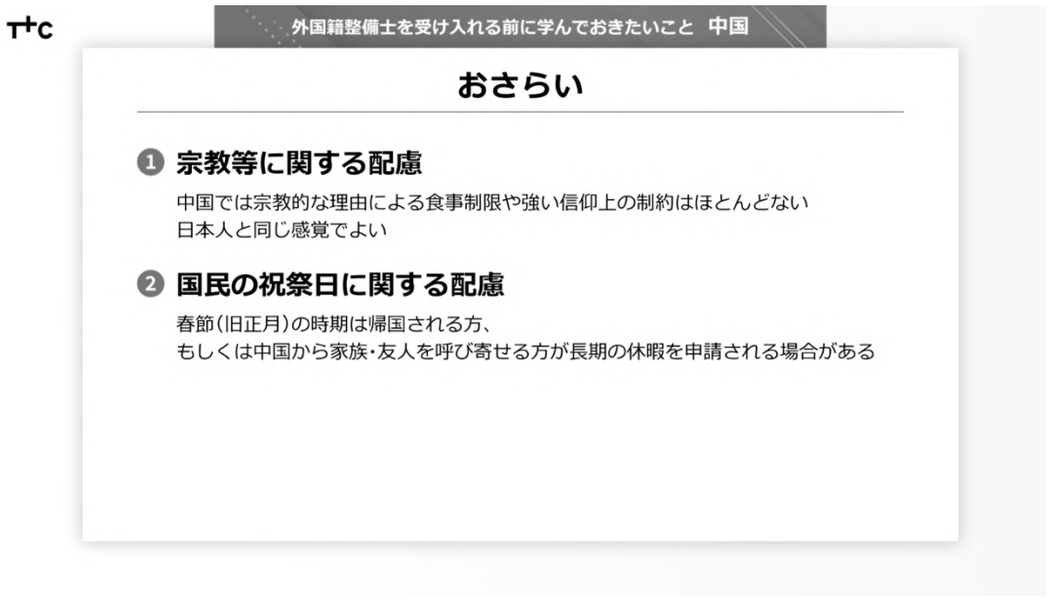
■スライド 89

そして、清明節（お墓参りの日）です。

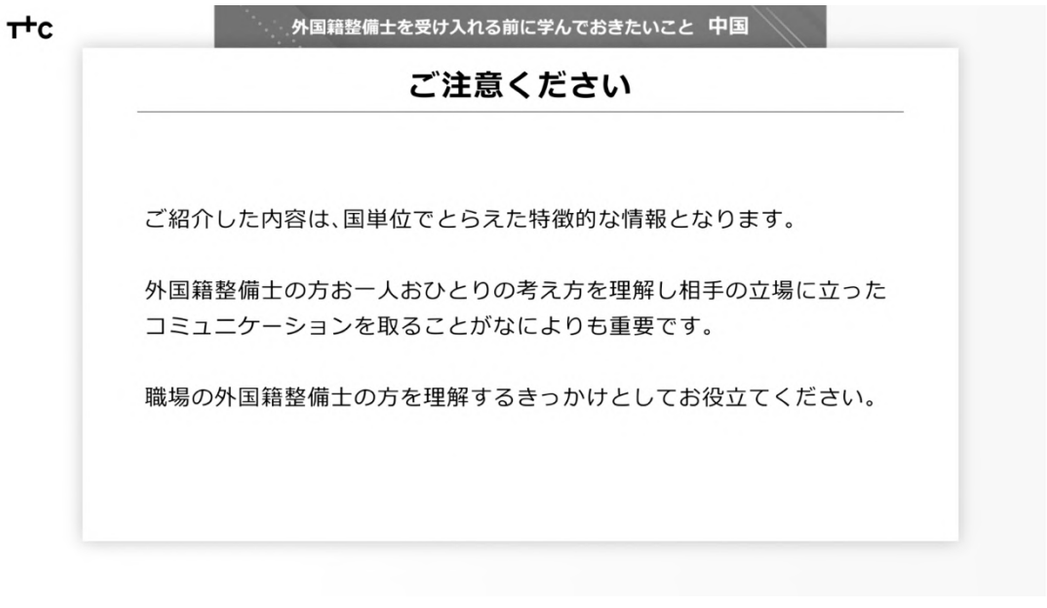
先祖を供養し、お墓参りを行う日であり、日本のお盆に近いものです。

家族で墓地を訪れて掃除をし、食べ物や紙のお金を供えて祖先に感謝を表します。

家族の絆を再確認する大切な日とされ、祝日は 1 日だけだが、多くの人が短期休暇を利用して帰省します。
毎年 4 月 4 日または 5 日に行われ、春の訪れを告げる節目としても親しまれています。
先に紹介した春節の時期は帰国される方、もしくは中国から家族・友人を呼び寄せる方が多く、長期の休暇を申請される場合があります。

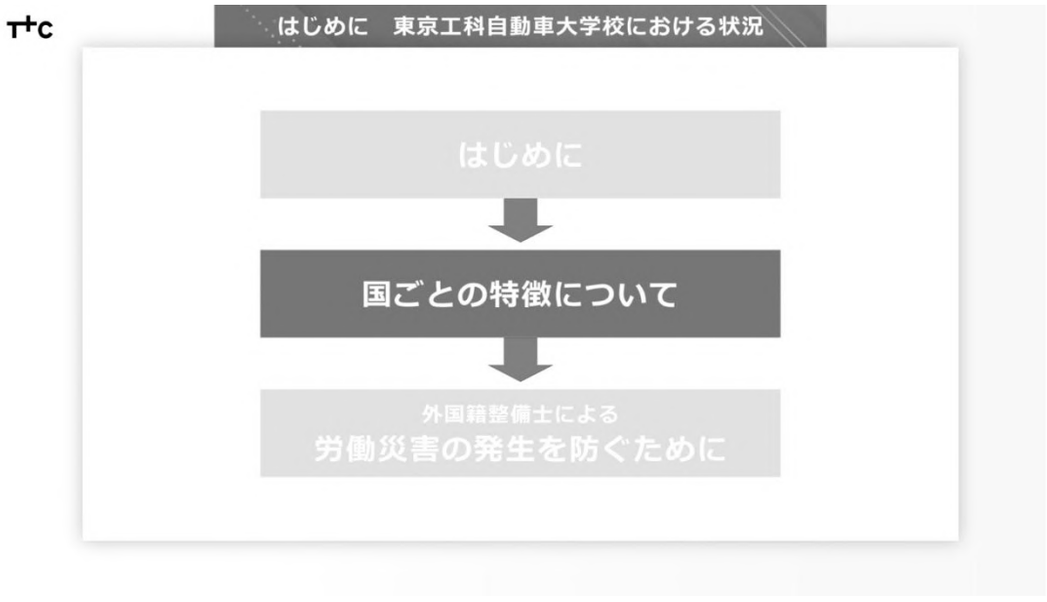


■スライド 90
ここまでのおさらいです。
中国の方への理解が深まりましたか？



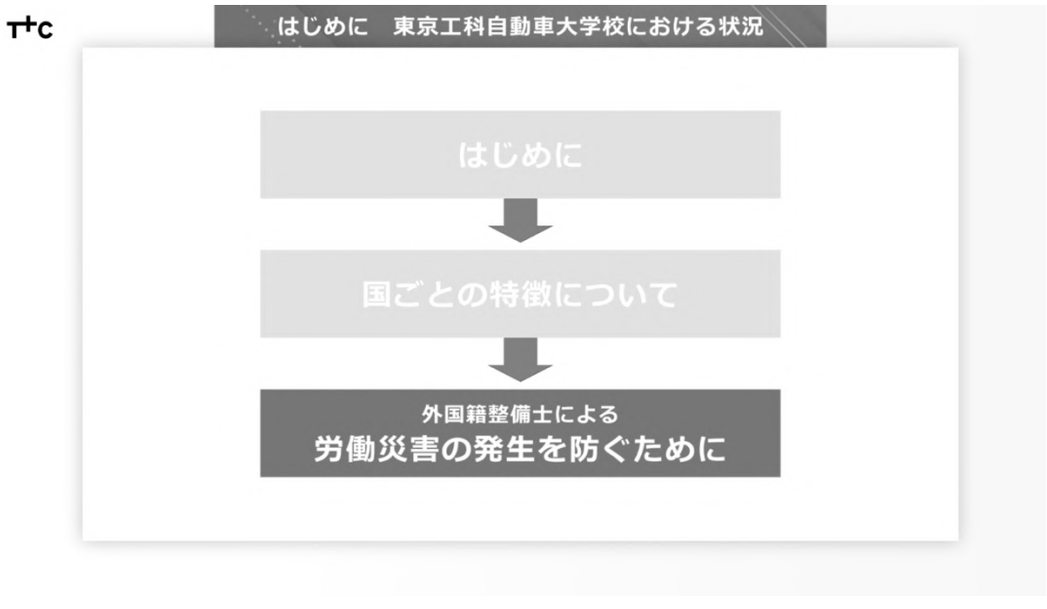
■スライド 91
繰り返しになりますが、この章でご紹介した内容は、国単位でとらえた特徴的な情報となります。
あくまでも、外国籍整備士の方お一人おひとりの考え方を理解し相手の立場に立ったコミュニケーションを取ることがな

によりも重要だという点は、押さえましょう。



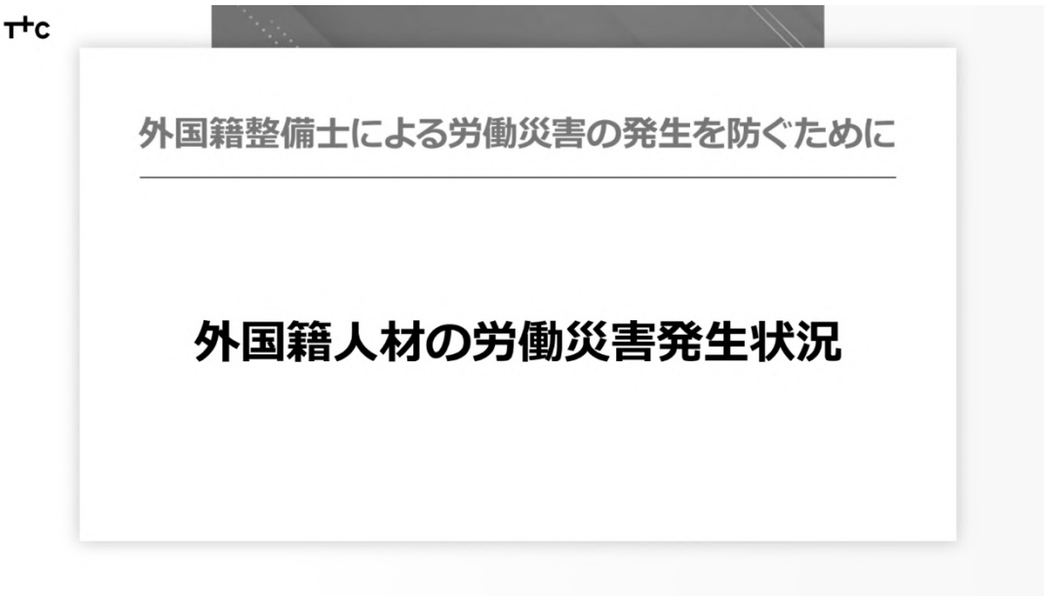
■スライド 92

以上、国ごとの特徴を見てきました。



■スライド 93

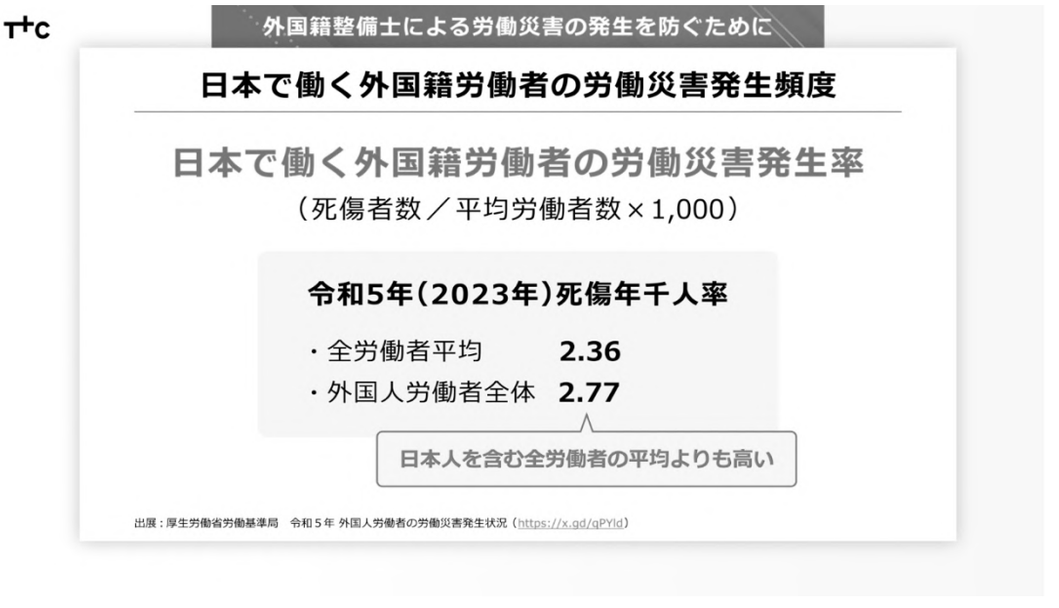
このあとは、外国籍整備士による労働災害の発生を、いかに防ぐかを考えていきましょう。



■スライド 94

外国籍整備士による労働災害の発生を防ぐために。

外国籍人材の、労働災害発生状況。

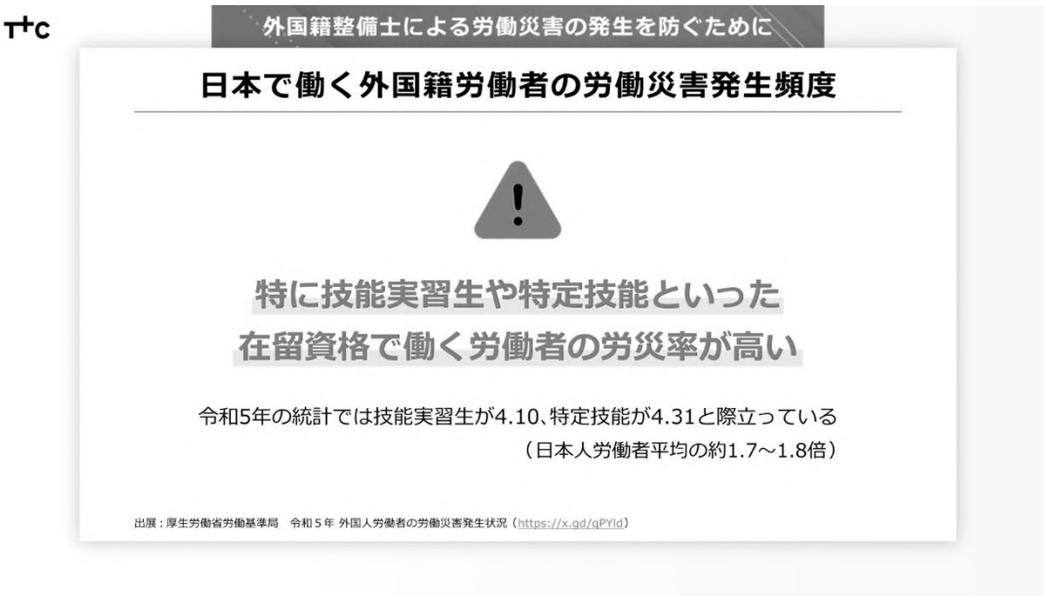


■スライド 95

ご存知でしたか？

日本で働く外国籍労働者が、労働災害を発生する確率は、日本人を含めた全労働者の平均よりも高いというデータが出ています。

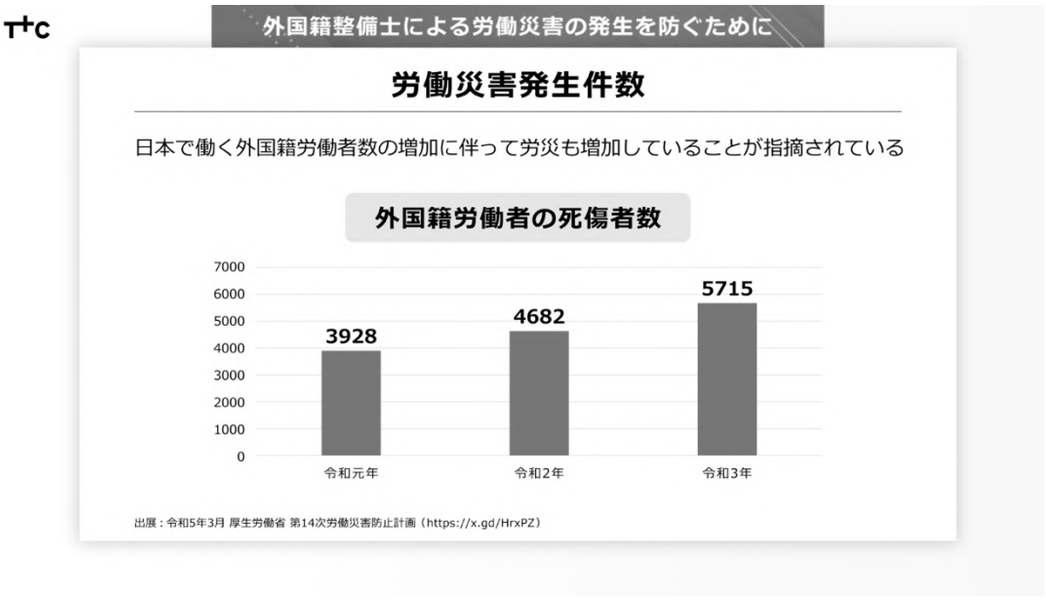
令和 5 年（2023 年）では、死傷年千人率が、全労働者の平均が 2.36 であるのに対して、外国人労働者全体の平均が 2.77 という結果になりました。



■スライド 96

特に、技能実習生や特定技能といった在留資格で働く労働者の労災率が高い傾向にあります。

令和 5 年の統計では、技能実習生が 4.10、特定技能が 4.31 と、日本人労働者平均の約 1.7～1.8 倍の数値となっています。

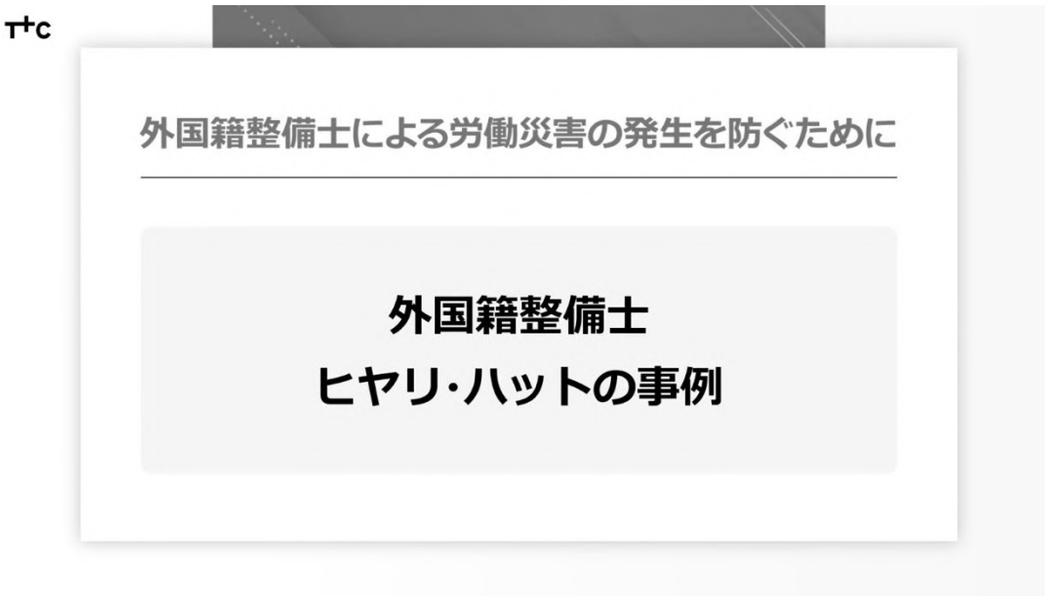


■スライド 97

日本で働く外国籍労働者数の増加に伴って、労働災害の発生件数も増加しています。

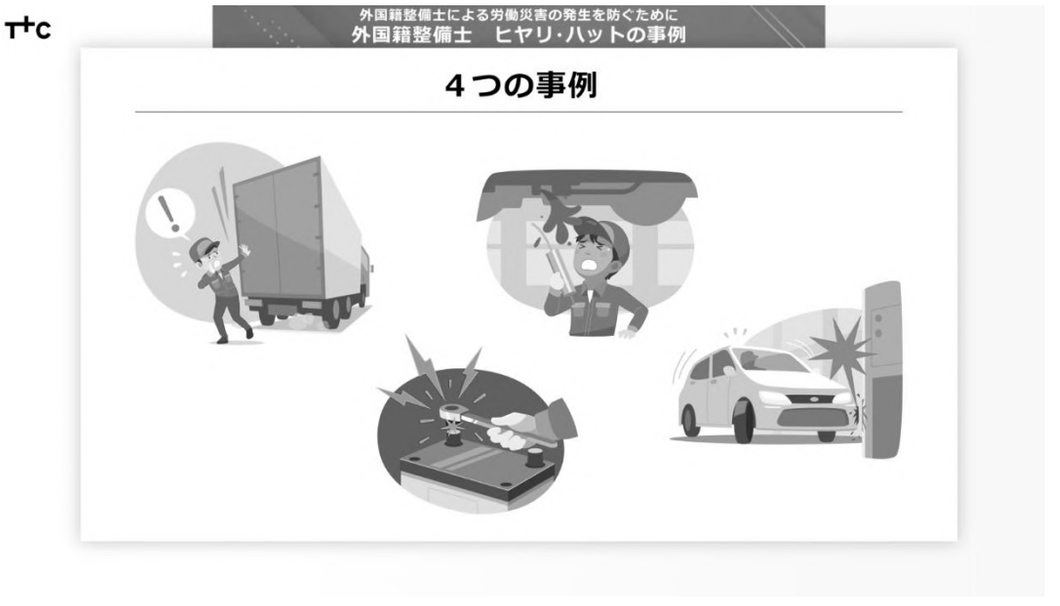
画面のグラフは、外国籍労働者の死傷者数の遷移を示しています。

このように外国籍労働者の労働災害が非常に多く、かつ、増加傾向にある事実を、押さえておきましょう。



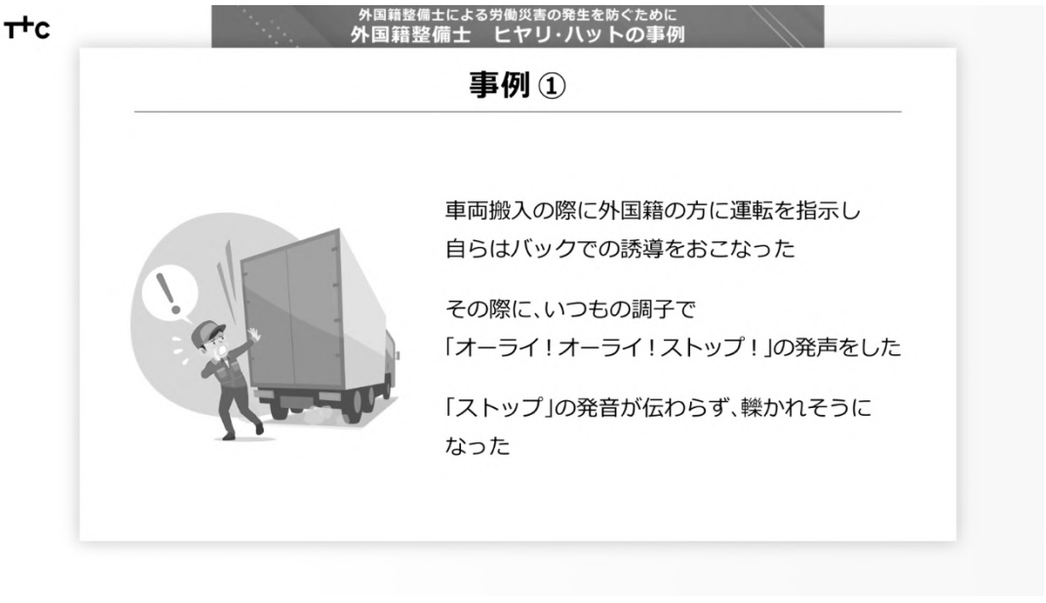
■スライド 98

外国籍整備士、ヒヤリ・ハットの事例。



■スライド 99

ここからは、実際に起きたヒヤリ・ハットの事例を、４つ紹介します。



■スライド 100

事例１。

車両搬入の際に、外国籍の方に運転を指示し、自分はバックでの誘導を行いました。

運転者が日本人の場合と同じ調子で

「ーライ！ーライ！ーストォオオプ！（※ オーライ！オーライ！ストップ！ を、現場っぽく発声する）」の発声を行ったところ、

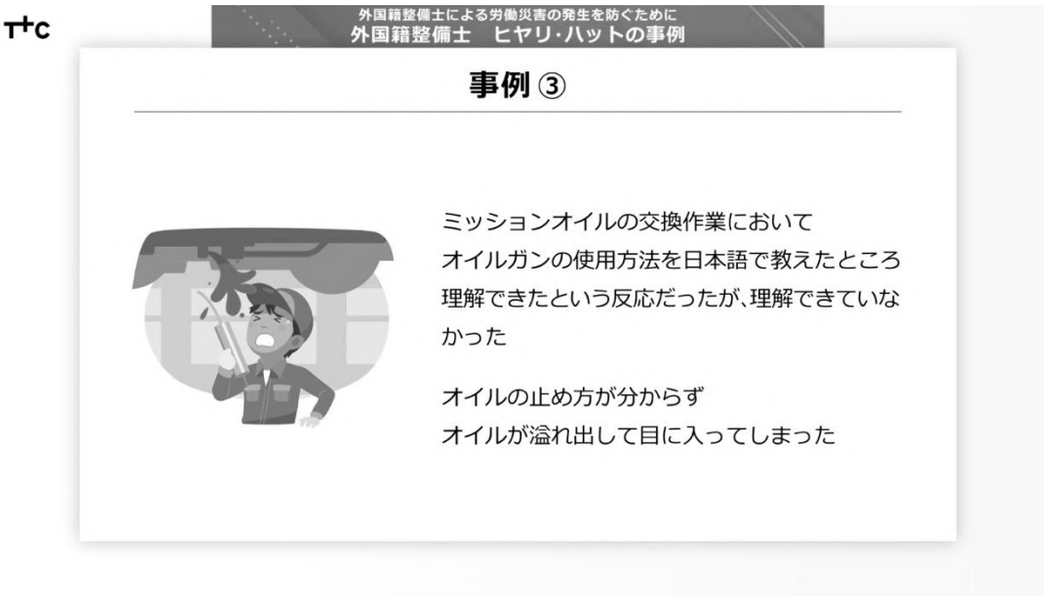
「ストップ」の発音が伝わらず、車に轢かれそうになりました。



■スライド 101

事例２。

外国籍の方に、きちんと指示をしていたものの、その日本語での指示が十分に理解できていなかったため、バッテリーのプラス端子とマイナス端子を、工具で短絡（ショート）させてしまいました。



■スライド 102

事例３。

ミッションオイルの交換作業において、

外国籍の方にオイルガンの使用方法を日本語で指導しました。

その際は、理解できたという反応でしたが、実は理解できていませんでした。

オイルの止め方が分からず、結果的に、オイルが溢れ出して目に入ってしまいました。

これは失明のリスクのある、重大な事故です。



■スライド 103

車両の取り回しに配慮が必要な狭い場所で、外国籍の方に車両移動を指示しました。

躊躇なくバンパーをこすって移動させてしまいました。

日本人であれば常識である、バンパーはこすってはいけない、という点も、説明が必要だったのです。

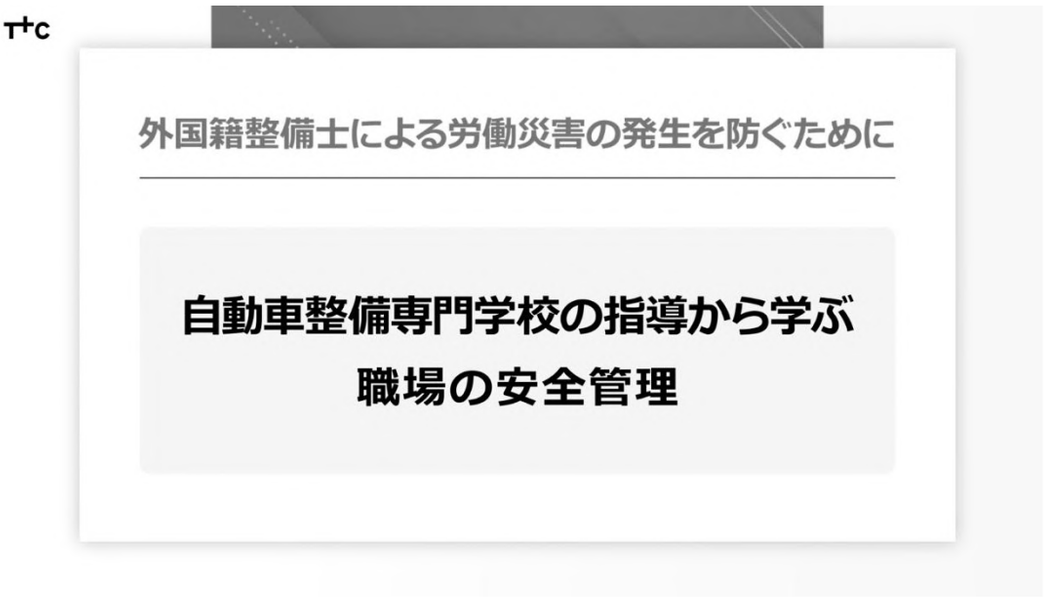


■スライド 104

いかがでしたか？

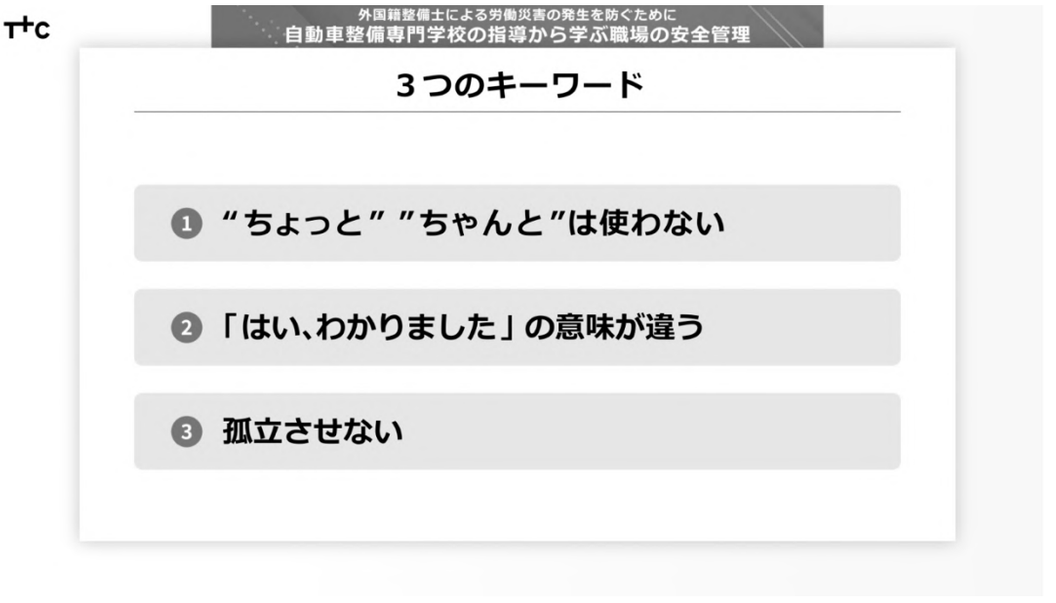
ヒヤリ・ハットという言葉では済まない、大きなミス事例もありましたね。

こういった問題を未然に防ぐにはどうしたらいいかを考えていきましょう。



■スライド 105

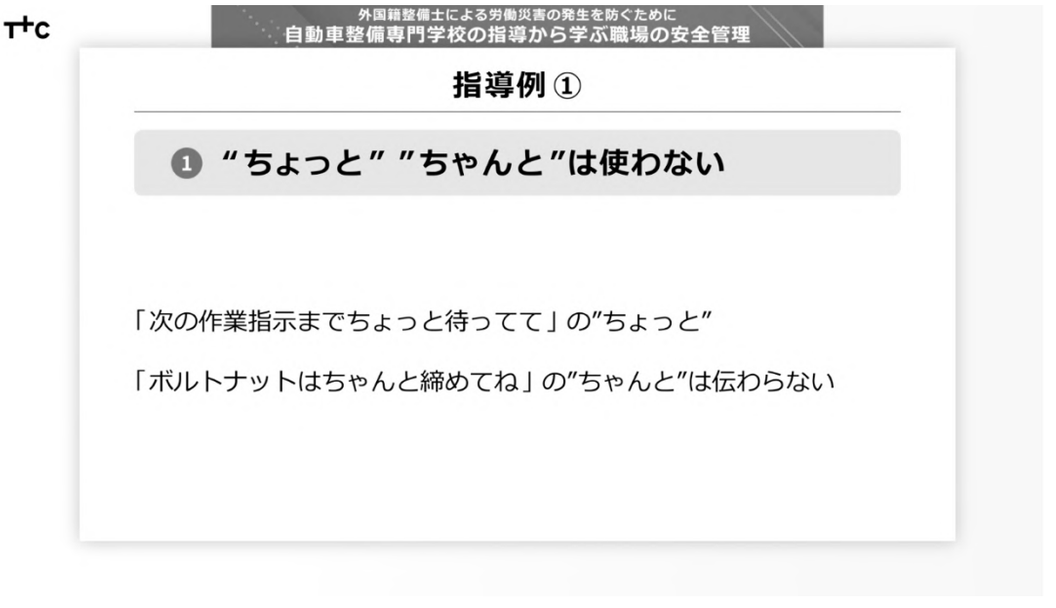
自動車整備専門学校の指導から学ぶ、職場の安全管理。



■スライド 106

東京工科自動車大学校では、外国籍の方を指導する際、３つのキーワードを意識しています。

１つずつ見ていきましょう。



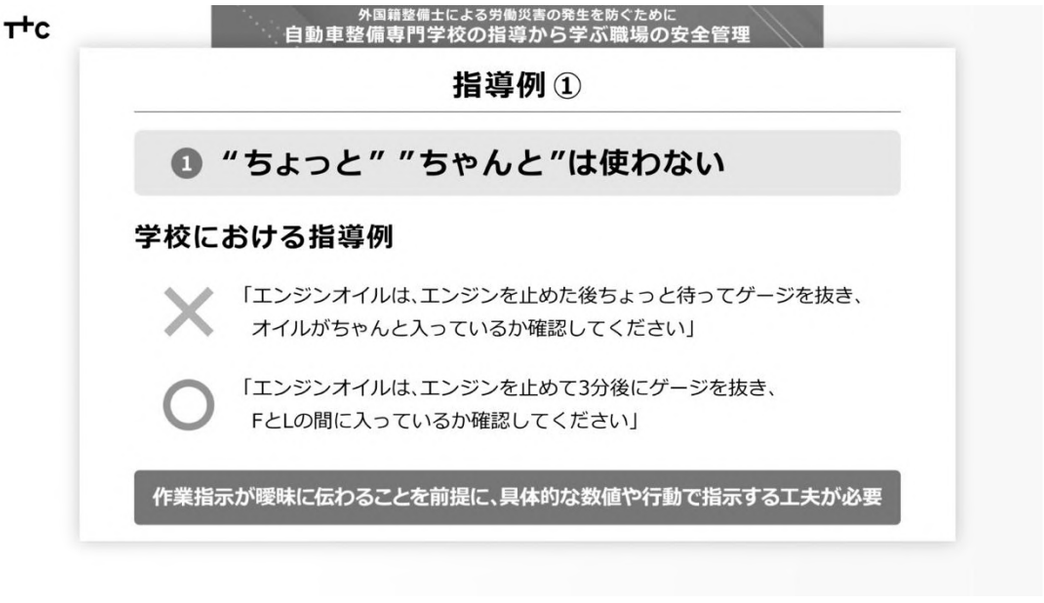
■スライド 107

①：“ちょっと” ”ちゃんと”は使わない。

「次の作業指示までちょっと待ってて」の”ちょっと”、

「ボルトナットはちゃんと締めてね」の”ちゃんと”は、私たち日本人には便利な表現です。

しかし、外国籍整備士の方にとってはとてもやっかいな表現であり、まず正しくは伝わらないと捉えましょう。



■スライド 108

悪い指導例と、良い指導例とを比較してみましょう。

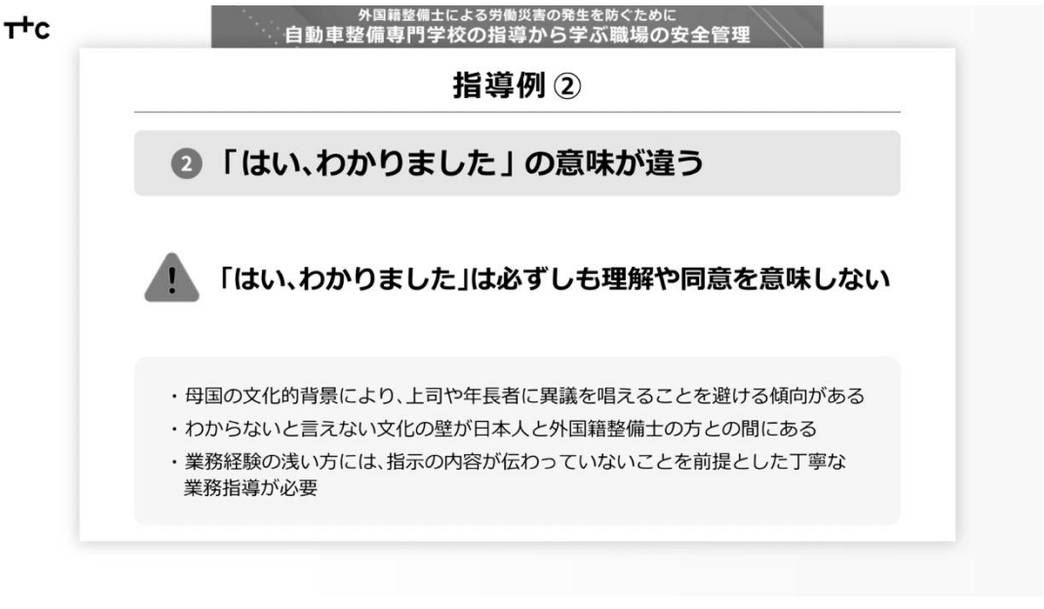
「エンジンオイルは、エンジンを止めた後ちょっと待ってゲージを抜き、オイルがちゃんと入っているか確認してください」

これが悪い例です。

良い例は……

「エンジンオイルは、エンジンを止めて 3 分後にゲージを抜き、F と L の間に入っているか確認してください」

作業指示が曖昧に伝わることを前提に、具体的な数値や行動で指示する工夫が必要です。



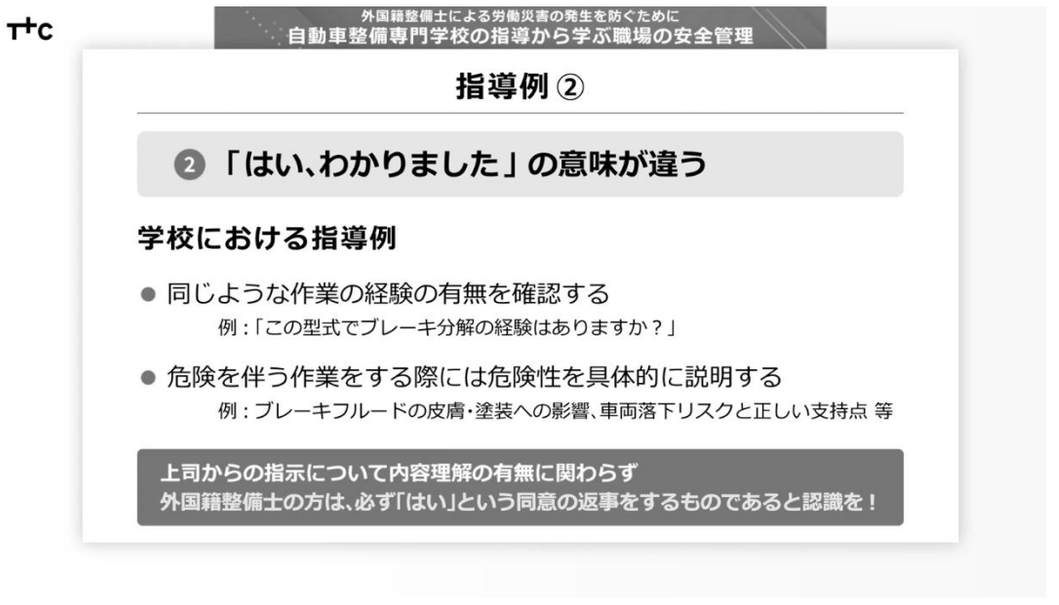
■スライド 109

②：「はい、わかりました」の意味が違う。

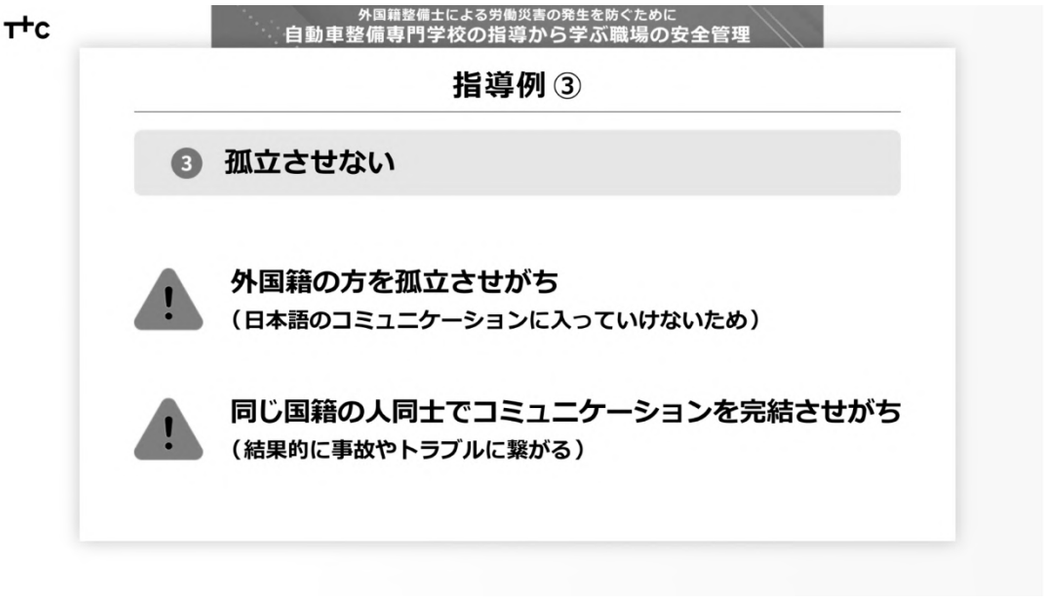
外国籍の方の、「はい、わかりました」は必ずしも理解や同意を意味しません。

母国の文化的背景により、上司や年長者に異議を唱えることを避ける傾向があります。

わからないと言えない文化の壁が、日本人と外国籍整備士の方との間にあることを理解してください。
そのような点から、特に業務経験の浅い方には、指示の内容が伝わっていないことを前提とした丁寧な業務指導が必要になります。



■スライド 110
学校における指導例です。
同じような作業の経験の有無を確認します。
「この型式でブレーキ分解の経験はありますか？」
また、危険を伴う作業を行う際には危険性を具体的に説明します。
たとえば、ブレーキフルードの皮膚・塗装への影響、車両落下リスクと正しい支持点、などです。
繰り返しになりますが、
外国籍整備士の方は、上司からの指示について内容理解の有無に関わらず、必ず「はい」という同意の返事をするものだと認識しましょう。



■スライド 111

③：孤立させない。

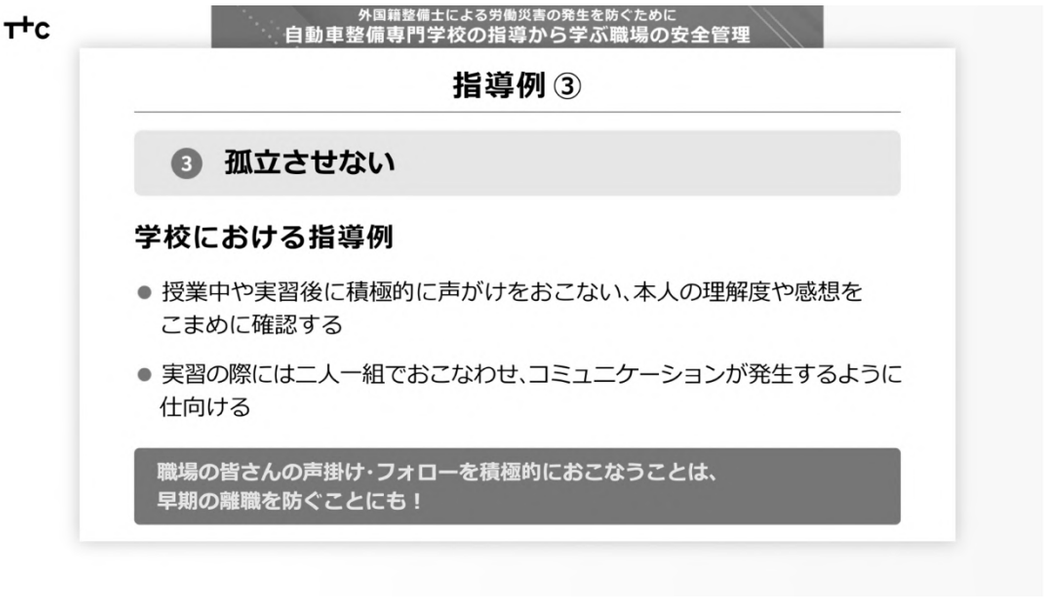
受け入れ側にその意図はなかったとしても、日本の職場は外国籍の方を孤立させがちです。

どうしても、日本語のコミュニケーションに入っていけないためです。

また、孤立ではありませんが、同じ国籍の方同士でコミュニケーションを完結してしまうケースも目立ちます。

日本人とのコミュニケーションが希薄になれば、自分の判断で作業を勝手に進めてしまうことになります。

その結果、事故やトラブルにつながるケースも頻発しています。



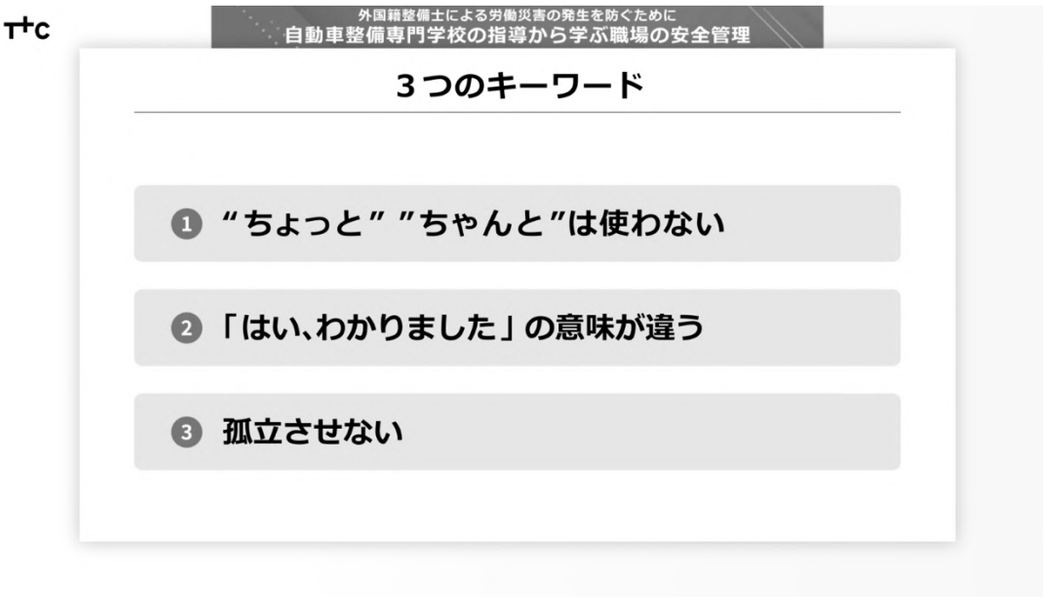
■スライド 112

学校における指導例です。

授業中や実習後に積極的に声がけを行い、本人の理解度や感想をこまめに確認します。

また、実習の際には二人一組で行わせ、コミュニケーションが発生するように仕向けています。

日本語がまだ不慣れな方は孤立しやすいため、職場の皆さんの声掛け・フォローを積極的に行っていきましょう。
こうした取り組みが、早期の離職を防ぐことにもつながります。



■スライド 113
３つのキーワード、ぜひ皆さんの職場でも意識するようにしてください。



■スライド 114
以上でこの研修は終了です。
お疲れ様でした。

本「外国籍整備士受け入れ現場のためのマネジメント研修」は、文部科学省の教育政策推進事業委託費による委託事業として、≪学校法人小山学園 専門学校東京工科自動車大学校≫が実施した令和７年度「専門職業人材の最新技能アップデートのための専修学校リカレント教育（リ・スキリング）推進事業」の成果をとりまとめたものです。

令和７年度「専門職業人材の最新技能アップデートのための専修学校リカレント教育（リ・スキリング）推進事業」専門職業人材の最新技能アップデートプログラムの開発

自動車業界における“業務に直結する”基礎知識・先端技術の習得プログラム開発
外国籍整備士受け入れ現場のためのマネジメント研修

令和 ８年 ２月発行

発行所・連絡先

学校法人小山学園 専門学校東京工科自動車大学校
〒164-0001 東京都中野区中野 6-21-16
TEL 03-3360-8824 FAX 03-3360-8805
https://car.ttc.ac.jp/

本書の内容を無断で転記、転載することを禁じます。

専門学校
東京工科自動車大学校